



朝陽



No.72
2023 June



東京都立新宿高等学校〔府立六中〕朝陽同窓会

新宿 丸港水産

北海道各地の新鮮魚貝
産地直送厳選素材を集めました



「」宴会承ります!!
人数・ご予算
ご相談ください

昼飲みにも最適!
あの頃の新宿を
楽しめる老舗
海鮮居酒屋です。



【新宿店】



御予約の際に『新宿高校OBです!』とお伝え頂ければ
お得なサービスをご用意させていただきます!

TEL.03-5367-2377

東京都新宿区新宿3-12-12 吉田ビル1・2F 年中無休

手作り
メンチカツ
メンチの鉄人

『肉汁メンチ』
お弁当お惣菜

鳥 からあげ
とり多津

元祖 東京醤油からあげ

純粋はちみつと淡口醤油に数種類のスパイスを絶妙にブレンド。
豊かな風味をお楽しみあれ。

《金賞》トリプル受賞

とり多津はさらに(紅生姜からあげ)と(チキン南蛮)も
トリプル受賞しています。

日本唐揚げ協会
からあげグランプリ
味バラエティ部門
紅生姜からあげ
金賞受賞

日本唐揚げ協会
からあげグランプリ
チキン南蛮
金賞受賞

4年連続
日本唐揚げ協会
からあげグランプリ
東日本しょうゆダレ部門
東京醤油からあげ
金賞受賞

自然薯料理
さんやく
山薬

清流庵

万能の山の薬。滋養あふれる
自然薯を様々な料理でどうぞ

株式会社エフアンドビー・プロジェクト
東京都大田区東蒲田2-30-17(サンユー東蒲田ビル2階)

代表取締役社長 織岡 陽一郎(24回卒)

朝陽七二号 目次

ご挨拶

会長ご挨拶……………15
青柳正規……………2

周年記念特集記事

卒業二十周年……………五五回生……………3
卒業三十周年……………四五回生……………10
卒業四十周年……………三五回生……………17
卒業五十周年……………二五回生……………23
卒業六十周年……………一五回生……………31

会員随筆

コロナ禍の館山寮管理人日誌……………23
下島正幹……………36
アメリカに渡って四十年……………31
石渡和恵……………40
金融を熱く変える……………34
山口省蔵……………44
新宿高校在学当時の思い出……………6
後藤俊明……………47

支部便り

朝陽USA支部便り……………31
安永正法……………51
北海道朝陽会……………31
江本 匡……………52
宮城朝陽会……………38
小田島肇……………52
九州朝陽会……………28
小林 牧……………52

同期会報告

四二回生同期会……………42
田角(千葉)由香……………53
七回生同期会……………7
宮岡(青山)淑子……………54

母校便り

学校長所感……………藪田憲正校長……………56
母校便り……………塚田雅人前副校長……………56
教職員異動……………57
進学実績……………58
創立百周年記念式典……………59
部活動紹介(チアリーディング部)……………長井正徳……………60

事務局便り

令和四年度書面総会報告……………事務局……………61
同窓生支援活動……………事務局……………61
母校支援活動……………事務局……………61
寄贈図書一覧……………事務局……………62
新規事業案のお知らせとご案内……………事務局……………63
会費納入状況……………事務局……………65
令和五年度総会議案……………事務局……………66

議案一 役員人事

議案二 二〇二二年度事業実績

と決算

議案三 二〇二三年度事業計画と

予算および資金収支計画

財団朝陽会財務諸表……………事務局……………74
賛否表明用紙……………事務局……………75

戸山對抗戦

ゴルフ交流戦……………事務局……………77

恩師訃報・追悼文

弔辞 戸田洋一先生……………29
安藤 宏……………78
弔辞 大西 安先生……………20
坪内園子……………79
訃報……………事務局……………80

広告・目次

エフアンドビー・プロジェクト……………表2
会費納入のお願い……………2
名刺広告……………35
0会告知記事……………50
グリルシャトー……………50
焼き肉酒家李苑……………50
名刺広告……………64
京王プラザホテル……………71
同窓会SNSのご案内……………80
株式会社ゼンショー……………表3



会長ご挨拶

百周年の今昔

同窓会長 青柳正規（一五回）



昨年十月二三日、
新宿高等学校創立百
周年を記念する式典
が開催されました。

典のため在校生全員が一堂に会することはできませんでしたが、百周年という長大な時の流れにふさわしい式典に参加することができ、改めて在校時のさまざまな出来事が思い出されました。高度成長期の只中にありながら、活況を呈している社会状況が当たり前にか認識できなかった若さと鈍さに一抹の寂しさを感じました。そして現在の私たちをとりまく状況の特異さを今更のように驚かざるをえませんでした。本校の前身である東京府立第六中学校が開校したのは大正十一年、一九二二年のことでした。人類史上未曾有の千六百万人以上が死亡する第一次世界大戦が終わって四年後です。世界中が好景気に浮かれていた時代ですが、大戦が終わる頃から始まるスペイン風邪は世界人口の三割もの人々が感染し、千七百万とも五千万ともいわれる犠牲

者を出していました。

開校の翌年には関東大震災が起こり、対戦中の戦時需要も終わり、やがて昭和恐慌を迎え、世界がブロック経済化していく中で新たな大戦に突入していききました。いまだに沈静化したわけではありませんが、新型コロナウイルスが発生してから三年以上が過ぎた現在、アントニオ・グテレス国連事務総長の「第二次世界大戦以来、最大の試練」という言葉を今一度胸に刻み込みたいと思います。というのもその間にロシアによるウクライナ侵攻という人類の歴史を一九世紀にもどしたかのような事態さえ起こってしまいました。

百年前の開校時と恐ろしほどに似ている世界状況の中で、よりよい国際社会に転換することを望むしかありませんが、新宿高校に学ぶ後輩たちが困難な時代であってもそれぞれの可能性を十分に発揮して、満足のいく人生を送ってほしいと心から願っています。そのために私たちの世代ができることはごく限られています。身の回りの小さな出来事一つ一つが世界の平和につながるよう心がけて行動していきたいと思えます。そして在校生全員が一堂に会して百周年、百二十周年の記念式典を祝う時が必ず来ることを心から祈念します。

同窓会費納入のお願い

皆様からいただく同窓会費は、同窓会活動に必須の血液です。血液不足で活動不全に陥らぬよう、今年もまた会費の納入をお願い申し上げる次第です。

なお、大変恐縮ではございますが、2020年度の紙上総会にて「寿会員制度」は廃止されておりますので、従来の寿会員に該当する方々にも会費の納入をお願い申し上げます。

☆会費の種類

- ①年会費…2,000円
- ②長期会費…10,000円（6年間有効）
- ①または②のいずれかをお選びいただけます。

☆会費の免除

- 卒業時又は入学時に入会された会員は卒業後5年間は納入免除です。今年71～75回生の方々が該当します。
- 現・旧職員〔特別会員〕は納入免除です。

先生編

あの頃

A組担任 三浦 吉明

この学年は私が新宿高校で二回目に担任した学年である。年上の佐々木(虔)先生と後藤先生がおられたが、私が主任を務めさせていただいた。両先生をはじめ担任の皆さんの協力を得て、楽しい三年間であった。

たくさんある思い出のいくつかを上げてみたい。一年の時は館山の水泳教室である。今回はボートを漕ぐことを習った。最初は上手く漕ぐことができず、泳いでいる生徒に、「先生、危ないよ！」と怒られていたが、最後には自由に漕げるようになった。ボートで漕いだのはそれが最後であるが、身体で覚えたものなので、今でも漕げるだろうと思っている。二年の時では、我がクラスの朝陽祭。朝陽祭の一、二日前、演劇の主役和田君(現在は医学系の研究者として米国在住)が変わった帽子をかぶって登校。注視の中、教室

を見回した後パツと帽子を取ると、彼は「アラジン」の頭になっていた。クラス全員ビックリすると共に大爆笑。その後はクラス全体大盛り上がりで、演劇はもちろん大成功であった。三年時も朝陽祭。F組の「白雪姫」である。舞台の中心後方に新田君が中心で作った馬車が置かれていた。「よくできた馬車だな！」と感心していたが、劇の最後に馬車が「カラカラ」と軽快な音を立てて退場した時は、世田谷区民会館の観衆の大喝采であった。

このような有能で多彩な生徒達と一緒の三年間は楽しい思い出である。その彼(女)らも間もなく四十代、現在コロナやウクライナ問題など困難な世界情勢の中ではあるが、健康に注意して社会の一員として活躍をしようとしている。

私の現況であるが、退職後中国の書籍の翻訳・出版をしており、今春四冊目を上梓の予定。また、最後の勤務校日比谷高校資料館所蔵の和漢書の整理を行い、将来的には蔵書目録を作ることを目標としている。その他古文書講

座に出たり、様々な講座を聴講したりして、できるだけ家に籠もらないようにしている。

自分の趣味としてはドライブ旅行がある。新宿高校在職中から、自分で車を運転しながら日本中の神社仏閣を巡って御朱印を頂いていたが、今は道の駅のスタンプを押しながら日本国内を廻っている。現在、まだスタンプを押ししていないのは、約二千駅中五十駅をきっているが、それらは新しく作られたところが多く、かつ全国に広がっている。三年前に前立腺腫瘍の手術を受けたが、幸い後遺症はないので、自分で運転できる限りは、安全運転で、これから新しくできる道の駅も含めて、我が国の良いところを探して、日本中を廻りたいと思っている。

学び続ける意欲を大切に

D組担任 溝口 悦子

高校卒業後二十年、五五回生は社会の中堅として、ご活躍のことと思えます。

私は二〇〇〇(平成十二)年春、新宿高校に着任と同時に、一学年の担任

を拝命しました。夏の臨海教室の遠泳では、E組と組み、参加者全員がゴールまで泳ぎきるといふ、歴史的瞬間に立ち会うことができました。これは体育科の先生方や水泳部卒業生の支えがあつてのことと思います。

私が勤務した都立高校のなかでも、新宿高校は断トツに行事の多い学校でしたが、個人的には合唱コンクールが強く印象に残っています。各クラスが真剣に練習を重ね、日を追うごとに上達していく様子が、音楽など門外漢の私にも、伝わってきたからです。今でも偶然、「遠い日の歌」（一年次課題曲）や「心の瞳」（二年次課題曲）を耳にすると、あの頃の記憶が鮮やかに蘇ってきます。みんな今頃どうしているだろうか。

学習面について触れると、当時新宿高校は進学重視型単位制高校を目指し、新たな局面を迎えていました。国語・数学・理科・英語には習熟度別授業が取り入れられ、また各教科で、早朝、放課後、長期休業中の補習時間が激増していました。三年生になった五五回生に対し、私が放課後週一回、英語の大学センター試験（現共通テスト）対策講座を開講すると、学年の七割近

くが受講希望。各人の学ぶ意欲には圧倒的な熱量を感じましたが、手狭な旧校舎で、補習場所を確保するのに苦労しました。

思い返せば、五五回生は入学式から卒業式まで旧校舎で過ごした、最後から二番目の学年であり、エアコンが無いなど、設備にはあまり恵まれていませんでした。せめて短期間でもよいから環境の整った新校舎で、より快適な高校生活を送ってもらいたかったと、思うことしきりです。

さて、私自身は定年少し前に都立高校を退職後、都内、複数の大学の教壇に立つ機会を得ました。時事英語、TOEIC、ビジネス英語等の科目を担当しましたが、例のコロナ禍で授業形態は一変しました。対面授業は一挙にオンライン授業に切り替わり、 Moodle やブラックボード等のオンラインシステム（大学によって異なる）を通して授業を実施するようになりました。この晴天の霹靂ともいえる未曾有の事態に、「私にもできるのだろうか？」と、不安になる一方。パソコンには、相当振り回され、泣かされましたが、対面授業が再開するまで、ITスタッフの方々に積極的に教えを請い、かる

うじて、難局を乗り切ることができました。

先行き不透明で、何が起こるかかわらない社会に向き合うには、学び続ける意欲を絶やしてはならないと、身をもって感じました。

自戒の意味も込め、表題の言葉をもつて、五五回生へのエールとさせて頂きます。

あつと言う間卒業二十年

F組担任 佐藤 浩司

五五回生の元生徒のみなさんも卒業から二十年が経ち、社会の中堅として毎日忙しく充実した日々を過ごしていることと思います。私が新宿高校へ赴任したのは一九九九年三八歳でした。今の皆さんと同じ歳です。

二〇〇〇年に五五回生を担任として迎え、四月に飯盒炊爨の遠足がありました。その実地踏査は、勝田先生と二人で行ったのですが、現地のスギ花粉が凄くて、それを浴びた勝田先生がその日から花粉症になったことを思い出しました。当日はみんなでカレーを作って、どの班が一番おいしくできた

かコンテストをしましたね。夏は館山の臨海教室、泳げなかった生徒がココで泳げるようになり、最終日の遠泳までやりきったのは驚異的でした。私は手漕ぎボートで支援、遠泳を見守っていたのですが、離岸流が何かのため、生徒たち全員が沖にかなり流されてしまいました。それでも生徒たちは懸命に泳ぎ、誰ひとり脱落せずに全員が完泳できましたね。これを祝って、その日の夜は私と勝田先生で芸を披露したのですが、覚えていますか？

二〇〇一年は二年生、学園祭での演劇は忘れられない出来事でした。演劇は世田谷区民会館でした。我がクラスでは白雪姫の馬車を夏休みに作ったのですが、大作過ぎて学校が用意した車では運べない。仕方ないから業者に運んでいただきました。

そして始まった我がクラスの演劇、その終盤になって私に舞台へ上がれと言うのです。事前に聞かされていなかったのです。ほぼパニックになりましたが、演劇を止めてはいけないと思いがあって踊りましたよ。まんまと生徒の策略に嵌まりまくりました。

修学旅行は京都三連泊、聖護院御殿荘、宿の人が一列に並んで生徒をおも

てなしする姿に皆びっくりしてしまいましたね。

二〇〇二年は大学受験生、学園祭ではビーチの雰囲気を出すとかで教室に砂を撒いていましたね。廊下まで広がっていると他の先生から苦情が来ましたが、私は後片付けを心配していましたが、それは無用でした。終わればきれいに清掃して片づいていました。

受験期でも学園祭はしっかり楽しみ、終われば受験に専念する姿はさすがでした。五五回生は大人になった今も切り替えが出来るところは変わりがありません。

生徒編



二〇〇〇年の高校生

A組 亀田 祥世

私が新宿高校に入学したのは西暦二〇〇〇年、二十世紀最後の年でした。世界中のコンピュータが誤作動するかもと言われていた二〇〇〇年問題も無事に過ぎ去って、ミレニアムとか新しい世紀の訪れに湧き立っているような頃でした。新宿高校に入りたと思うたのは、地元世田谷で物心つく前から

お世話になっていた家のお姉さんが新宿高校に通っていたからだっと思ったと思います。お姉さんと遊んだ記憶はほとんどないけれども、たぶん憧れの存在だったのです。

部活は音楽部と美術部と放送部に入っていて、図書委員もやっています。音楽部の活動がある日は夜まで南口改札の前で部活のメンバーで立ち話をしていました。その時間がとても好きでした。放送部では下校放送のアナウンスをさせてもらったり、部室で昔の先生が作ったインギンチャクの歌のカセットテープを聴いたり、好きな音楽のCDを聴いていました。美術部では美大に進む先輩方もいましたが、私は美術史を学びたくて、東女の哲学科に進学しました。

二〇〇〇年問題が過ぎ去って我が家では当時はソニーが発売していたVAIOのブランドのノートパソコンを家族共有で使っていました。家のインターネットはダイヤルアップで、接続時に電話をかける仕組みでした。まだまだインターネットが一般家庭に広まり始めた時代で、テキストサイトというのが流行っていて、中国で開発された「先行者」という衝撃的なロボット

の情報を知り、インターネットは本当にすごいなあと思ったものです。Yahooのジオシティーズというホームページを無料で作れるサービスがあり、HTMLを自分で書いて、好きなアーティストの画像を貼り付けたりしていました。当時のアカウントは分からなくなつて、ログインできなくなつていたので、先日よりやくサービス終了とデータの消去がされて、ほっとしました。

そんな私も今はインターネット関連サービスの会社で情報セキュリティを専門にして働いています。二〇〇〇年当時には想像もつかなかつた業種ですが、新宿高校の自由な校風があつたからこそ新卒で入つた会社を辞めて転職すると言う決断もできたと思います。

卒業二十周年の今、思うこと

A組 吉野（石塚） 真生

卒業して二十年。

この朝陽への寄稿に何を書こうか悩んでいたが、ひとまず思うがままに書いてみようと思う。

今の私の生き方や考え方の根底にあ

るのは、この都立新宿高校で過ごした三年間が多大な影響を与えているといつても過言ではない。

それまでの小学校中学校義務教育の九年間は、自分で選んだわけではなくここに行きなさいと言われて通い、楽しいこともあつたと思うがどちらかといえば心が疲れてしまうような出来事に遭遇することも多く苦しかったり悲しかったことの印象が強く残っている。初めて自分で行きたい学校を選びそのために努力して勉強した。思えばあの時が人生で一番勉強していたと思う。そのくらい、私にはこの学校しかないと思わされる何かがあつた。

入学してから驚いたことは、今思えばそれが人として当たり前のことなのだけど人の容姿や、運動、勉強の不出来で人を見下したりする人がいないこと。自分とは違う考え方を許容し認め、共存するということ。厳しい規則はなく自由な校風。それまでの学生生活にはない居心地の良さがあつた。ここでの三年間は運動部に所属するとか、バイトをするとか、毎朝満員電車に耐えて通学するとか、授業をさぼるとか（これはよくないけど）とにかく色々な初めてのことを経験することができ

た。

心の底から本音を言えるような間柄の友人ができた。辛かったら頑張りすぎないこと、逃げることも選択肢の一つということも学んだ。そして、反省はしても後悔はしないという私の中の座右の銘も生まれた。何が正しくて何が間違いかそれすらもわからない今の世の中でもあの三年間があつたから私は今も変わらず楽しく生きていられる。選択をするとき決めるのは自分だし

その選択に後悔のないように生きる。今の時代は生きにくいと感じることも多いかもしれないけど。自分で決めて自分で行動する、誰も自分の人生の責任なんてとつてくれないので自分のやりたいように生きていきたい。

ただの自分語りになつてしまつたがまあいいか。つまり新宿高校めっちゃよかつたつてことで、これにて寄稿文、完結。



思い出

F組 岩崎 太郎

月日が経つのは早いもので、卒業から二十年が経過したそうさ。あつとゆう間と感ずることもできるし、山あり谷ありの長く険しい道のりであったと思ふこともできる。そんな過去を振り返る時、自分はこれまでそれぞれの物事に対して最適な選択をしてきたと思えていゝ。それはこうして長い時間が経とうとも（少数だが）友人たちと繋がり続け、さらに愛する母校は姿を変えても、世界に誇るターミナル駅のすぐ近くに今でもそびえている。ある一部分を切り取れば、それは何も変わらず存在している。意識した時でも、無意識にも自分の拠り所となつていゝ。それらには「ありがとう！」と言いたい。

新宿高校の大きな行事の一つに遠泳があつた。必死に完泳した思ひがある。当日は気温が低いこともあり、必死だつた。お小水だ。我慢した。泳ぎながら用を足せばよかつたし、そんなアナウンスも事前に先生からあつたはずだ。後悔だ。もう一つある。先ほど卒業アルバムを紐解いた時だ。高校生活の思い出があふれている。そこには我々のクラスの集合写真もあつた。若き日の自分もいたが、そんなことよりなにより、目立つ奴がいた。モヒカン頭だ。しかもハードな感じだ。後悔した。あの時一緒にモヒカンにしていたら、アルバムを開くたびに少しはインパクトを与えることができたじゃないか。後悔だ：いやいや、当時の自分にはちゃんと「その選択は間違つてなかつたよ」と言いたい。

「挑戦せず後悔するより、やつて後悔した方がいい」みたいな時に受ける後悔は大きいはずだ。しかし、小さな小さな後悔の話なら会話のネタ程度になる。そうさ、そんな小さな小さな後悔が今この瞬間、筆が進まなかつた自分にネタをくれ、助けてくれたじゃないか。だから言つておきたい。時空を超えて、クスツとひと笑いをくれるモヒカンだつたあなたに。「ありがとう！」と。お後がよろしいようさ。

双子の妊娠、出産、育児

F組 加々美（伊藤）友璃子

コロナ禍で双子を妊娠し、出産した。双子だと医師から聞かされた時、「えっ、困ります！」と言つてしまつた。高齢出産、初産、双子。加えて夫の転勤に付いて福岡に住んでいたため、周りに頼れる人もおらず、それは多胎児を育てるには大問題に思えた。

悩んだ末に、住み慣れた東京での出産を選んだ。双子の場合一人だけ退院、一人は病院に残り、その子に母乳搬送をしなければならぬ例も知り、人手の必要性を感じてそう決めた。

医師からは双子のリスクについて諸々説明があつた。妊娠中の一児死亡のリスクがあること。一方に栄養が偏つた場合、原因となる血管をレーザーで焼き切る処置をすることがあること。また、双子は単体児よりも早産、低出生体重児の割合が高いこと。予定日までお腹にいると母体に負担がかか

ること。出産時もトラブルが多いことなどを聞かされた。双子は異常妊娠、ハイリスク分娩。妊娠中の異常も起きやすい。途中で管理入院となり、三ヶ月ベッド上で過ごす人もいるらしい。説明後に渡された重い内容の割にペラペラな紙を帰宅してから何度も読み返した。

双子の妊娠報告も、「大変だね」と言われることが多く、嫌になりやめた。弟だけは「双子なんだ。愉快だね」と言ってくれた。愉快と言われれば、そんな気もして少し明るい気持ちになった。

双子について調べては不安になった。身内が新聞の切り抜きを送ってくれた。「助けて、多胎育児」のタイトルがあり、多胎児を育てる母は外出もままならず孤立しやすいこと、虐待してしまいう割合や、産後鬱に陥る割合が高まることなどが書かれていた。「乳児期の双子を育てながら取れた睡眠は、一週間で二時間だけだった」と経験者のお母さんの記事にも驚いた。

最終的には腹囲は一〇〇センチを越えた。コロナに感染もせず、早産は免れ、管理入院にもならず、計画分娩の三七週まで実家で過ごした。

無事に産まれたのは良かったが、産後は身も心もヘトヘトで、「寝たい、辛い、腕が痛い、帝王切開の傷も痛い、夜泣きしないしてほしい、とにかく寝てほしい」とばかり思った。保育器に入らず、同時退院できたが、休む間もない母子同室、待ったなしの帰宅後の育児を考えると、自分の場合は子どもとは別々に退院して母体を休ませる方がいい気もした。

病院では同時授乳も習ったが、自宅で一人でできる気がしない。とにかく疲れていたので、一人のお世話を終えると休憩が取れる単体児のお母さんが羨ましかった。

二・一キロ、二・二キロの息子。平均三キロ程の周りの単体児の赤ちゃんより明らかに小さい。申し訳ない気持ちになった。小さく産まれると、哺乳力が弱い。一度にミルクをたくさん飲めない。頻繁に授乳をしなくてはいけない。それが二人分になる。初めての育児に手の抜きどころも分からなかった。

退院直後からは、とにかく多くの助けを得るしかなく、どうにか生き延びた。一歳を迎えるまでは人生で最も辛い一年間だった。結局、福岡には戻れ

ない、東京で暮らし続けたい、という希望は、夫の会社の有り難い人事異動により叶うことになる。辞令が出たと聞いた時は、心底ほっとした。

双子用の横並びベビーカーはとにかく目立つ。通りすがりに振り返られることも多い。二人を楽々運べる、一六キロあるベビーカー。目立つお陰で双子のお親御さん、孫が双子だという方々がよく暖かい声を掛けてくれた。

「妻が双子を妊娠してただけど、八ヶ月の時に死産しました。難しいんですよね。双子の妊娠、出産は」と辛いことを打ち明けてくれる方もいた。

二人が二歳になった頃、初めてバスに乗った。乗車は直前まで迷ったが、前例を作らなければ、という謎の使命感があった。双子ベビーカーは後ろの降車口から乗るルールらしい。ベビーカーを畳まずに前からは乗れないし、畳んだら最後、荷物と双子とベビーカーを抱えて、そもそもバスに上がれない。降車口から乗ろうとした時、バス停で前に並んでいた男性が、バスの中で待ち構えていて、引き上げ助けてくれた。そして終点では同じ男性がまた私達を受け止めるように先回りして下で待っていてくれた。お礼を繰り返

し言うことしかできず、バスが走り去った後、その場で涙が溢れて止まらなかった。

二人には外出することを「冒険に行く」と伝えている。これからも冒険は続く。どんな冒険になるのだろうか。

二人の名前は、似たような名前にはしなかった。また、どちらかと言えば男の子だが、女の子でもおかしくない名前にした。漢字を見れば男の子かなと思うような名前だ。

いつか二人が、もしくは一人が「実は自分の性に違和感がある」と打ち明けてくれるようなことが起きたら、「そうなんだ。そんなこともあるかもしれない」と思って名前を付けてるから」と何てことないように伝えてあげたい。その時に動揺して何も返せなかったのなら、後からでもそう言いたい。

ペロティも可愛いよね

F組 新田 修一郎

可愛らしい響きの印象が残っているだけで、新宿高校のあの場所を示す言葉であり、卒業以来聞いたことも、ま

してや使ったこともない言葉。やはりと言うべきか、英語ではなく仏語であった。pilotsは柱を意味するようで、そこから一階部分に壁がなく柱のみによって支えられ、外部と繋がっている空間を指す言葉になったようだ。まさに、あの場所である。

寄稿依頼の作業の折、「朝陽」を覗いていると懐かしい言葉が目に残る。三二回生の大先輩の記事にそれはあった。ピロティである。感慨は束の間、恐ろしい事実に気付いてしまう。それは、少なくとも我々五五回生が卒業する二三年前からピロティと呼ばれ、親しまれ、数多の新宿校生と青春を共にし続けていたということに。場所を示す言葉がある。

十五歳かそこらの人間が、およそピロティなる言葉を知っているはずもなく、にも関わらず旧校舎で過ごした新宿校生は誰一人として知らない者はいない。私は教師に、ここはピロティと言いますなどと教えられた記憶はない。だとすれば、連綿と、誤りなく確実に後輩へと伝えられてきたということになる。終いにはペロティなどと呼ばれるようになってしまっただけではないのである。

これは恐ろしいことである。この恐ろしさを通して、今は亡きピロティを思い浮かべるに、昼休みのそこかしこから聞こえ伝わる賑わいやら、打ち置かれたベンチやらが明確にあの場所にあるのである。決して既にないなどとはつゆも思わないのである。これはまた別の恐ろしさであり、また魅惑でもある。

随筆調で書かせていただきましたが、よくよく考えると実際のところは、一切の途切れもなく伝えられてきたというのではない、というのが事実なのでしょう。言葉によって規定されたあの場所が伝えられてきた様を思い描きながら、一部には先輩から後輩へと伝えられたこともあったと思いたいのです。そう思うことで、新宿校生が瞬く間に縦に繋がりに、一体となった巨大な畏怖すら感じられるものとなるからです。前述の恐ろしさは恐らく、ここに根ざすはずで、今でも存在するあのピロティへ贈る、願望を含む考察でした。追伸…(今回連絡をくれた五五回生へ) ありがとう



卒業三十周年

あのとときの景色、それぞれの物語

45回

いまから三十年前、部活を終えて下校する僕らが眺めていたのは、西口方面のビルの間から夕陽を背に伸びていく建設途中の新宿都庁でした。不安もあるけれど、それ以上に新宿は、世界は刺激と冒険に満ちていると感じていた気がします。

時は過ぎて僕らはいま、それぞれの場所です。それぞれの景色を見ています。いろいろ苦しいこともあるけれど、みんな頑張ってるな、同級生の数だけ世界が広がっているなという気がします。明日が見えない、正解がない。一層

そんな気持ちになる世の中ですが、心配しないで大丈夫、一人ひとりに物語は生まれます。特に、いま将来への不安を抱えている後輩のみなさんへのメールになればと、六人の同級生にメッセージをお願いしました。脚本家、ワインの醸造家、ダンサー…驚くほどバラエティに富んでいます。いずれも新宿高校から始まった、本物のエピソードです。どうぞ読んでみてください。

(代表幹事 小山 元)

意思はなくとも道は開ける

F組 佐々木 正洋

番組制作会社で欧州サッカーを担当し約二十年が経った。マラドーナ、ジダン、ロナウド、メッシなどスター選手と接し、世界のサッカーを伝えてきた。近年は日本人も欧州で活躍するようになり、中村俊輔、長谷部誠、香川真司、内田篤人、岡崎慎司など各時代の日本代表選手の取材を通して素顔や奮闘を伝え、充実した日々を過ごしている。

しかしこれは私が高校時代に描いていた人生とは全く違うもの。友人に誘われて何となく入った演劇部にハマり観客を喜ばせることに目覚め、成績が落ちるのも構わずに演劇に没頭。さらに大学では自分の劇団を作り、そのまま東京で演劇の道に進めたらと考えていた。

ただ、ふと周りが就職活動に入るのを見て不安になり、試しに受けた全国ネットのアナウンサー試験で引っかけ最終的には縁もゆかりもない青森の

地方局のアナウンサーの内定を得た。

家族と友人は盛り上がり、後に引けなくなった私は劇団を諦め青森へ。小さな地方局ではアナウンサーであるだけでなく、今でいう YouTuber のように自らカメラを回して編集するというマルチな仕事をこなした。それが観客を喜ばせることにハマった高校時代とリンクしたこともあり、仕事に没頭。

後に甲子園で取材し実況する機会があった私は、徐々に野球界に貢献したいという気持ち芽生え、三十歳を前に東京の制作会社に転職。そこで担当についたのは、まさかの欧州サッカー。成果を出せば野球担当になれるだろうと考え、サッカーを研究し、多くの指導者から学んだ。W杯をはじめ欧州取材も頻繁に行った。

海外での仕事はいつも刺激的だ。国や地方によって慣習も言語もテンションも違う。彼らと相対するときは完全に役になりきるのだ。マドリッドで「お前はラテンだろ」と言われたときは、演劇時代の経験がモノを言った。

二〇二一年には一〇〇周年を迎えた JFA からメディアとしての活動が認められ感謝表彰を受けた。与えられたサッカーの仕事に没頭してきた結果だ。

ただ、これではやりたかった野球に戻ることはできない。演劇人として成功するといふ昔の夢もすでに現実的ではない。しかし、私はこれで満足している。

時に流され、不本意でも、担当になつたということは「誰かが私を推していた」ということ。それが消去法であつても。違うなと思つてすぐに方向転換するのもいいが、流されていったんやってみるといふのも意外と悪くはない。FORZA!! 新宿高校生!

農民から現役生へ

ラ・グランド・コリーヌ・ジャポン

A組 大岡 弘武

何気なくテレビをついたら坂本龍一先輩の特集が放映されていました。子供たちにパパの先輩なんだよつて私の数少ない自慢をして、そのまま食い入るように見入ってしまいました。戦場のメリークリスマスが演奏されると自然に涙がこぼれていました。

その翌日、一般社団法人おかやま葡萄酒園の仲間から、高校の友人からの

私宛のメールが転送されてきました。私は大学卒業と同時に渡仏して二十年間過ごし、六年前に帰国したので、同窓会には一度も参加したこともなく、三十年ぶりです。縁とは不思議なものだと、今回こうして筆をとった次第です。

私のような農民は皆様の役に立つようなお話はできないのですが、変わった経歴のなかで感じたことをお話しします。私は自然派ワインの生産者です。葡萄畑は有機栽培で、醸造には自然酵母を使い、葡萄以外の添加物を一切入れない造りをします。それつて普通じゃないの?と思われるかもしれませんが、そのようなワインはほとんど存在しません。

大学時代にワインに出会い、ワインをもっと知りたいという情熱だけでフランスまで行つてしまいました。ふと気がついたら自分が現地で生産者になつていました。当時のワインの世界では自然派ワインというのは異端児でして、生産者も飲み手も変態扱いされたものです。私としては昔ながらのワイン造りを続けているだけなのですが、私は日本育ちの日本人ですから、フランスでは外からの視点を持つていたこ

とになります。化学肥料をいれて、沢山育つた葡萄を化学農薬で守り、熟していない葡萄を安定した美味しいワインにするために添加物や殺菌を行う。業界での常識を外からの視点で見ることによって、疑問を抱き始めました。美味しいワインを造るための昔からの伝統は、時代遅れということでも無くなりつつありました。効率が一番重視されてきました。ワインは農産物でなくて工業製品に近くなつてしまつていたのです。

流れの中にあると、自分がどこに向かつているのか分からなくなります。いろんな視点を持つためにも、いろんなことに挑戦してください。一度立ち



止まったり、ドロップアウトするのも、長い目でみたら良いことだと思えます。時間が経って振り返ってみると、自分のやってきたことが、現在と繋がっていて意味があったと分かります。そう思いたいというのが正直なところかもしれません。だから今、自分の決まった目標がなくても、目の前にあるやるべきことをこなしていけば自然と良い方向に進んでいくと思います。

高校時代の私は、今の自分とはかなり違いました。時間ギリギリで電車に駆け込み、降りやすいように電車の中を移動し、山手線を代々木駅で降りて学校までダッシュするという毎日でした。そんな生活から一度外に出てしまえば、何をあんなに急いでいたのかと不思議に思えます。ワインの生産者となった今、時間の軸は完全に変わりました。自分が植えた葡萄の実がなるまで最低四年。その葡萄が一番良い実をつけるのが四十年ぐらい経ってから。それをワインにして一番良い飲み頃になるのはさらに二十年後。おそらく自分は飲めないでしょう。でも、今日最高の状態のワインを私たちが飲めるのは、先人たちが葡萄を植えて、栽培してきたからです。その恩恵をいただけ

ているので、次の世代のために続けているのだと、至極当然に受け止めています。葡萄の収穫は年に一回。自分がワインを造れる回数なんてたかが知れています。そんなことを思いつつ仕事をすることが大事なのではないでしょうか。

私たち一家が帰国した理由は、子供を日本で育てたかったからです。フランスもとても良い国で私は大好きです。ただ日本は私にとって特別なのです。他人の気持ちを察する、相手を尊重する文化を子供たちに身に付けてほしいです。コロナ禍で各国の特徴がよく分かりました。日本はお願いベースでも規律を守ります。素晴らしい国民性です。この国民性に相手を許す力がプラスされれば最強です。私は若い世代にこれをお願いしたいです。人間だからミスするのは当然です。新しいことにチャレンジすれば失敗することは多いでしょう。悪意のない失敗を許せないようでは、さらなる飛躍は難しいと思います。フランスでは「完璧な人間はいない」とよく言います。その通りだと思います。みんなで協力し合って助け合っていきましょう。

都会っ子、

田舎暮らしに挑戦中!

C組 津留崎 鎮生

この冊子を手を取っている方は新宿高校卒業生、つまりは「都会っ子」なのかと思います。かくいう自分も、新宿生まれ新宿育ちという正真正銘の都会っ子でした。「でした」というのも、今では東京を離れ、伊豆半島の先端近く、海と山に囲まれた下田という小さなまちで暮らしているからです。

この地で手に入れた古民家は、薪ストーブや太陽熱温水器・井戸で、自然のエネルギーや資源を無理なく使えるようにDIYでリノベーションしました。庭には小さな畑があり、伊豆名産の柑橘類がいくつも植わっています。借りている田んぼで米をつくっていて、また、狩猟の免許も取得しました。という、いわゆる「田舎暮らし」をしています。

そもそもは、生まれ育った東京での暮らしに何の疑問を抱いていませんでした。では、そんな自分が、田舎暮らしに目を向けるようになったキッカケは何だったのかというと、それは二〇一一年の東日本大震災です。

震源地から遠く離れた都内でも、物流が混乱しスーパーにいつても食料も水も手に入らなく、また、断水や計画停電もありました。当時三十代半ばを過ぎていて、この社会で生きていくための多少の経験を積み、それなりに生きていけるといふ少なからずの自信があったのですが、そんな自信が崩れ去ったのです。

この社会を成り立たせているシステムに依存しているだけで、自分の力では何一つ出来ないのではないかと。こうした思いを強く持ったのは、はじめての子どもが妻のお腹の中にいたタイミングだったからかもしれません。そして、今のような暮らし方にシフトしていったのです。

東京で暮らしていた時は地域の人のところか隣の人の顔もわかりませんでした。今は地域に多くの知り合いが生まれました。田舎暮らしがあるのですが、地域の方によく野菜や魚をいただきます。つくったお米や庭の果物を地域の方に分けすることもあります。

おいしい湧き水が近くで汲めるので、ペットボトルの水を買うことはなくなりました。薪ストーブの燃料は、地域の伐採した木々や廃材でまかなって



るのですが、もらって喜ばれることもあります。

そんなこんなで、東京での暮らしと

は大きく変わりました。依存していることには変わりません。



でも、高校を卒業した三十年前より、震災が起きた十二年前より、少しだけは、自分で暮らしをつくっていくという実感を持てるようになりました。まだまだ田舎暮らし初心者。海と山に囲まれた暮らしから日々、刺激をもらっています。「都会っ子」の挑戦は、これからも続きます。

海外で働く楽しさ、厳しさ

C組 伊藤(町田) 悦子

高校二年生の時、父が戦時中に書いた作文が見つかり、新聞に掲載されるということがあった。折しも湾岸戦争勃発、戦争を嫌悪する父が普通の軍国少年だったことに妙に安心し、同時に

教育の怖さを痛感したのを覚えている。ほどなく戦争のことを調べ始め、日本人としてアジアの友好のために何かできないか、と考えるようになり、当時はまだメジャーでなかった東南アジアのベトナム語を専攻した。

大学時代は、長期休みの度にベトナムに行き、友人を作り、各地を旅行、健康、教育支援などのボランティアに参加し日本からのスタディツアーに行きすることもあった。四年生の時にハノイに留学、大学院へ進みベトナムの人口政策を研究した。この頃、母子保健プロジェクトを実施する日本のNPOでインターンとして働き、農村調査などを行った。

結婚を機にアメリカのサンノゼに移住した。アメリカは暴力的で好きではなかったが、社会課題への取組みが活発な国のNPOで働いてみたいと考えた。

永住権を取得するまでの十年間、自分で労働ビザを申請したかったが非常に困難で叶わず、加えて永住権申請中の七年間は出国できなくなった。仕事も帰国もできず、夫のレイオフによるビザ変更や転職でニューヨーク、シアトルへ引越し、大変な時期が続いた。

働けるようになり、ボランティアをしていたアジア系のDV・性暴力・人身取引の被害者支援を行う団体で相談員として就職、クライアントと裁判所に行ったり、弁護士と会ったり、という仕事をしたが、体調を崩して飛行機部品のプランナーに転職した。ソーシャルワークはとても好きだったが、自身に精神的な余裕がないと厳しい。航空業界はまったく違う業種、早さとトレースビリティ（製造工程の記録を残すこと）が必要であり必死で追いついた。その後もNPOに戻ろうと試みた。その後もNPOに合うと航空業界のバイヤーに転職した。お陰で学び得たのは、改めてベトナムでの環境が恵まれていたという感謝の気持ち、マイノリティの厳しさ、あと異なる環境でサバイブするたくましさ、だろうか。さて、卒業後三十年、五十代以降をどう生きるか岐路に立っている気がする。昨年仕事を辞めて一時帰国していた。これまでの経験を活かし、ご恩を返すためにも、日本に暮らす外国人をサポートしたいと思っているが、次に繋がりそうな体験ができた。現在リモートの日本語ボランティアを続けながら準備中である。

紡ぎ、またほぐす

A組 朝弘 佳央理

私の最初の記憶は、色に名前がついていることを初めて知った瞬間です。うさぎが食べているにんじんを指してその男の子は「あれは橙色だよ」と教えてくれました。

私は「あれはだいたいいろっていうのか」と頭の中で声を出してつぶやきました。

一歳半の頃の記憶です。

それは私の中で「ことば」と世界が結びついた瞬間でした。

みんなはものに名前をつけて呼んでいるのだと知って私はひどく驚き、嬉しかったことを覚えています。

それまでも目の前にあるものごとを見分けてはいたけれど、そのどれもに言葉が結び付けられているなんて思ってもよらなかった。目の前が急に眩しくなった気がして、そこにあるものをひとつひとつ見ようとしました。

同時に、ついさっきまでそのものを私を私は違うふうと呼んでいたような気がした。でももうそれを思い出すことはできませんでした。

一九九一年に高校二年生になった私

はダンスに出会います。

当時新宿高校には「スーパーダンスチーム」という学園祭の時にだけ集まる有志団体がありました。そこを出身とするダンサーや役者の方が指導をしてくれて毎日遅くまで稽古をしたものでした。

私は演じることが好きになり、大学の勉強もそこに友人と劇団を作り、バイトをしながらダンススタジオに通い詰めました。

私は小さな頃から自分の体に違和感を抱いていました。大きくなってゴツゴツして荒々しく、ひとつの形には収まっていられない感じ、実際に鏡に映る姿からはかけ離れたものを感じていたのです。

けれど踊る時だけはその輪郭を忘れてじぶんをはばたかせることができた。稽古で深く体に潜ってゆくことは、物理的な体の輪郭と、目には見えないけれど確かに感じている感触、それはぴったり一致しないものであってもやはり重なって同時にそこにあるのだというところを取り戻し続ける時間でもありました。

いつしか自分が惹かれ続けているのはあの言葉を知った瞬間、ものに名前

のついていない世界にいた感覚なのだと思います。ようになりました。

体というものは大抵思うようには動かないし、重たいし、時には傷ついたりもして不便利です。

でもこのぎこちなくて不器用なものこそが私を現実には繋ぎ留める。

踊りが紛れもなく「形あるもの」である肉体と私を向き合わせるならば、その輪郭を持ったまま形のないものを語りたい。

踊りを続けているうちに辿り着いたフランスで今は暮らしています。



フランス語で本を読んでいると、子供の頃に読み始めた頃もきつとこんな風だったのだらうなと想像します。単語をひとつひとつ調べ、それでも分からなければ勘を働かせながら、ゆっくり読むから内容を忘れてもう一度読み直したり。もどかしくはあるけれどひとつの言葉、文章にこんな深く付き合うような読書は日本語ではもうできないと思うのです。

形あるものに私を繋ぎ止めた踊りが連れてきた場所が、再び私の「ことば」をほどこき、名付けられたものの世界を解体しようとして

いるのはなんと不思議で面白いことだなと思います。



姿なき卒業生へ送るエール

日組 日高 勝郎

【はじめに：意味深な題名ですが、卒業生宛てと勘違いしこの文章を綴ってしまったというただの釈明です。広く後輩宛てと見れば良い文章だ、と温かな言葉を頂きそのまま載せることにしました。やれやれですよね：よろしければ卒業生気分でお読み下さい。】

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。桜色に染まる新たな道へ踏み出そうとしているんですね。眩いなあ：実に羨ましい。

脚本業を生業としている四五回生の日高と申します。最近の公開作はBS11の映画やアニメ『アキバ冥途戦争』『スキップとローファー（四月〇・A）』など：漫画原作やゲーム脚本も含め、締め切りに追われる日々を過ごしています。

僕ら世代が卒業三十周年ということですが、皆さんにエールを送る大役を仰せつかったのですが、とはいえ何を話せばよいのか：大昔の思い出話をされたところで、ねえ？

確実な共通項は新宿高校卒という一

点。なので、その学歴の社会的意義などをお伝え出来ればと：ベタですが、ワシちゃん自分の人生に活かせれば：ぐらいの感じでお読み頂けると嬉しいですね。

僕は高校卒業後、一浪し早稲田大学へ進学しました。学歴的には悪くないでしょ？でも社会的には何の意味もありません、なーんにも。名刺交換時に同窓生がいたら一分ぐらい話のネタになる程度。むしろ「その学歴なら面白い発想をお持ちですよね？」とハードルが上がるだけ：。学歴なんて実社会ではそんなもんです。SNSのアイコン程度の価値しかない。いくらアイコンを盛ったって最終的に見られるのは「人となり」ですから。

結局、実社会で物を言うのは『人間力』でしかないと思います。「優れた学歴が優れた人間を作る」なんて安い思想も残っていたりしますが：これ、とっても危険です。乗せられると、きつと先々後悔することになる。

×『学歴』＝『人間力』

○『想像力』＋『実体験』＝『人間力』

僕の経験上ではこれが正解。いずれ体感すると思いますが、挫折なく生き

てきた人間より失敗してきた人間の言葉のほうが重い。聞きかじった情報ではなく体験から来る言葉のほうが奥行きがあるんです。物語でも挫折知らずの人間なんてモブにしかありませんから。

情報過多で正義が乱立する今の時代、必要なのは『実を見極める目』と土壇場でも未来を切り拓く『人間力』だと僕は考えています。

その点、皆さんは有利です。新宿高校には様々な人間が集まり、己の思考ひとつで面白くもつまらなくもなる自由という名の土壌がある。

いかなる状況でもタフに考えられる精神：その基本を培われた『六中健児』ですから。そうした意味では、新宿高校卒という経歴をぜひ誇りに思っただけです（諸先輩方、六中健児の概念が間違っていたらごめん下さい）。

卒業おめでとうございます。

ぜひ失敗を含めた沢山の経験をし、一握りの想像力を武器に『人間力』を養ってください。いつの日か実社会で会える日を楽しみにしています。では。

卒業四十周年

……

懐かしく思い、今を生きる

35回

十年前の本誌「卒業三十周年特集」

への寄稿をきっかけに、三五回生幹事会の活動が活発になり、コロナ禍も挟んだこの十年が過ぎたまさに今、四回生の同期会を計画中である。その機運を生み出し、維持してきた同期幹事の皆様には感謝の言葉しかない。

過去の二回の同期会に参加し、最近、代表幹事を拝命した私にとっても、同じ高校で学んだ仲間が幅広い分野で活躍しているのを直接知ることができたのは幸運だったと思っている。今回の特集では、三年時のクラスから一名ずつ計九名の方に寄稿していただいた。それぞれ、在校時代や卒業後の四十年の貴重な話であり、懐かしく、励みになる。こういったものを共有できる場と、新宿高校の更なる発展に寄与できる場をいただきたいことに、心から感謝を申し上げたい。

三五回代表幹事 関根 聡



生涯スポーツとの出会い

A組 常岡 泰治

私が社会人になってから水泳を始めたきっかけは、会社の健康診断でした。健康診断の結果が思わしくなく健康指導を受けることになり、産業医から運動習慣をつけるよう指導がありました。しかし、高校卒業以降ほとんど運動を行っていませんでしたので、何をするか悩みましたが、高校時代の水泳部での活動を思い出して、水泳でも始めてみるかと思い、近所のスポーツクラブに入会することにしました。仕事帰りに泳ぎ始めましたが、漠然と泳いでいてもすぐに飽きそうになり、何か目標があったほうが続けられるかと思い、マスターズ水泳のレッスンに参加するようになりました。

マスターズ水泳は、生涯水泳を motto に行われている競泳の大会です。五歳毎の区分に分かれ競技を行います。水泳部時代を思い出したのか、練習も何か懐かしさもあり、次第にマスターズ水泳の虜になっていきました。その

後は数々の日本代表選手を指導してきたコーチの指導を仰ぐ等、理系おやじの悪い癖で、どんだんのめり込んでいきました。

マスターズ水泳を始めたことで、それまで仕事一辺倒だった生活から仕事と運動との両立を考えるようになり、自分にとっては大きな人生の転換となりました。また、会社との往復では決して交わることの無かった方々との出会いも沢山あり、それがより自分の人生を豊かにしてくれています。

高校時代の水泳部での経験が、思いもよらない形で今の自分の生活の重要な一部を占めることになり、感謝しています。

管弦楽部がつかないだ縁

B組 上松(監物) 房代

同じ中学から新宿高校への入学は私一人で、知っている人が誰もいなくて不安な中、管弦楽部の『新入生歓迎コンサート』を聴き感動!!「高校生がベートーヴェンの交響曲運命を演奏できるなんて私もやってみたい!」と思いい管弦楽部に入部しました。小さい頃からピアノを弾いていましたが、自分

で音程を作るバイオリンはなかなか上達しなく、毎日練習に明け暮れました。先輩方の熱心な指導により学園祭で曲が弾けた時は嬉しかったです。

時は流れ、ここ数年前まではバイオリンに触れることもなくなっていました。が、地元のPTAコーラスでピアノは続けていました。そのメンバーと行ったとある演奏会のオーケストラに管弦楽部の同期が所属していました。そして、彼女のお陰で卒業三十周年の同期会に参加すると「OB合奏団に入らない？」と声をかけられて、見学のつもりがそのまま入団。同期や現役時代を共に過ごした先輩・後輩が何人も参加しているのです。まるで高校時代に戻ったような気持ちになりました。年に一度の演奏会には地元のコーラス仲間や職場の友人も聴きに來てくれるので、それが励みにもなり、今でも楽しく演奏活動を続けています。

高校入学当時、知り合いが誰もいないと寂しく思っていたのが嘘のように、音楽で繋がった大勢に囲まれた今の私があるのは、管弦楽部入部による『縁』なのだと思うと、単に幸せという言葉では言い尽くせない思いがあります。

青春のアレンタウン

C組 花澤 宏幸

ターミナル駅の地下ホームで、毎朝すし詰めの電車から吐き出される。一目散に階段を駆け上がる。息を切らして「国鉄」の南口に昇り詰める。あとは下り道だ。戦没者慰霊塔の傍らで自炊の煙を立てるホームレス。ピエロみたいな姿の新聞配達。陸橋下の落書き。貨物駅では機関車が唸り声を上げて貨車を繋ぎ替えている。碎石の山を横目に明治通りの信号が変わるのをもどかしく待つ。運送会社と飲料配送基地の狭間をラストスパート。鬼の形相の体育の先生が校門を閉めかけているのを間一髪すり抜ける。予鈴に間に合わないとかラスと氏名の記帳を迫られる。運動部でもないのに長距離走のタイムだけはそこそこイケていた。

高校に通う三年間は、変わりゆく世の中を感じ考えるきっかけを掴む時期だった。教科担当の先生方にも様々に強い信念をお持ちの方が多くいらっしやっした。校外も含め課外活動が大好きで、面白そうなものは何にでも首を突っ込んだ。だが、地道に努力するのを嫌った。何かと反抗的だった。生活

面でも学業面でも、大凡指導の体を素直には聞き入れなかった。結果、進路も絞り込めず、受験勉強には後年一から取り組み直すことになった。

それでも、バブルの波にも救われ、今こうして細やかにある。卒業後も惜しみなく寄せられた友人の苦言、励ましお世話くださった恩師のご厚情に、届くものなら心から感謝申し上げたい。

アイアム トライボロジスト

D組 地引 達弘

私はトライボロジ（直訳すると「摩擦学」）の研究者です。大先輩では、木村好次先生（東京大学名誉教授、七回生）、岩本勝美先生（東京海洋大学名誉教授、二六回生）がトライボロジストです。

在学中は二年生から山岳部に。山登りという自然を相手にする中で、将来の仕事も、自然に関わりたいたいと思、船の機関士になろうと、東京商船大学の機関学科を受験し、無事入学。入学後、一ヶ月間乗船し続ける実習が一年に一度あり、それは貴重な経験でした。特に、夜航海における、満天の星空！ところが、卒業研究に出会ったことで、

大きな舵取りが起こり、大学院で出会ったのが、トライボロジイでした。

研究は当初から順調に進みましたが、学会デビューとなる発表会で、私の研究の、世界的権威である先生が来日されており、英語で質問をしてきたのです。発表の練習も質問対策もほぼ完璧に準備したつもりでしたが、それは、まったくの想定外。私は文字通り「石」のようになっていました。その強烈な体験があったせいも、私はこの分野で「食べて」行きたい、と強く考えるようになり、卒業後、十年間、造船会社でエンジントライボロジイの仕事をした後、縁あって、母校の助手となりました。

私は、この研究に自分の一生を捧げるつもりですが、在校生の皆様におかれましては、興味の赴くまま、自分の道を、突き進んで頂ければ、と思います。最後に、あなたもトライボロジストになりませんか。

(東京海洋大学教授)

今日までそして明日から

E組 佐藤 孔美

毎年春には、必ずといっていいほど新宿御苑の桜を見に行く。なぜ、新宿御苑に無性に行きたくなるのだろうか。高校時代に、教室の窓から眺めていた御苑の桜の美しさが忘れられないからだ。御苑近くを歩いていると必ず思い出すのは、部活での御苑一周マラソンである。約三キロの走り込みは、本当にきつかった。しかし、社会人になって休まず働き続けられる丈夫な体をつくってくれた。

そんな高校時代から、四十年が経とうとしている。私は、東京都の公立小学校や国立大学附属小学校の教師として働き、現在、将来教師を目指す学生の育成に尽力すべく、大学の教育学部で勤務している。山あり谷ありの人生で現在に至っているが、新宿高校時代の友人が未だに私を支えてくれている。特に、新宿高校から同じ大学に進み、小学校の教師になり、さらには勤務地が全員世田谷区であったという四人の女性仲間が、今でも時々会ってお互いの近況報告をしたり、悩みを相談し合ったりしている。

今は、校長として学校経営に邁進する人、子供や保護者に絶大な信頼を得て担任を楽しんでいる人、困難なクラスを立て直す学校の救世主として活躍する人など、立場の違いはあるが、会えばいつも教育について熱く語る仲間である。私にとってかけがえのない存在である。この四人、どこか強烈な個性を發揮できているのは新宿高校時代の自由な校風が涵養してくれたと思う。人生百年時代。まだもう少し、社会のために頑張っていこうと心に決めている。

頭の空き容量

F組 若林 九重

四捨五入すれば還暦になる年齢となり、そろそろ記憶力の衰えを感じるようになってきた。ネット時代になる前は、もっと頭の記憶領域を使っていたと思うが、今はスマホやパソコンなどのデバイスが様々な情報の記憶を代行してくれ、そして色々なことが便利になった分、記憶能力を失ってしまった気がする。

ところで、個人の趣味の話で恐縮だが、中米のジャングルの中に点在する遺跡探索をライフワークとしている。

新型コロナ流行前までは、最低年一回は中米を訪問していた。現地では友人兼ボデイガードと、ジャングル周囲の村の人をガイドに雇う。村の通信インフラは貧弱だが、携帯は気まぐれに通じる。だが、ジャングルに入るとすぐにスマホは圏外。途中で誰かと出会うと、食糧と交換に道の状況や遺跡の情報をもらう。

驚くのは現地の人の記憶力だ。場所や考古学情報、人の名前など会話で得た情報は、メモることなく全て頭の中に記憶している。しかもしばらく時間がたつても忘れない。それを彼らに言うとき、勤勉な日本人と違って頭の空き容量が大きいからだと笑う。いや、そうじゃないと思うけど。でも不思議なことに、スマホなしのジャングル旅を数日続けると、写真やメモを取らなくても記憶が鮮明に残るようになり、位置認識能力も上がる。もしかすると、頭の空き容量という話は一理あるのかもしれない。ジャングル旅を継続したら、ボケ防止にもなりそう。体力があるうちに頭も鍛えておこう。

私の高校時代

G組 榎本 英剛

私の高校時代はサッカーに始まり、サッカーに終わったと言っているくらい、所属していたサッカー部のクラブ活動に彩られていた。私たちの部は都立高校にしては練習が厳しいことで知られており、平日は毎日、土日も試合などが入っていて、始業前の朝練もよくやっていた。大学生のOBがコーチをしてくれていたのだが、練習に身が入っていなかつたりすると「御苑一周！」と声が飛び、約三キロある新宿御苑の周りを走らされた。それも一周で済めばいい方でコーチの機嫌が悪い時は三周ほど走らされることもあった。楽しみと言えば、練習が終わった後、当時学校の隣にあったカナダドライの自動販売機で冷たいジュースを飲むことや、やはり学校の近くににあった駄菓子屋でパンなどを買い食いすることくらいだった。ただ、辛いことばかりだったわけではもちろんなく、やはり試合に勝てばうれしいし、その勝利に自分が貢献できればさらにうれしかった。

私はウイングと言うポジションを

担っていたのだが、覚えているのは練習でコーチによく言われた「ボールがラインを割るまで最後まで諦めずに走れ」という言葉だ。その後の大学受験をはじめ、人生で大きな挑戦を前にした時、なぜかこの言葉がいつも頭の中でこだまし、結果が出るまでベストを尽くす原動力になった。サッカー最優先だったため、決していい生徒ではなかつたと思うが、こうして部活を通して得たものは自分のその後の人生にとって大きな糧になったと思う。

野球に明け暮れた日々

H組 林 正之

江東区立深川三中野球部の三年生だった夏に都立新宿が東京大会のベスト8に進出したのを知って越境入学。そして卒業してから四十年、月日が経つのは本当に早いものですね。三年間硬式野球部で甲子園を目指し、卒業後も学生監督としてさらに三年間目指しましたが甲子園は遠かった。ですが、顧問の先生方、先輩、後輩、チームメイトとマネージャーの仲間に恵まれて充実した六年間を新宿高校で過ごすことができました。夢は叶いませんで

したが、二〇一〇年にOB会の皆さんがマスターズ甲子園本大会に出場した日には、勤務地だった大阪から勇んで甲子園まで応援に駆けつけたものでした。あの時、私の夢が半分叶いました。

新宿高校で六年間野球に打ち込んだことは、私の人生の大きな糧となりました。大学受験と浪人、外交官試験受験と挫折、海上自衛隊での飛行訓練課程、そして民間航空会社での定期訓練と国家審査。これらに向けてコツコツと準備をしていく習慣は野球によって培われたものと思っています。決してストイックなことばかりではなく、幹部候補生学校卒業後に遠洋航海で初の海外渡航、ソニーのビジネスジェットでの諸外国フライト、現在の某自動車メーカー及びグループ会社の役員の送迎等、楽しい経験もできました。

在校生、同窓生の皆さんも卒業後四十年までに様々な経験ができると思います。もう既に硬式野球部の後輩くん達がイチローさんのコーチングを受けるといふ素晴らしい経験ができたように。皆さんの未来に期待し応援しています。

朝陽を浴びて走り続ける

I組 菅佐原 茂

冒頭から反省の弁となるが、新宿高校の伝統に根付く理念・経験豊富な先生方・優秀な同級生・恒例の行事と正面向き合えたなら、より充実した高校生活を送ることができたのだろう。しかし、今となつては後の祭り。そのように思える高校に在学できた感謝も込めて、青すぎる想い出を振り返りたい。

入学早々に、授業のレベルの高さと、大人な雰囲気には圧倒された。難解な数学の授業、優秀なクラスメート、ひげの生えた生徒、メイクをした先輩。これが新宿高校か！と仰天した。早速授業には遅れ始め、居場所が部活となった。走ることが好きだったので、迷わず陸上部に入部した。以来、現在に至るまで、走る行為が肉体のみならず精神的にも支えとなつている。新しい国立競技場を横目に走っていると、高校時代を必ず思い出す。専門知識をもつて指導してくださったOBの緒方さん。寛容に接してくれた先輩と後輩。お互いを高め合った同期。今でも親睦のある他校の仲間。皆、私に大きな影

響を与えてくれた。

私はその後、駒澤大学に進学し、箱根駅伝六区にエントリーされるも当日変更となり夢叶わず。いつか新宿高校出身者が箱根路を走るのを心から願っている。社会人となつてからは、各界で活躍する偉大な先輩方とお会いする機会があった。改めて卒業生が各分野で活躍されている事を誇りに思い、大いに仕事の励みとなつている。還暦を目の前に、幾度と朝陽を浴びて走り続けたいと願う。



三五回生同期幹事会より

お知らせ

今年卒業四十年になります。これまで「三十周年」「五十歳記念の会」「三五周年」と開催し、三年前は「五歳の会」開催を計画していましたが、残念ながら、コロナ禍で中止となつてしまいました。今年卒業四十周年となる節目の年の同期会となります。

今までご参加いただくことができなかった方も、今回はぜひご参加いただけることを願っております。詳しい内容は左記の「新宿高校三五回生のページ」をご覧ください。これまでの同期会に参加したことがない方で、このページをご覧くださいなられた方は、代表幹事メーリングリストにご連絡頂ければ幸いです。

ホームページ・・

「新宿高校三五回生のページ」

<https://s35.chobinet/s35hp/>

代表幹事メーリングリスト・・

s35_dk@googlegroups.com

Facebook「新宿高校三五回生同期会」

<https://www.facebook.com/choyos35/>

35/

HP



FB



先生方もお招きして開催した卒業35周年同期会



2018.06.16 京王プラザホテル



岩波裕治先生による乾杯
(残念ながら岩波先生は2020年に急逝なさいました)

野村満男先生
と一緒に
管弦楽演奏



卒業五十周年 …… 半世紀だよ全員集合

新25回

我等新二五回が新宿高校に入学したのが一九七〇年、十五歳の時です。三波春夫が「一九七〇年のこんにちわ」と歌ってました。大阪万博の年でした。以来三年間、新宿高校という日本一大繁華街の片隅に通学し、多感な青春時代を謳歌しました。卒業したのが一九七三年、アグネスの「ひなげしの花」を思い出します。そんな頃を思いながら、それぞれの新宿高校への思いをつづってくれたり、今の活動について語ってくれたり、各クラスの代表が卒業五十年を期しての文章を書いてくれました。

この記念文集のタイトルを「半世紀だよ全員集合」とします。卒業二十年の時、全クラスまとめて同期会を計画しましたが、それまで学年全体の同期会を開催したことが無かったため、経験不足・準備不足という事もあって、開催できるまで二年かかり、最初の同期会は卒業二二年になってしまいました。その後は二五年、三十年、三五年…と五年毎に同期会を開催してきました。



同期会を開催するたびにキャッチコピーを決めています。それともう一つ、代表幹事の自分が、何が何でも実現したい、それが代表幹事の使命だと思ってる事は、同期の仲間全員が集まる（集める）事です。で、今回のキャッチコピーは「半世紀だよ全員集合」です。十月二八日（仮）です。正式な皆さんへのご案内は八月か九月になりま。今度こそ全員集まりましょう。

高校卒業して五十年が経ちました。一八歳の少年・少女が六八歳のおじ

いちゃん・おばあちゃんになっちゃいました。自分たちはずいぶん変化し、世の中もそれ以上に変化しました。でも仲間が集まれば、その想いは五十年あつと言う間に遡り、あの頃のままた戻っちゃいます。その五十年のタイムスリップを集まった皆で共有しましょう。

代表幹事 渡辺 康隆

ある授業

A組 久保田 兼士

高校を卒業して五〇年が過ぎた。十五歳から十八歳の三年間を過ごした高校時代は、多くの友人との出会いや部活、学校行事など私の人生に少なからず影響を与えたことは間違いない。では肝心の授業は如何だろう。この文章を書くにあたり、今の私に最も影響を与えた授業とは何かと考えてみたらある授業が思い当たった。

高校二年の授業科目に音楽βなる科目が在ったことを覚えてる人は多くは無いだろう。通常の音楽の授業ではなく、弦楽合奏をやるうというものだった。特にクラシック音楽が好きだった

わけではないが、面白いかもしれないと軽い気持ちで履修したのである。

音楽担当の野村先生は一九七〇年に我々が入学したのと同時に新宿に着任した。当時新宿高校には池辺晋一郎氏が創立した管弦楽部があり室内楽を中心に活動していたのだが、野村先生はこれをフルオーケストラにすべく指導されていた。

音楽βの授業が始まった経緯は分からないが、一般的にヴァイオリンの演奏テクニクを身に着けるには二万時間の練習が必要と言われていることを考えると、無謀な授業を思いついたものである。

時間割の都合だろうかA組にはこの授業を履修した者が集められていたが、大半は管弦楽部の部員かヴァイオリンを習った経験を持つ者で、私の様に弦楽器の未経験者は極少数だった。

最初の授業では担当する楽器を決めたのだが、弦楽器未経験の私にとって選択肢は少なかった。中学時代に半強制的に送り込まれたプラスバンドでチューバを吹いた経験もありコントラバス担当となったのは自然の成り行きであった。

授業は基礎練習から始まり、やがて

簡単な曲を演奏する様になる。初めに弾いたのは「きらきら星変奏曲」、モーツァルトが作曲したとは知らなかった。後半は半年かけて「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」を練習していた。

音楽βの授業が私にもたらした影響はと言うと、実は今でも地元のアマチュア・オーケストラでコントラバスを弾いているのである。

野村先生は新宿高校を退官後チェンバロ製作者・古楽器の研究者として活躍されているのだが、それを知ったのはある演奏会でチェンバロをレンタルした時であった。

授業が切っ掛けで始めた演奏活動が五十一年以上続くとは、我ながら驚きである。



卒後五十年間新宿高校との

関わりは続いています

B組 篠原(森)厚子

五三年前の、入学の日の春の日差しと担任の岩波先生や初対面の級友がいた一年D組の教室のざわめきや、卓球部や剣道部を目の端に捉えながらバド

ミントン部の練習をした体育館の床のワックスのにおいが、今も昨日のように思い出される。二年生から卒業まで共に過ごしたB組は、どのように席替えしても居心地のよいクラスで、受験間近な高三の秋に有志十数名で芦ノ湖畔に遊びに行くほど仲がよかった。楽しい三年間であった。

卒業後、それぞれの進路に分かれてからは、年に一度から次第に間遠くなるクラス会が細々と続いた。「クラス会の相談のため」と称する飲み会は、時間と共にメンバーが漸減したが、五十年たつ今も五、六人で時折食事をする。高校入学から親交の続く友人と、大学時代の長期休みは旅行、家族を持つてからは時折会って存分に話をする。また、高校時代はほとんど口をきいたことが無かった同級生たちと、新たに交流が始まり継続している。進路も仕事も違うが、高校時代を共に過ごしたという安心感・信頼感と、競う必要のない関係は、心地よい緩やかなつながりを産むと感じている。

私は薬剤師になるために薬学に進み、研究が面白くなり大学院に進んだ。楽しい時間ばかりではなく、自分の力の無さを自覚したり、成果の発表で追い

詰められながらも、何とか続けてきた。数年間の無給助手を経て、運よく有給のポジションにすることができ、途中から研究と教育の比重が変わったものの現在まで仕事を続けてこられたことは幸運だと感じている。私生活でも、結婚し、周囲に支えられながら子育てし、両親を見送った。

ここ数年間で、同級生の子女が新宿高校に在籍したり、朝暘同窓会で仕事されていた関係でご紹介をいただき、『進路部通信』への寄稿や、一年生対象のキャリアガイダンスの講師の一人として「薬学へ進むこと」について後輩に話をする機会をいただいた。卒業四十年以上が経過してから、再び新宿高校（の新しい校舎）を訪れ、このような形で関わりを持てることは、思いがけない幸運であり、ありがたいことと感謝している。



ひきこもりと三五年

C組 川又直

私は今、富山市でいわゆる不登校ひきこもりの人たち 一七名と農業を通

じて共同生活をしています。この三五年間で四七〇人が体験しています。

四二年前に静岡の牧場でこの仕事に就き、東京生まれの妻と結婚し、七年後に独立して富山に came ました。

高校時代は落ちこぼれ、大学には五年遅れで行きました。ただその間に士農工商を経験しました。自動車工場、セールスマン、百姓、雀士（笑）と。

現在富山では、共同生活寮の「はぐれ雲」、認定農業法人は、二三ヘクタールの農地を耕し、認定NPO法人「北陸青少年自立援助センター」も持っています。最近話題に登る「農福連携事業」をやっています。

ここでの目的は就労です。就労先は、かなり多く、アルバイトへ行く寮生たちの評判は良いです。彼らがここに来るまでは、昼夜逆転の生活をしていましたが、朝起きて、昼間はお日様の下、農作業で体を動かして汗を流し、安全な食事をしっかり摂り、生活のリズムをつかみます。我々の仕事は、その環境を整えることです。そのためには、地域の協力は不可欠です。私たちは地域に溶け込まなければなりません。消防団、PTA、町内会長、公民館、民生委員……。地域と交流し、彼らを理解

してもらうためには、手抜きはできません。

世の中、管理的な社会で閉塞感が漂っています。私たちは白か黒かでなく、灰色の中のけじめが大事だと思います。個性を伸ばす環境、失敗が許される環境、それを新宿高校で学んだ気がします。ここに来る人たちは経験が少な過ぎます。要は失敗が少な過ぎるんです。経験豊かな人とは失敗をたくさんした人だと思います。



寮生たちと毎年メキシコへ行っています。外から日本を観ることは大切だと思います。すでに八十人が行きましたが、百聞は一見にしかずの練習です。

約三十年前から、ひきこもりになったら見守ることが大事、やがて自分の力で立ち直ると言われています。それはほんの一部には通用しますが、我々現場から見れば殆どの場合なじみません。第三者の介入が必要です。余計なおせっかいです。

今ひきこもりは、一二〇万人といわれています。さて、国はどう動くのでしょうか？



第一、第二、第三の人生

D組 鶴城（小久保） 和子

「塩見はいいところだ。卒業生も利用できる」夏休み、海に行こうと思いついたとき、石川先生が授業中におっしゃっていた言葉を思い出した。以来十余年、毎年家族や友人家族たちと、お盆を塩見で過ごすことが恒例となった。磯遊びもできるおだやかな海、夕焼けの向こうに見える富士山、天の

川、流れ星、なつかしく楽しい思い出。再建された館山寮に、もう一度行ってみたい。

ふとした折に、先生方の授業中の余談を思い出す。「親の意見と冷や酒は後にきく」というけれど、先生方の言葉が頭のどこかに残っていて、何かのきっかけに思い出した言葉が、「あっ、そうだ！」とヒントを与えてくれたり、「そうだよなあ」と考えるきっかけになったりしている。リモートの授業では、余談や雑談はなくなってしまうのかしら？

新宿高校には、心に残る先生がいらしたし、社会に目を向けて考えている生徒たちもいた。当時は図書館の本の背表紙の裏に借りた人の名前が書いてあるラベルがあり、難しい本をこんなにたくさん読んでいるんだ、すごいなあと思ひ、何冊もラベルだけを見た記憶がある。自由な雰囲気の中で、多くのことを感じた時代だった。

学生時代までを第一の人生とするならば、第二の人生は公立中学校に勤務していた三八年間。最後の十年はソフトテニス部の顧問を務め、週六日放課後と土曜日は生徒とボールを追っていた。八年連続都大会に出場できたのは、

がんばった『ごほうび』。働き方改革で、部活動の指導が外部委託になるなんて、ちょっとさびしい。

退職後の第三の人生は、母を介護して送り、今は趣味を楽しんだり、週一二回中学生の放課後学習支援をしたり、ビルの屋上のまちなか菜園で野菜を育てたりしている。晩酌をしながら夕食をとり「今日もいい一日だったなあ」と思えるのがありがたい。



節目の卒後五十年を迎えて

E組 寺林 秀隆

節とは元々あった枝が木の中に巻き込まれ生じる大事な所と辞書にあるが、木工愛好家の小生には、節は削り辛く木取りで避ける癖がついてしまった。

そのような訳だけでもないが、節目節目に区切りをつけられず、白髪被両鬢肌膚不復實の年齢まできてしまった。

昔人生五十年と言われ、文豪や音楽家は五十歳までに多くの作品を遺していたのを考えると、漫然と時間を空費する癖も治らないと反省しきりとなります。

高校時代を思い起こすと、当時の新宿高校は学園紛争後の時流もあつたのでしようが、個性あふれる先生方の下に人に迷惑を掛けなければ基本的に自由という雰囲気でした。同級の明るい瞳に触発されて一〇〇人ラグビーで大暴れ、塀を乗り越えて御苑でお散歩、戸山戦で奮闘、甲州街道の住人ガリバーさん観察等々ゆつたりとした豊かな時間が流れていました。

高校卒業後は医学部に進みましたが、教養・基礎・臨床医学と駆け足で進み医師になってからは「病気に休日無し」の掛け声のもとに、日祭日・正月無しを覚悟させられ節目・節目に区切りをつけずに今に至っております。人生一〇〇年時代と言われ出し時間・健康に恵まれる自分は動けはつきりしているうちにどう生を充実させるかが四苦を受け入れることのこと。

コロナ四年目に入り行動の制限が気持ちの抑うつにも及んでおり、診療の現場でも、マニュアル・基準値中心で自由度の低い一方通行の医療が横行しております。

患者さんの声に耳を傾けもとめているものに少しでも寄り添ったバランス

感覚のある医療の実践で節は節でも竹の節で、中空を充填させるべく老体に鞭打ち自分で決める停年をむかえることにしようと考える次第です。十年來ほこりを被っている椅子の座版もベーターベンピアノソナタ三二番を聴きながら卒業制作に取り掛かることで癖を治す事にします。

現役の六中健児の皆様には、是非とも自由な校風のもとい時間謳歌し、将来高校時代が輝いていて一番楽しかったと思いい出せるようであつて欲しいと願っております。

気がつけば半世紀

F組 ドーシイ（荒木） 敏子



高校を卒業し五十年。そして、日本を離れて生活を始めてから四十数年が経ちました。

本当に、あつという間の半世紀でした。今思い返せば、沢山の楽しいことがあつた高校生活でしたが、その一つをここで、ご紹介させて頂きます。

自由な服装ができるようになってきた二年生のある日、どういいうわけかク



ラス全員が、制服（標準服）を着てくることを決めたのです。当日、学ランを着てこなかった数人の男子は、隣のクラスから急いで借りてきて、間に合わせました。一時限目、国語教師、前中先生の授

業。先生が教室に入られ、起立、礼、着席すると、前中先生はクラス全員を見るなりびつくりされ、「氣にいった！この時間は自習にしてやる!!」。そして我々は喜んで、新宿御苑に行くことにしたのです。

問題は、次の授業が始まるまでに帰って来なければならぬ。そこで門を使わない裏の手を考えたのです。当時、体育館の横に位置する御苑との間の塀には穴があり、修理されてもまた開けられるという繰り返しだったのです。その場に行ってみたのですが、穴は埋まっていて、使用不可。体育館の裏側は職員室から死角。その上、盛土となっていて塀は胸の高さしかなく低い。我ら女子六〜七名（わがクラスは、女子全員で十三名）は、その塀を飛び越えることを決め、スカートの標準服姿で塀によじ登り、御苑側に飛び降りたのです。

しかし、御苑側の地面は低く、着地は思ったよりも大変でした。実際、一人の女子は足首をくじいたようでした。無事に入園（侵入）し、意気揚々と歩いていたら、警備員さんとはったり。「君たち何してるの？学校にいる時間でしょう？」と尋問され、それに対し

「先生が自習時間をくれたんです。何なら学校に連絡してみてください。」というような返答をした記憶があります。

今思うと、早朝だったので開園するかしないかという時間で、不審に思われたのでは？ 我ら女子の決断力、行動力の賜物でした。

余談ですが、私は穴から侵入して御苑に入った記憶はありません。いや、本当に穴から侵入したことがないのか、そのことすら覚えていないのか、それすらハッキリしない今日この頃です（笑）



「デフリンピック」と

「手話」雑感

G組 木多（石井） 浩子

ろう者のオリリンピック「デフリンピック」をご存知ですか？

四年に一度開催されるデフアスリートのための国際的なスポーツ大会です。全ての合図を視覚的に保障する以外はオリリンピックの競技ルールに準じています。知名度は低いのですが、二〇二

五年十一月東京で開催されることが決まり、世界から聴覚障害者が集います。一九二四年に第一回大会が開催されてから、一〇〇年目の記念の大会となります。

最近映画テレビのドラマやコマーシャル、ニュース、そして特にコロナ以降行政等の記者会見でひんぱんに目にするようになった『手話』。私が初めて手話を学んだ四十数年前には『手話』という言葉がこんなに社会的に認知されるとは、想像もできないことでした。

当時、ある聴覚障害の人から言われたことが忘れられません。

「街で私を見かけても、手話で話しかけないでほしい。わたしが聞こえないことがわかったら、子供がいじめられる」深く考えず手話を学んでいた私には、衝撃でした。かつて手話は差別される隠したい言語だったのです。

手話が注目され、手話通訳を頻繁に目にするが増え、理解が広がったことはとても嬉しいことです。でもその手話の向こう側には聞こえない人たちがいちがいて、彼らは何十年もかけて、差別と偏見、否定され続けた手話が言語として認められるためのろう運動を続

けて来たのです。そこにも注目してほしいと思っています。

二〇二二年六月東京都議会において手話言語条例が全会派一致で可決、成立しました。今全国の市区町村でも制定する動きが加速しています。そこには、手話を当たり前のように使える社会の実現、という聞こえない人たちの思いが込められています。

興味がありましたら、手話講習会に参加して魅力溢れる手話の世界を体感してください。

ついでに国際手話も学んでいただき、是非デフリンピックにボランティア参加を。

そして、只今デフリンピック・スポーツ―絶賛大募集中！！（ご連絡お待ちしています）

お世話になった三人の担任

H組 岡崎 真彦

在校三年間で三人の先生に担任して戴いた。三年で三人だと毎年担任が変ったと思われるだろうが、二年次三年次はクラス替えがなく新宿高校始まって以来初となる複数担任制となった。同窓会名簿によると複数担任制は

二五回と二六回の二世代だけである。

一年次は数学の岩波裕治先生が担任だった。岩波先生は諏訪清陵高校卒業後、東京大学の受験に失敗、横浜国立大学に入学。その年の秋に実家の主である長兄が逝去、実家に呼び戻され大学を中退。実家の問題解決後東京教育大学に入学、都立高校の数学教員になられたとのこと。長兄が亡くならなければ教員になることはなかったであろう。岩波先生は当時NHKの高校講座を担当していた。背広にネクタイ、白衣をまとい背も高く凛とした出で立ちであった。授業では対数をログと言わずロガリズムというところが特に印象に残っている。最後にお会いした二〇一八年の同窓会で、母校の諏訪清陵高校が中高一貫校になったことをとても喜んでおられた。

二年次三年次は、地学の豊澤弘正先生と美術の吉江新二先生に担任して戴いた。豊澤先生の地学の授業は、残念ながらあまり覚えていない。専門は地学だが漢文への造詣が深く、一度生徒の名前を中国風に呼んだことがあった。私の名前は「コウシンゲン」と読むそう、戦国時代の武将っぽい響きが気に入っている。

吉江先生の授業は、美術を選択しなかったのが受けたことがない。級友の話では、細かな指導はないが、色使いでは「黒は使うな」と言っていたそうだ。ストーンズとは逆の「Do not paint it black.」や、ういとか。クラス会の時に三分ほどで描いていた私の顔のラフスケッチは経済的価値はなくても宝物の一つである。

ここからは私事になる。エリザベス女王とほぼ同時刻に誕生したことが自慢の私の母が終活の一貫か、数年前に私の高校時代の話をしてくれた。手のかからない努力家の姉二人と異なり真面目とは程遠い私の扱いに困った母は、父に高校の先生に相談するよう依頼したところ、子育てには無関心と思われた父が快諾し、豊澤、吉江両先生と面談したとのこと。面談内容は、母も忘れてしまったが、父と両先生とはすっかり意気投合し遅くまで語り合ったそうである。私の父は東京高等師範卒業後、徴兵される前の数年間旧制府立中学の美術の教師をしていた。豊澤先生とは母校で、吉江先生とは教科で繋がりがあったためと想像できる。豊澤先生、吉江先生が存命の時に聞いておきたかったエピソードである。



以上、卒業五十年を迎えた新二五回のA、H組各クラスの代表が書いてくれた記念文章です。

途中の何枚かの写真は、これまで実施してきた同期会の集合写真です。集合写真が何処で、如何に上手く撮れるか？これが同期会を開催する時の場所選びの判断基準の一つになるくらい、新二五回にとって集合写真は拘りです。

そもそも新宿高校は旧制の第六中学に始まり、学制が新制となって第六高校を経て、新宿高校と変わってきたのですが、旧制から新制となつてから同窓会の卒業回に旧と新を付けて区別するようになりました。我々が卒業した頃はこの新旧の区分けが残っていて、第二五回ではなく、新二五回と呼ばれました。ところが最近の同窓会名簿を見ると、旧制のほうは中第〇〇回で、新制が第〇〇回と表記しています。何時から新制に新を付けなくなったのか知りませんが、我等新二五回としては、卒業の時に名付けてもらった新二五という呼び名のほうがしっくりきます。で、最初の見出しのところも新二五回とさせてもらいました。ちよつとした拘りです。

代表幹事 渡辺 康隆

卒業六十周年

……喜寿を過ぎ、みんなで生きれば怖くない

いちご会

15回

我々の同期会は、一九八八年に、秋山小南君など有志数人によって、卒業二五周年の集まりが新宿西口の高層ビルで開かれてから盛んになった。二〇〇一年には、「いちご会」と名付けられ、二〇一八年（第十一回）まで続いた。

さらに、「ミニいちご会」は、西出紀久君を中心とする各クラス幹事によって、二〇〇五年から二〇二〇年（第四十回）まで続き、新型コロナウイルス蔓延の中、小林征男君が設定したりモートで二〇二一年にも開かれた。こんなに密度の高い同期会は経験したことがなく、仲間の結束がいかに強いかを示している。

我々の多くは、新宿高校で、必ずしも希望に満ちた青春をすごしたわけではない。悩み、もがき続けていた。それから数十年後、「ミニいちご会」で学友に会い、何とか生き延びてきたことの喜びを確認し合っている。

その一方で、同期会に出てこられなかったり、連絡がつかなくなったりし



2017年1月17日 四谷クラブでのミニいちご会
元最高裁判所判事の金築誠志さんの叙勲祝いと新年会

た人々もある。年月がたつに連れ、病に苦しむ人や天の星になった友も増えつつある。だからこそ、多くの仲間呼びかけたい、「おーい、生きているか、みんな集まれ！」。

以下、そんな思いを込めて、クラスごとに書いてもらった珠玉の文章である。

(G組・横田 堯・D組・馬場悠男)

新宿高校の英語と私

A組 石川 智雄

卒業から六十年、その間折に触れ思い出されるのは英語との縁です。そもそも新宿高校入学は偶々でした。父親から「尊敬する沢登校長がいるから受験しろ」と言われましたが、私の成績やそこが全国有数の受験校である事など関係なしです。

さて英語ですが入学した途端ビックリしました。世田谷の田舎中学から来た途端「Slias Marner」だ、Shakespeareだと言われても(はあ...)です。そこは当時日本でトップレベルの英文学の為の英語教育の場だったのだと思います。卒業までの三年間面

白くも何ともありませんでした。(宮崎先生スミマセン)

その後希望通り航空工学の教室に入ると違う驚きが待っていました。いきなり原書の「Airplane Performance Stability and Control」です。これもこれは挑戦し甲斐がありました。

卒業後商社の航空機部門に入りましたがいやでも英語漬けとなります。何かの折に宮崎先生にお会いした際は「え？君が商社？それで米国駐在？」と言われ、(あの英語の劣等生が：信じられない)という様子でした。それから延べ二十年米国駐在となり六五歳で退職しましたがその間英語は必須のToolでした。

リタイア後も娘の英語教室を手伝わされ英語と縁の切れぬ日々です。

寄せ書き

B組

在校中に沢登哲一先生に賀状を出しましたら、『新宿の哲』という名の賀状が届き、一瞬ドキッ！校長からと分かり安堵しました。(鹿島(水野)葵)

在校時代に嬉しかったこと…ラクビーのタックルで褒められたこと、苦手の英語では採点ミスで成績上位に貼り出されたこと。驚かれたこと…数学の横座標の左を+右を-に書いたこと。(川西洋)

園遊会とは知らず塀を乗越え新宿御苑で弁当タイム。パトカーに捕まり生徒貫い下げ事件発生。(三枝龍次郎)

在学中は大方の級友が学業主体派に對し私は教室外活動主体派でした。今でも続く級友、後輩との交流が我が人生の調味料。(竹内光介)

昔御苑の前にあった街頭テレビに人だかり。なんとケネディ大統領暗殺のニュース。アメリカは青春でした。われわれも青春真っ盛り、日本経済も青春に向かっていました。(立川正人)

山歩きの落ちこぼれが、未だ歩き遍路に秘湯・銭湯巡り、農園仕事にうつつを抜かしていられるのはおもしろきこと哉。(船津重宏)

一年から三年まで同じクラスでした。

高校時代の想い出は共通の話題なので、ミニクラス会状態の生活が続いています。(宮寺勝之・宮寺(三川)富士子)

墓を買う

C組 間山 周子

昨春秋、墓を衝動買いました。今流行りのペットと入れる樹木葬の墓地だ。それまで、子供もいないし、どこかに散骨するかと話していた。

きっかけは、TV番組72時間ドキュメント「樹木葬の下のあなたへ」だった。広々とした公園のような墓地で、ピクニックのように参る家族連れ、一人でビール片手に先に逝ったパートナーに話しかける女性。これもいいねという話になった。

隣町にある寺の墓地を見に行った。檀家の墓が並ぶ奥の一角に植栽が並んでいて、その足元に小さな石板が並んでいる。墓に刻まれた文字や絵は様々。明るく軽やかな居心地良さそうな場所だ。

二人用の墓に、ペットは副葬品として何匹でもという。三十年の間に何匹もの猫を見送り、今も共に暮らす猫が

いる。ちょうど、予定外の収入もあり、思い切って買うことにした。皆一緒に入るこの墓に何を刻むかが目下の課題。どちらが先になるのか、残った方が散歩がてらに墓参りする日はいつのことだろう。

国際機関で働いて

D組 川合 昭夫

私は都銀勤務の中、三十年代後半の四年間、アジア開発銀行で国別担当の仕事をしました。色々な国籍の上司や同僚がいる国際機関で感じた仕事のコツは次のようです。

①意見は明確に発表。日本的な以心伝心、阿吽の呼吸はないので、会議や文書で明確に発表すること。良い意味で、うるせー奴になる。

②自分宛でないCC文書へも反応すること。CCは観ておけば良い訳ではなく、自分の賛否や質問を返しておくことが肝要。何も反応しないとつんぼ状態に置かれる。

③秘書と日頃から良好な関係保持のこと。時々は大部の文書作成等での海戦術が必要で、秘書自身やその仲間

の力に頼ることもある。

④パーティでの情報交換も積極的に。残業をやっても仲間は認めない。同僚上司の主催するパーティで顔を売っておくのも仕事の内。時々自分が主催する側になることも必要。

⑤相手側政府との信頼関係醸成。当然不可欠。

以上はSNSもない八十年台前半の国際機関での処世術でしたが、現在に通じる点もあるような気がしています。短期ですがアジア諸国の発展に資する仕事に就けたことは貴重な経験でした。

興国の鐘のこと

E組 杉野 和彦



六十何年前に通った校舎の正面右手に、蔦が絡まる鐘塔が建っていました。ここに吊ってあった戦艦三笠の鐘（興国の鐘）は、戦時中だか終戦直後だかに接收を避けて校舎敷地内に埋められ、それ以降行方知らずと伝えられます。ただ、先年横須賀に保存されている三笠を見学したところ、鐘がちやんと吊るしてあるではありませんか。

さらにあるブログには、さる高齢者施設に興国の鐘があること、写真も掲載されていました。また、三笠の甲板には二ヶ所鐘が設置されていて「被弾した三笠の時鐘」なるものも展示されている、などという情報もありました。保存艦三笠は戦後、駐留軍の手によりキャバレーや水族館になったりしています。そういう状況下で日露戦争当時の鐘が保存できるかどうか、疑問には思います。鐘に使われている金属の成分分析などをやってみれば作られた時代特定は可能かとも思いますが、これは謎のまま、そっとしておいた方がいいのかも知れません。

（杉野和彦さんはその後病に倒られました。在りし日を偲び、ここにご冥福をお祈り申し上げます。 十五回幹事）

御苑の縁

F組 秋山 小南

百年ほど前に新宿御苑の一部を校地としてスタートした府立六中以来、新宿高校は御苑と深い縁を持っている。初代校舎で過ごしたあの時代、第二グラウンドとはコンクリート塀で境されていたが穴が開いていたり塀の下にトン

ネルがあつたり第三グラントと呼ばれもし今でも同期会などの集まりでは必ずや数々の武勇伝が語られる。

第二グラントに建った二代目校舎では教員として過ごしたが、全クラスから御苑が眺められ都心とは思えぬ静かな環境、朝日に輝く御苑の新緑に癒され真夏の濃緑秋の黄葉の樹々に心慰められとくに雪化粧した落羽松の凜とした姿、卒業アルバムのカラス写真は全部御苑で撮られ体育館裏の扉に接して置かれた廃棄機と椅子を含めここで過ごした卒業生には御苑は忘れがたい思い出になつてゐるはずだ。

三代目現校舎では間に明治通りのパイパスが通り直接関われなくなつてしまひ原発除染土の実験場にもなること、でもまたきつと新たな関わりが出来て行くことだろう。



自分史にみる高校時代

G組 有澤 誠

妹尾河童の自伝小説「少年H」に触発されて、自分史をまとめようと思ひ立ったのは還暦を過ぎた頃だった。親

の時代、少年時代、青年時代、社会人時代と書き進めてきたが、いまだに書き終わらない。

読み返してみると、高校時代の記述が他のどの時代よりも詳しく内容も輝いている。老境にある実感としては三年なんて一瞬の間に過ぎ去る時間に過ぎないのだが、高校時代の三年間のなんと濃密なことよ。記述は決してポジティブなことには溢れている訳ではなく、むしろ重苦しい内容が多いのは不思議だ。対して社会人の時代の内容はあまり濃くはない。おそらく経験した内容が同じことの繰り返しだったからだろう。

とにかくこの三年間はその後に続く人生の養分を吸収する時期だと言えるだろう。たとえるなら、弾丸が銃身の中を火薬ガスの力で加速しながら運動エネルギーを得て、銃口を飛び出すまでの時間に相当する。その弾丸はため込んだエネルギーを一身に帯びて自由空間に飛び出すという訳だ。あの三年間があつてこそ今があると思えるのは幸せなことだ。



『有り難い』ミニいちご会

H組 西本 堯史

高校三年間の記憶は逆グラデーション、遠い時代ほど色濃くよみがえります。卒業後の交友は部活仲間と一年生の級友が大方ではなからうか。そんな偏りをかき混ぜ、新たな色彩の輪を広げてくれているのがミニいちご会。同期仲間です界の第一人者が高級弁当のおかずよろしく美味の詰まったウンチクを惜しげなく披露してくれる講座つきの懇親会。それも年二、三回、しかも家族同伴可。クラスのタテ・ヨコを越えての交わりが色濃くなり、連れ合い同士の親交まで生まれました。

この懇親会プレゼンは大学のクラス会にも取り入れ、十年ほども続いています。専門分野が同じのため話題は専ら各自が深めた趣味ですが、近年のコロナ下でもオンラインで盛況。

こんな様子を地元の文化サロン（のようなところ）で漏らしたところ主宰夫妻始め感心され、メディアに登場する我が同朋たちにもあらためて関心をいただいています。全く希有で『有り難く』ありがたい。永年の運営諸兄弟に感謝するところ多々頓首です。

<p>坪井昌造法律事務所</p> <p>弁護士 坪井 昌造 (26回)</p> <p>〒107-0062 港区南青山1-10-4 南青山NKビル4階 TEL: 03-5771-8041, FAX: 03-5771-8042 e-mail: tsuboi-lawoffice@muh.biglobe.ne.jp</p>	<p>やまぶき法律事務所</p> <p>弁護士 佐藤 貴則 (27回)</p> <p>〒101-0052 千代田区神田小川町2-1 シンコー・ミュージック・プラザ 5階イーストウイング TEL: 03-5577-6901, FAX: 03-5577-6902 e-mail: sato@yamabuki-law.jp</p>
<p>石束 (いしづか) クリニック 精神科・心療内科 (もの忘れ外来・睡眠外来)</p> <p>院長 石束 嘉和 (24回)</p> <p>〒157-0067 世田谷区喜多見8-18-12 コーポ真木4階 小田急線喜多見駅徒歩30秒 TEL: 03-6411-8739 e-mail: ishizukaclinic@yahoo.co.jp http://ishizuka-cli.byoinnavi.jp/</p>	<p>税理士法人 アドヴァンス会計</p> <p>副代表社員税理士</p> <p>松野 (平田) 淳子 (27回)</p> <p>〒154-0004 世田谷区太子堂1-12-39-7F TEL: 03-5787-3255, FAX: 03-3413-6255 e-mail: j-matsuno@advance-tax.com</p>
<p>山本会計事務所</p> <p>税理士 山本 展也 (27回)</p> <p>〒150-0042 渋谷区宇田川町2-1 渋谷ホームズ508 TEL: 03-5459-3411, FAX: 03-5459-3413 e-mail: LDZ00547@nifty.com</p>	<p>いわさき眼科 都立新宿高等学校校医 (眼科)</p> <p>医学博士・眼科専門医</p> <p>院長 岩崎 寿子 (35回)</p> <p>〒160-0022 東京都新宿区新宿3-32-5 日原ビル3F TEL: 03-5367-5455 http://www.iwasakieyeclinic.com/</p>
<p>島崎会計事務所</p> <p>公認会計士・税理士</p> <p>島崎 主税 (28回)</p> <p>〒160-0023 新宿区西新宿7-1-7 A310 TEL: 03-3361-4793 e-mail: cpashima@ace.ocn.ne.jp</p>	<p>登坂法律事務所</p> <p>弁護士 登坂 真人 (29回)</p> <p>〒153-0044 東京都目黒区大橋1丁目2番10号 ライオンズプラザ池尻大橋706号室 TEL: 03-6712-7773, FAX: 03-6712-7774 E-mail: cxn02345@nifty.com</p>
<p>矢島税務会計事務所</p> <p>税理士 矢島 守 (34回)</p> <p>〒190-0002 東京都立川市幸町1-14-12 SHOEIビル301 TEL: 042-537-9660, FAX: 042-537-9661 e-mail: yajimal15417@jcom.zaq.ne.jp</p>	<p>中村・木原法律事務所</p> <p>弁護士 中村 悦朗 (35回)</p> <p>〒160-0004 新宿区四谷1丁目10番地 第2上野ビル2階 TEL: 03-6384-1230, FAX: 03-6384-1231 e-mail: nakamura@law-nk.jp</p>

コロナ禍の館山寮管理人日誌

下島正幹（二三回）



三年ぶりの夏季管理
人業務は、まずは、
例年通り、六月から
のEメールでの在宅
一般宿泊者受付業務
から始まりました。お馴染みさんが多
いけど、初めてのお客さんも何組か。
今年も厨房の事情で食事無しなので、
返信のメールに、近所の食事できる場
所等の説明書きを添付して送りました。
毎年、「駐車場はありますか？」とか
「前の海には海の家がありますか？」と
なんて全く寮の環境を知らない人から
の質問もあつたりすると、「駐車場つ
てのは特にはないのですが、まあ皆さ
ん適当な所に停めてます」、「海の家は
無いですが、手作りの東屋ならありま
す」とか、こちらもどう答えていい
か困つたりするのは毎年恒例（笑）。

七月に入るといよいよ臨海教室の準備「開寮作業」の開始です。今年は一六、一七日の二日間で水泳部OB／



用の穴掘り等々の作業を、私の様な高齢者が極暑の中やると五分もしないうちに熱中症で倒れそうな重労働ばかりをワイワイと手分けしてやってくれました。日当も出ないし交通費も新宿からしか出ないのに、アルバイトも学業もあるだろうに、文句も言わず、むしろ嬉しそうに、綿密な作業表まで作つ

OGが延べ二十名ほど駆けつけてくれて、部屋掃除、スノコ洗い、新しくできた渡り廊下のスノコ購入と手作り、手漕ぎボート&和船を船倉から出し、浜の東屋の建設、沖へのブイ設置、貸し布団類を各部屋に分配、草刈り、焼却



教室中の井戸とポンプ君達のお世話でした。

て作業してくれる後輩たちには、閉寮作業も含めて、本当にいつも頭が下がります。

寮の水回りは、足流し場用は直接蛇口へ、トイレを流す水は三本の井戸からそれぞれポンプで八トンの地下貯水槽に貯め、それをさらに送水ポンプ二台で送り、そのほか飲み水、風呂、シャワー等の水道水は一五トンの貯水槽※1からポンプで二台で送っていると言う複雑な仕組みになっています。従って、晴れの日が続くと洩れる我がままな井戸四本、時々動かなくなるもっと気まぐれな井戸ポンプ君四台、たまに非常ランプが点灯してリセット

する必要のある送水用ポンプ君四台の面倒を見る必要があるのです。

臨海教室中の体教の先生方も教師補助役のOB/OG達も忙しくて、そんな我がままな奴らの面倒を見ている暇はないので、私が滞在して見張って居られれば良いのですが、いつもの年は部屋は満室状態。※2 今年も私の泊まるところがなかったので、日帰りすること三往復。東京に居る間は、「水が出ない！」と電話がかかってくるか、冷や冷やして夜も眠れませんでした。(ウソ)

今年も新築工事と同時に井戸ポンプ二台を新品交換したこともあるし、雨が適度に降ってくれたので、井戸が涸れたり、ポンプのインペラ※3に小石が挟まって分解掃除する必要もなくて、皆イイコにして居てくれたので、ただ様子を見に行くだけで済みました。井戸君達はそれぞれ深さや水の貯まり具合が違って、コンクリの蓋をそおと開けてみるのは、なかなかスリルのある瞬間です。(心臓には悪いかも)

過去には足洗い場用の井戸以外、全部枯れてしまい、飲み水用の貯水槽の様子を見ながら、水道水を臨時にホースを延長して二四時間注ぎ足した事が

ありました。

さらに遠い過去では、すべてが井戸水だったので、湯水時に、臨海教室の生徒達が、トイレを使う前にバケツを持って海水を汲んで来て流したと言う年もあったそうです。

送水用のポンプも男女寮用に二台づつあって、片方が止まっても両方に送水できるように配管してあるのですが、開寮中に何かないか、何かありませんよーに！と臨海教室中と一般宿泊期間中は、毎朝、「どうかポンプ君達を守りください！」と地元浅間神社に毎朝、お参りに行っていました。(ホントはシーズン初めと終わりに各一回のみ)(笑)

実は今年、閉寮後の草刈りのため何名かで訪れていた九月にトイレ用送水ポンプ君が一台逝き、十月には二台目もお亡くなりになり、開寮中でなくて良かった！これも浅間様のお力か？と胸を撫で下ろし、草刈り要員達は、用足した後、風呂の残り湯をバケツで汲んでトイレを流したのでした。(涙)

(現在は二台とも新品交換済み)。

臨海教室の最終日に入寮、水泳部の懇親会も無事終了すると一般宿泊が始

まり、夏季管理人の長逗留が始まります。三年ぶりと言うこともあって申込者が殺到するかと思いきや、感染が怖くて。とキャンセルするお馴染みさんもいらして、今年は満室になったのは旧盆の土曜日の晩だけでした。

毎年、初めてのお客さんが大騒ぎするのは、寮では普通に見られるアシダカゲモカ、その抜け殻です。確かに都会では滅多に見られない大きさなので、慌てて報告に管理人室に駆け込むお客さんも何人か居ます。そんな時は、「毒も無いし何も悪さしないので、今度見た時は名前を聞いておいてください。お客さんの前にはあまり姿を見せないように言い聞かせておきますから。多分、太郎か二郎だと思いますので」と言う事になっています。長年、寮生活をしていると、クモの顔形で名前が分かってくる様になるのです。(大ウソ)

しかし、たまに姿を見せるムカデ※4は、こいつは危険！刺されると、かなりひどく腫れるし、普通の殺虫剤では死なないので厄介です。発見の知らせを聞いたら、ムカデ専用のスプレーをもって広い寮内を駆け回って駆除す

るのも管理人の重要な仕事となっております。幸いにも、今のところ、殺処分したムカデは三郎と四郎の二匹だけで済んでいます。 (笑)

一般宿泊が始まってからも、申し込みはEメールで来るので、チェックのため、パソコンからは目が離せません。今のネット通販などだと、申し込み後、数十分で返事が来る事が多いので、翌日まで持ち越すと、「届いてますか?」と電話がかかってくる事が多いのです。読んだら直ぐに「受付完了しました」の返事のメールを書き、部屋割り表に人数と日数を記入。ダブルブックイングの無い様に気を使います。

到着前に、部屋の横に**様 (xx回) 八月yy日n泊と書いた紙を貼って回るのも、男子寮の端から離れ棟まで歩くと、かなりの距離を歩くことになるので、適度な運動量になります。 (笑)

午前中にそれが終わると、一番退屈な、お客様到着待ち。

到着したら、部屋番号を知らせ、シート・枕カバーを人数分渡し、帰りには七号室の布団部屋の前に返してお帰り願いたい旨を伝える必要があるの

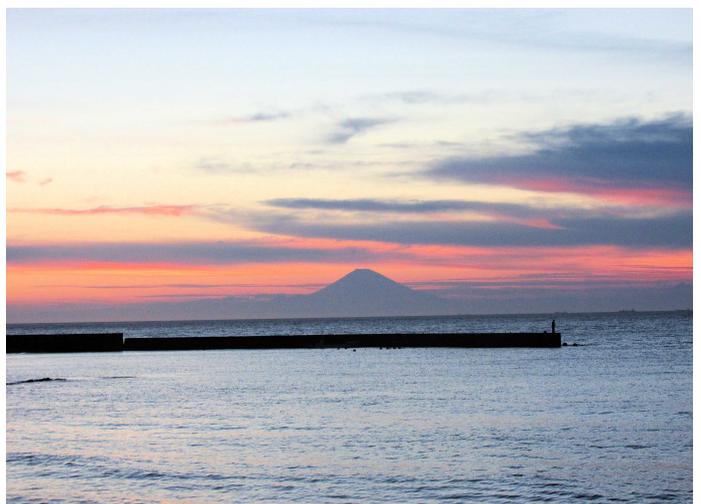
で、その日到着のお客様が全員到着するまで、管理人室から離れられませんが、お昼過ぎに全員到着した時は、少し時間に余裕ができるので、草刈り、ごみ燃やし、買い物ができます。

それが終わると、日の落ちる少し前に、やっと海に入ることができます。しかし、毎日一七時に流れる有線放送の「夕焼け小焼け」※5のメロディを聞きながら、寮の前の小さい湾内を独り占めして泳ぎ回るのは普通はできる事は無いので「生きてて良かった!」と感じる至高の気分です。

沖方向に泳ぐと左オープンの時、夕風の海の上に真っ赤な夕日と富士山が見えた時は、このままどこまでも泳いで行ってしまいたい気分になります。ある日は、気が付いたら、晴海埠頭に着いてしまいました。(ウソ)

話は戻りますが、「海の家等」の無い寮の前の湾には、当然の事ながら、一般海水浴場だと常駐する「監視員」は居ません。いくら「鏡浦」と呼ばれるほど波の無い館山湾の中の小さな湾内とは言え、「絶対安全な海」なんて、この世にありません!

泳げないお子さんをお連れの際は、



子供から絶対に目を離さないように、お願いいたします。 ※6

館山寮の「百年間無事故」の記録がさらに十年二十年と延びます様に!と、身体が動く限り「夏季管理人」を続けるつもりがこの高齢者からの思いを、どうか、叶えてくださるよう強く、強く! お願いいたします!

終わりに、春からほとんど毎月の様に草刈り、草燃やし等をやってくれた朝陽水泳会館山寮設備管理分科会のメ



ンパーと、お手伝い下さった三一回生の皆様、PTAの皆様、PTAの皆様に厚く御礼申し上げます。また、PTAの皆様と、新寮建築のために多大なるご寄付を頂いた方々に

厚く御礼申し上げます。
(朝陽水泳会会長ことシモちゃん)

※1 県道の下を走る本管より十三ミリの細い水道管しか来ていないためにどうしても貯水タンクが必要。

このシステム。読んでもさっぱり判らないでしょう？私は理解するのに設備屋さんに丁寧に教えてもらって丸々二年かかりました。

※2 今年は一クラスずつ一泊だったのが、コロナ対策のための隔離部屋を準備しておく必要があったため。



※3 ポンプの主要部。微妙な隙間で金属のプロペラみたいなのが回っているのです、小さな石でも入ると、すぐに噛んで

回らなくなる。

※4 房州弁では「ハガチ」と言う。室内よりもトイレ・風呂場の水の有る所に居ることが多い。ちなみにアシダカグモは「バイグモ」と言う。

※5 正しくは「防災行政無線」館山市では、週末と祭日には、地元出身のXジャパンの「フォーエバー・ラブ」が流れる。

※6 数年前に一般宿泊客が息子さんを助けようとして溺れ、危うく死亡事故が発生しそうになったが、水泳部OB・N氏の活躍で、心肺蘇生を実施、AEDを使い、救急搬送後、ドクターヘリで大病院に運ばれ一命をとりとめたと言う事件があった。(汗)



寮の前の海岸からの夕日



このQRコードから
再建された館山寮や
令和4年度の臨海教室の様子をご覧いただけます。

再開された臨海教室記念撮影



皆様の寄付金で再建された
館山寮 (旧男子寮側)



アメリカに渡って四十年

石渡和恵（三一回）



新宿で生まれ育った私が、大学卒業後、片道切符とスーツケースふたつだけ持って、ここアメリカにひとりやって来たのが、ちょうど四十年前のことになります。

当時私の家族は、私を含めて海外経験ゼロ。誰一人パスポートすら見たことがなく、今思うと何と無謀なことと、両親は途方もなく心配したことでしよう。留学するお金がなかったのですが、薄給とはいえアメリカの現場でマーケティングの仕事をしてお給料をもらえる企業研修の機会を見つけたのが、渡米の後押しをしてくれました。実は大学在学中から狙っていたことで、家庭教師とベビーシッターのアルバイトで、片道切符分とある程度の生活費の基盤は自分で貯めて、万事企んでいました。つまり両親には私を止める術はなく、しかも「いつ帰ってくるのか分かりません」というとんでもない話。おそらく両親は、私には最初からあまり日本

に戻る気がないことを察していたのではと思います。自分自身が親の身になって改めて、両親の気持ちを考えると、きつと眠れないほど心配していたのではと思います。実に申し訳ないことをしたものです。

そしてやはりその後日本に住むことはなく、四十年経った今、西海岸のシアトル・タコマ国際空港で、国際路線開発事業を担当する部長の職に就いています。この職も長く、これまでやりたいと思ったことは一応達成することができた感があるので、そろそろ引退を考えるような今日この頃です。これまでの四十年が頭の中を走馬灯のようにめぐり、やり直したいことも後悔することもなくたくさんありますが、はつきりと感じるのは、あの時単身アメリカに渡る決心をしたことは、おそらく人生で最良の判断であったということだと思います。

ではなぜそのころアメリカに来るつもりになったのか、という話になるのですが、それは正直に申し上げて、一女性として日本の職場の将来に期待を持てなかったからです。大学在学中に出席した、とある外資系の企業の就職説明会では、まだ男女雇用機会均等法

の施行前だったこともあり、企業側は何のためらいもなく、男子の場合はこちらの仕事（いわゆる総合職）、女子の場合はあちら（一般職）に進んでいただきます、という説明をし、これには完全に打ちのめされました。あえて伝統的な日本企業を避けて、外資の企業に出向いたのに関わらず、でした。結婚して妊娠したら辞めてもらいます、とはつきり言う企業もありました。女性には、キャリアと家庭を両立することができたらどうかと議論されるのを聞くたびに、男性は自分の仕事と家庭を両立できるかなどと悩んだことすらないのに、なんて理不尽な話、と嘆きました。

思えば他にも様々な理由があり、私はいわゆる「出る杭は打たれる」の杭でした。あちこちと杭の出ているような国のアメリカに行けば気が楽だろうと思ったのですが、それ以上の衝撃的な出来事がありました。シアトルに到着してほんの二週間としないうちに、街で買い物しに歩いていると、地元的女性によびとめられ、道を尋ねられたのです。つまり、日本で生まれ育った黒髪で黒い眼のどっぷりアジア系の私が、シアトルの土地を知る地元の人と



カサブランカ空港にて

思われたのです。私は彼らにとつて、「ガイジン」には見えなかったのです。一九八三年のことです。これはしばらく考えさせられた経験で、言い換えれば、人を一個の人間として見ることも大切さを教えられたきっかけとなるものでした。インターンとして仕事を始めて感じたことも、シアトルの人のほとんどは、私に「日本人」「女性」「若い」などというレッテルを貼る前に、まず私というひとりの人を知ろうとしてくれました。それがとてもありがたかったし、私にも学ぶこと満載の日々で、充実した経験が続きました。

アメリカに来てから、ポート・オブ・シアトルという州や市とは独立採算の公的団体（空港、港湾施設、客船クルーズターミナル、漁港などを所有・運営）に職を得て、国際渉外や観

光促進などに関する仕事をしました。そして観光促進の仕事を通して航空会社とのつながりを得て、空港マーケティングという仕事に出遭いました。

空港マーケティングは、データ分析に基づいて構成されるビジネスケースを作る手応えがありますし、失敗も含めて結果がはっきりと見えるところが魅力でした。大学のゼミでは消費者行動研究でしたが、その関連で統計学も学びました。数字をいじるのは好きですし、飛行機好きですし、交渉は得意ですし、国際関係に関わりたかったので、色々な面で実に私の好みにぴったります。私にとって天職であったのかもしれません。望んでそちらに転向しました。

職場では、上司は私がグリーンカードを取得できるよう弁護士を立て、無事永住権を得てのち、三十代半ばにはアメリカ市民権も持たない私に管理職を与えました。その部下には男性や白人はもちろん、年上の職場の先輩も含まれていました。ジョブ型雇用が奨励されるようになった日本でも、おそらく未だになかなか可能ではないことかと思われず。

印象に残る経験は数ありますが、自

分を目覚めさせたことのひとつに、上司から「日本専門家を目指すな」といわれたことがあります。最初の上司は私を日本のエキスパートと位置付けたのですが、次には自分で自分の壁を作ってはもつたいたい、世界の市場をよく知るのになぜ日本の仕事ばかり？と言われ、はっと気づかされたものです。その後は国際部門の専門を目指し、コロナ禍に入る前の年に動いた国の数は、一年に十五か国に上りました。

このシアトル・タコマ国際空港の国際路線開発という仕事は、ひらたく言えば、世界の航空会社を相手にマーケティング活動を行い、戦略的な路線を地元の空港に開設させるべく、誘致活動からビジネス・ケースの作成、および各国の航空会社本社での直接交渉までを担う仕事です。

航空会社は私たち空港の者にとって、大事な顧客であり、それを利用する乗客はもちろん。その航空会社がなければ存在しません。また大きな国際線は、着陸料その他の直接収入を空港に与えるだけではなく、地元の経済活性化の中心的な役割を担い、大型機の国際デューリー路線は、年間百数十億円にのぼる経済活動をその地域にもたらすと計



アイスランドの旅行セミナーでの講演

算されています。

というわけで空港間の競争は激しく、どの空港も我をと手を挙げるわけですが、決定権はあくまで多額のリスクを負う航空会社側であり、収益性の確認ができて初めて決定できることです。そこまで持つていくまでの戦略はかなり専門的なデータ分析が中心で、路線の予想集客数の算出から、戦略に見合った機種の選択、アライアンスの均衡性、各国運輸省等との航空協定のロビーイングまで、広範多岐に渡り、かなりの航空オタクにならないければ分からない話だらけです。私の場合は気が



2012年アラブ首長国連邦アブダビで開かれた国際航空会議にて空港マーケティング賞を受賞
壇上中央 表彰盾を持つ筆者

付いたらいつのまにかの航空オタクでしたが、これは極めて幸運な人生の流れだったのかもしれない。アメリカにいたからこそこのことかとも思います。幸運に恵まれた経験は数多くあるように感じます。

若いころはがむしゃらに働き、休みを少ししか取らずにいたものですが、上司に休みの取り方が足りないといわれたことがあります。有休を消化して

いないからではありません。私がおちちと数日ずつちよびちよびと休んでいたら、そんな休み方ではリフレッシュの目的が達成されないだろう、「遊び方知らないやつにいい仕事ができるはずはない」と一喝。その上司自身が休みを取るときは、一度に三週間くらい留守にしたものです。

なるほど、と感嘆しました。日本で働き方改革が提唱されるようになって久しいのですが、働きすぎがいけないのではなくて、遅くまで沢山働けばえらいのであって、そんな頭で創造性豊かでイノベータータイプな発想ができるはずはないのです。毎日残業で遅く帰って家族との時間を共有することなく仕事しかアイデンティティがない人に、顧客を本当に思いやるサービスを提供できるはずがないのです。私が若いころの上司たちは全員、朝一番にオフィスにはいり（平均で朝七時から七時半出勤でした）その代わり午後五時にはいなくなりました。毎日家族との時間を作るために、なんとか五時までに切り上げようとする意気込みと集中力、そして結果的に得られる高い効率性は、日本の職場ではあまり感じられ

ないものでした。

ということでは私はちゃっかりとその理解ある職場の恩恵を受けました。子供が小学生のときは毎年夏に二か月ものあいだシアトルのオフィスを空け、新宿の実家に滞在して、今どきというリモートワークとバケーションの混合を活用したものでした。アメリカの学校は六月半ばには学年が終わるので、その後日本に移動して一学期終業まで、息子を日本の小学校に体験入学させることができました。これは彼にとつてはかけがえのない経験で、アメリカ生まれ育ちで、父親がアメリカ人であるにも関わらず、息子は完全にバイリンガル、バイカルチャルに育ち、成人した今でも私とは日本語だけで会話しています。高齢になった私の新宿の両親



息子の成人式を日本でお祝い

にとつても、アメリカ育ちの孫と日本語で普通に過ごせることは、私のちいさな親孝行かもしれませぬ。

自分の母親としての採点は六十点くらいしか付けられません。先月私が東南アジアへの出張から戻って疲れていた時、息子が夕食をつくると言ってくれて、それが八丁味噌で作る鍋うどんだったときは、うん、日本語と食事に関してはどうまく教育したものだ、と自分をほめました！

アメリカに渡ることを決心したことは、生涯でも最良の判断だったと申しましたが、その前に、バイリンガルになることを目指したことはその極めて大事な要素でした。四十年前、生まれて初めての海外が、観光でも留学でもなく、いきなり現地の普通の職場に飛び込むことだったので、当然言語力は必須でした。借りたアパートに電話を入れることも、確定申告を出すこともすべてが初めてでしかも英語で、毎日必死でした。中学一年で英語を始めた時から、英語だけは得意だったので学校以外でも教材を買って自分で勉強しました。そして大いに力をつけることができたのは、新宿高校時代だったと申しています。三年間実によい英語の

先生たちに恵まれ、貴重なアドバイスを受け、帰国子女の他校の生徒さんたちも参加する英語スピーチコンテストにおいても、賞を受けることができました。先生方に十分に感謝の意を伝えることなく卒業してしまったのが、今でも心残りです。

もし私が新宿高校の後輩たちに伝えられることがあるとしたら、それは自分で自分が本当にやりたいことを貫くことが、幸せへの一番の近道になることではないかということ。出る杭であることに慣れていた私には、「同調圧力」なるものは、なんとかのカッパのうちですが、自分で考えて自分で判断した行動には責任感を持つことになりません。周囲の期待に流されるのは違ったエネルギーと目的意識が強く、それがよい結果をもたらすことになるのではないのでしょうか。

高校時代は人格形成でも将来への夢を抱くにも大事な時期だと思えますので、人との出会い、先生との出会いを、インターネットの世界とその時間よりも大事にしたいと強く願っています。私の時代と違って、日本から海外旅行や留学を希望する若い世代の数が激減しているデータを見て、大変

残念に感じています。もし私がバイリンガルでなかったら、もし私が日本の外を見てみようと思わなかったら、今の私の生活は全く有り得ませんでしたし、仕事の話をする以前に、言葉は文化ですから、物の見方から世相感まで完全に違うものになっていたはずで、英語が私の人生を変えたといっても過言ではありません。

二〇二〇年に還暦を迎えた時はコロナ禍に突入して間もないステイホーム自宅隔離の時期でした。それでも私の誕生日を祝いたいとズーム・ミーティングを企画してくれた友人たちが、イギリス、フロリダ、コロラドからカリフォルニアまで、何人も画面に映り、シャンパーニュで乾杯してもらいました。その時は自分の人生が実に恵まれているものだと思感したのでした。これからは、若い世代に貢献できる何かができればうれしいな、と考えています。

(米国シアトル・タコマ国際空港

国際路線開発担当部長)



金融を熱く変える

山口省蔵 (三四回)



私は、新宿高校を卒業し、大学を卒業した後、三一年間、日本銀行で働きました。二十代は経済調査の仕事が多かったのですが、三十代以降は、金融機関関連部署を中心に経験しました。

金融機関関連部署では、考査の仕事をしたことがあります。考査というのは、金融庁検査と同じように、日本銀行が取引先金融機関に出かけて、二〜三週間かけて経営状況やリスク管理のチェックをする、というものです。日本銀行は、取引をする金融機関との間で、考査に入ることができるとの契約を交わしています。日本銀行から考査の通告がくると、金融機関としては、特段の事情がない限り断ることができません。

考査には、金融機関の経営状況の把握と同時に、問題点の改善を促す機能が期待されています。考査を行なっている日銀マンは、金融機関の足りない点を指摘して、改善を促します。

私が考査に行っていた頃、「ここは問題ですから、直した方がいいと思います」と指摘すると、大方の金融機関の担当者は、最終的には「分かりました。直します」とおっしゃいました。私は、当時それで、「金融機関の役に立った」と思っていました。

しかし、後からみると、金融機関の方は、指摘された部分だけを直していました。同じ文脈で考えれば、隣接する分野で見直さなければならぬ部分が残っていても、それは放置されていました。「分かりました。直します」と言っていたのは、納得していたからではないのです。逆らうと面倒くさいからでした。なので、言われたところだけを直していました。

振り返れば、私は、金融機関の方に對し、腹落ちしない話をしていたので、すから、役に立っていただけではありませんでした。検査する者とされる者の立場の違いは、表面的な納得を得ることにはプラスとなりましたが、本質的な納得を得ることにはむしろマイナスとなっていた気がします。押しつけていって、足りないところを指摘しても、相手の本当の気持ちを変えることは難しかったのです。

日本銀行での最後の七年間は、金融高度化センターという部署にいました。金融高度化センターは金融機関の機能向上を支援する組織です。具体的には、金融機関向けにセミナーや勉強会を開催していました。

金融高度化センターが提供するセミナーへの参加は任意です。希望する金融機関だけが参加すればいいのです。セミナーで話されている内容についても、納得したものだけを参考にすればいいのです。調査と異なり、金融機関に対する圧力がありません。金融高度化センターでは、職員が、各金融機関を回って、「いいな」と思った取り組みをセミナーで紹介していました。足りない点を指摘するのではなく、優れている点を取り上げるのです。この点も調査などとは異なる点です。

セミナーの最初の頃は、日本銀行の職員が講師として話す部分が多かったのですが、日銀マンが話しても、金融機関の方々は「日銀の言う理屈は分かるが、実務はいろいろとあって、そうはいかないんだよ」という気持ちで聞いている、というのが分かるようになります。セミナーを開催するたびに、匿名でアンケートを取ってしま

たので、参加者の本音が分かります。そこで、日本銀行の職員が話す部分を少なくして、金融機関の実務家に登壇してもらい、直接話してもらう部分を増やしました。

自分と同じ立場にいる実務家が話すのですから、聞き手の気持ちに「実務はいろいろとあって、たいへんなんだよ」といった言い訳が浮かびようありません。むしろ、同じ金融マンが、課題を乗り越え、新たな取り組みで成果を上げる話を聞いた人達がアンケートに書いていたのは、「俺もやってみよう」という前向きな感想でした。私自身は、調査の時も、金融高度化センターの時も、「金融機関の役に立ちたい」という気持ちは同じでした。

しかし、セミナー後のアンケートをみて、問題点を指摘するよりも、「金融マンが語る熱い物語の方が金融機関を変えられる」と思いました。

アンケートには、金融機関の参加者の方々からのお礼の言葉が書いてありました。たまに、セミナーのアンケートに、「感動した」と書いてくれる人がいました。私が日銀時代にやっていた仕事の中で、人から「感動した」と

言ってもらえたのは、この時だけです。そもそも日本銀行の仕事は、顧客からお礼を言われることがほとんどありません。日本銀行の目的は、物価の安定であり、金融システムの安定です。最終的な顧客は国民全体です。また、物価の安定も金融システムの安定も、安定している時には誰にも気づかれませんが、不安定になって始めて、「何やっつてんだ!」と気づいてもらえるような仕事です。

顧客からの「ありがとう」の言葉がこんなに嬉しいことだと初めて知りました。この仕事が気に入って、上司や人事の関係者に、金融高度化センターの仕事長く担当させて欲しいと頼んだところ、七年間もやらせてもらえました。

異動の話があった二〇一八年、私は日本銀行を辞めて、続きを自分でやることにしました。日銀は、金融機関に対して無料でセミナー等のサービスを提供していました。しかし、民間の事業になると、無料ではやっていけません。日銀の看板を背負ってやってきたことをその看板を降ろして、無料で提供していたサービスを有料で提供することにしたわけです。無謀な挑戦だと、

自分でも思うところはありました。でも、やりたかったのです。

日銀を辞めて、株式会社金融経営研究所を設立した私は、「金融マン個人」に注目しました。金融マンが活性化すれば、金融機関がより便利なサービスを提供できるようになり、世の中も豊かになる。それを目標にしようと考えました。

金融マンはみな優秀なのですが、少し冷めているので、「まずは、個々の金融マンを熱く活性化させることから始めよう」と思いました。そこで、金融関係者向けのセミナー等の事業を、「熱い金融マン協会」と銘打って展開しました。年間を通じて参加する協会員は、現在百名ほどとなっています。

そのような活動をしていてほごなく、「金融マンが冷めているのは個人の問題なのか？」と考えるようになりました。金融機関で働く若者は、どうしてそこに就職したのでしょうか。「安定した仕事だから」という人もいると思います。しかし、「日本経済を元気にしたい」、「企業を応援したい」という熱い思いを持って入った人もたくさんいます。そうした人達がいつの間にか冷めてしまったのであれば、「それは

個人の問題ではなく、組織の構造に問題があるのではないか？」と考えるようになりました。

多くの金融機関、大企業、官庁で働く人たちは、階層型のピラミッド組織で働いています。そこでは、上位階層からの評価によって、報酬や地位などが決まります。その構造の中で、賞罰を使った運営が過重にされると、働く人達は、評価や報酬を主目的に働くようになり、気持ち冷めてしまうのです。しかし、金銭や地位などの報酬とは別に、働くこと自体には喜びがあります。私が感じた「顧客からのありがとう」も同じです。世の中には、現場で働く人達のそうした内在的な労働意欲を活かそうとする組織もあります。私は、そうした新しい組織事例の研究会を立ち上げ、そこでの研究結果を

「金融機関のしなやかな変革」という本（共著）にしました。出版後、本に書いた組織変革を手伝いたいと金融機関に働きかけたのですが、これに反応する先は殆どありませんでした。

「変革に向けて組織を動かすにはどうしたら良いのだろうか？」との問いが湧きました。それは、どう考えても「組織の中にいる一人ひとりの気持ち

と行動」だと気がつきました。熱い金融マンが必要だということです。なんと、一周回って、最初の思いに戻ってきたのです。この時点で、独立起業してから二年半が経過していました。

ただ、「一人で熱くなっても無理だ」と思うようになりました。「仲間が必要だ」ということです。そこで、二〇二一年四月から、「価値を大切にする金融実践者の会（JPBV）」という一般社団法人で、金融の変革を目指す人達にコミュニティを提供するプログラムを始めました。ちなみに、ここで大切に「価値」とは、短期的な収益ではなく、長期的な経済価値、社会的な価値、環境的な価値です。目先の利益に踊らされずに、長く広い価値提供をする金融を実践しようということです。

プログラム開始時には、参加者は十五名でしたが、今は三十名近くになっています。全国各地の金融機関役員、金融関連事業者、金融庁職員が参加しています。

そこで行われているのは、三、四人の小グループに分かれての対話です。参加者は全員守秘義務契約を結んでいるとともに、三カ月間、グループのメ

ンバーは固定されています。それは、心理的安全性（自分がどのような発言をしても傷つけられることはないとの気持ちを持つこと）を保つことにより、本音で話合える環境を作るためです。本心を話すとともに、相手の話が自分の意見とは異なっても、とりあえず受止めるように聴く、といった対話が繰り返されています。

参加者には毎月の定例会の最後に、「その後の二四時間、一週間、一カ月間で何をするか」を宣言してもらっています。宣言した内容をうまく実践できなかつたとしても、その失敗談を聞いてくれる仲間がいることが大切だと思っています。

このプログラムを提供するようになってから、参加者の変化に驚かされることがあります。最初は、直面する問題を経営層や上司やその他の環境のせいだ、と言っていた人が、いつしか自分を変えようと動き出すのです。周囲を変えようとしても変えられない中、それでも何かを変えようとしたら、自分を変えるしかないからです。その間グループの仲間は、アドバイスはしません。ただ、聞くだけです。足りない部分を指摘するようなアドバイスでは、

人を変えることはできないのです。それは、私が日本銀行で考査に行っていた時と同じです。本人のものがくような行動を促すのは、それがどんな結果になろうと、一緒に受け止めてくれる人がいることなのです。

このプログラムへの参加者の殆どが、自分の金融機関の中で、仲間の話を受けとめる対話会を始めています。今、私は、金融界の一端に芽生えた熱さが、少しずつ伝播しようとしているのを感じています。

（株式会社金融経営研究所所長）

新宿高校在学当時の思い出

後藤俊明（六回）



新宿高校に昭和二六（一九五二）年に入学した我々世代は、太平洋戦争が始まった年の翌年の昭和七年に国民学校（現小学校）に入学、三年生の時に米軍による東京空襲を逃れて縁故または集団疎開を経験した最後の世代である。

戦時下ではスパルタ式軍国教育の下、食糧増産で農耕作業に従事、四年生の

夏に終戦、GHQの占領政策による民主主義教育で価値観が一変した。

子供ながら社会の大変革を直に受けて育った世代でもある。

昭和二二年に学制改革により新制中学が発足、我々は第二回生である。

さて、私が新宿高校を志望校に選んだ理由は唯一つ、「新宿の街が繁華街で、きつと面白いことがあるだろう」と思った事である。周囲からは「新宿高校は環境の悪い立地にある」ということで反対された。確かに隣接には新宿御苑という美しい庭苑があるものの、一方には当時「赤線地帯」と呼ばれた公娼街が近かつたからである。

当時は全国一斉に実施される「アチーブメントテスト（国語・社会・理科・数学・保健体育・職業家庭・音楽・図画工作の八課目、各百点で八百点満点）の点数と中学の内申書により合否が決められた。新宿高校合格のためには七〇〇点近い点が必要であったのではないかと思う。（英語は無かった）入学者の定員は男子三〇〇名、女子一〇〇名、合計四〇〇名であった。入学後、前身は東京府立第六中学校で、東大入学者数が日比谷高校に次いで全国第二位という大学受験の有名校

であることを知って驚いた。

入学した当時、昭和二六年は未だ米軍による占領下にあり、例えば伊勢丹の上層階は米軍に接収されていたし、日本古来の柔剣道等の武道は禁止されていた。一例として、体育館の入口に「東京都公認しない競技大会」という掲示があり、奇異に思ったのだが、これは剣道の竹刀より弱い材料によるへなへなの「しない」を使用する禁止逃れの剣道まがいの競技大会であることを知り、苦笑したものである。

この年の秋の運動会の前日に「槍投げ事件」が起こった。三年生のKさんが練習で投げた槍がネットを越えて新宿御苑に飛び込み、たまたまそこに居た子供の胸に刺さったのである。運動会どころではなく、全校生徒が葬儀に参列する大事件であった。

入学志望の目的であった新宿の繁華街は、私を大いに満足させた。新宿の街の探訪が楽しく、暗くなつてからの帰宅が多かった。伊勢丹前の日活映画館（現マルイ）の上層部にあった古い洋画を上映する「名画座」には欠かさず通った。「舞踏会の手帳」「運命の饗宴」「大いなる幻影」「カサブランカ」「外人部隊」「モロッコ」etc.多数、ジャ

ンギヤバン・ハンフリーボガード・イングリッドバーグマン・マレーネデートリッヒ等名優たちと共に今でも儼に浮かぶ。

二年生の夏には館山の臨海教室（館山寮）に参加した。体育の伊東先生引率の下、三年生男子一人、二年生は私と同級の吉田圀吉（くによし）君の二人だけ、あとは一年生の男女が二十名程であったと思う。到着した夜に癩癩玉をバンバン鳴らしていたら、近所の漁師から「魚が逃げる」と苦情が来た。昼には右に見える「沖の島」まで和船を伴って遠泳をした。夜は吉田君と私と先輩顔をして一年生の男子と相撲をとったり、女子達とはゲームをして大いに楽しんだ。その中の一人の小出（旧姓宮下）さんが同窓会事務局員として長らく貢献された事を後に知った。

三年になると東大の入試と同レベルの問題が出される「特別考査」（略称「特考」）が年六回実施されて序列が付けられ、百番迄は氏名が公表された。

二年生、三年生時には全国の高校の秀才達が転入試験を経て入学し、クラスに配属されて来た。さすがに彼らは優秀で特考で上位を占める者が多かつ

たように思う。

教諭もベテラン揃いで、紀伊國屋書店等に行くと、教えを受けている先生著の受験参考書がずらりと並んでいた。以上七十年程前の事柄でもあり、記憶違いもあると思うが年齢（八七歳）に免じてお許し願いたい。

現在は高校、早大共に同期の吉田圀吉君、池本正義君と毎月ゴルフを楽しんでいる。

新宿高校を卒業したおかげで、どれだけ人生をエンジョイして来たか計り知れない。

創立百周年を迎えた母校の益々の発展を祈っている。

「波羅ヶ寓」扁額縁起

轡田 收（四回）

謎は謎のまま、見るひとの推量や想像にまかせておくのが風雅というべきところ、本体がなくなつてしまひ、今やどこに所在するや知れぬ板きれゆえ、その正体を明かすことも亡き師や友も首肯してくれると思う。

時は一九五三（昭二八）年九月に遡る。鹿子木と私は二木さんに連れられて谷川岳に登った。その前の車中話し



前列が筆者 後列左から野矢弘、後閑幹夫、鹿子木幹雄

のことも思い出深いが、閑話休題。この計画は前年からあったが、現役で東大文二に入った鹿子木は私への配慮もあつたのだろう、やりとりのうちに、どうせなら水上寮に泊まって絵を描こうということになった。そのため三月に森田恭生の母堂元子画伯にお願いして二人分の油彩道具をとりそろえ、東工大に入学していた野矢、一浪で理一に入った後閑、そして文二に滑り込んだ私の四人が水上に集合した。

秋晴れの河原に出て、それぞれ場所を選び絵を描いた。描かない後閑は巡回係。一日二日は絵を描き河原探検であつと過ぎた。問題は飯だった。米は

持参が習いだったが、乏しい缶詰も二日余りで尽き、一升炊いてもらったのが二食ともたない。夕方には広間にひっくり返って「腹へった」と異口同音にうなつた。青春の議論どころではない。あれほどの空腹は戦時中でさえ覚えがない。純粹に胃が空っぽと感じられるのだった。足りない米は、「あんたがたよく食べるね」とあきれるオバアに頼んで闇米と押し麦で補充。お情けの味噌汁と粗塩でかき込んだ。因みに、米麦半々の飯は冷えると、いかに空腹でも喉を通らぬことがついでの見見。

解散の前日、後閑が河原で「いいもの見つけたぞ」と拾ってきた見事に晒されたA3ほどの分厚い板を記念に残そうという話になった。普段から互を凌ぐ知恵競べの間柄。飾りのない広間の額をと即決。まともじゃつまらん、寮の看板はどうだ。古くさいぶつた家になんとか寓なんて掛かつてるな、と煮詰まっていた。おそらく後閑が素知らぬ顔で「ハラガグー」とつぶやいた。まさに共有した思いを言い当てたのだ。野矢が「それだ！」と奇声を発し、全員納得（だったと思う）。そして制作。



水上寮に掲げられていた「波羅ヶ寓」の扁額

古くさいなら六波羅の波羅だ。ただ「波羅寓」とすると本当に由緒あるものと勘違いされるかも知れないし、ケは大切だと相成り、油絵筆で輪郭を小生。鹿子木と野矢が古色仕立てに精を出した。干支は日本史で一番おなじみ。落款はまず小生の收、野矢の弘。後閑幹夫と鹿子木幹雄（ともに故人）は幹の下をとって出来上がり。そして広間の山側の長押に鎮座願った。

ある時期、水上寮が別名「波羅ヶ寓」と呼ばれたことは、まこと名誉に尽きる次第。

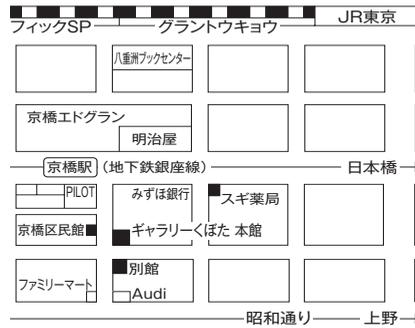
2023年「第29回 0の会展」のご案内

故 吉江新二先生を慕う絵画部OBなどで結成された「0の会展」は、下記要領で本年も開催されます。どうぞご覧ください。

会期：2023年11月20日（月）～11月26日（日）

時間：午前11時～午後6時30分
（最終日は午後3時まで）

場所：ギャラリーくぼた本館4階
中央区京橋2-7-11
TEL03-3563-0005（代表）



東京メトロ銀座線「京橋」徒歩1分
都営地下鉄浅草線「宝町」徒歩1分
JR「東京」八重洲口徒歩10分

南欧料理、パリの居酒屋風レストラン

グリル シャトー

“新宿高校” と言えば特別サービス

アド街ック天国を始めTVでは全局でハナコでは大銀座名店25店の1店として取り上げられました。平日の貸し切り（7万円以上、場所代無し）好評です。お気軽にご相談ください。

営業時間 月～金 午後4時30分から午後11時迄
（ランチはお休み。）

飲み放題プランもあります。 東京都港区新橋2-16-1
ニュー新橋ビル地下1階48号
15回生池上がやっています。 電話 03-5521-0205

創業61年

新橋駅、機関車広場横のビルに移転しました。



新宿高校OBの

焼肉店 & ビストロカフェ

新宿高校関係者御用達の新宿高校から徒歩9分にある、新橋生まれの焼肉店が美味しいんですが、



- 焼肉酒家 **李苑** (リエン) すすきよ
タレで楽しむ昭和風本格焼肉
新宿区新宿5-18-1 6 Shinjuku Five-1 B1F
03-5292-9211
- 大衆焼肉 **YAKINIKU LEE-EN 焼肉ホルモン**
歌舞伎町のハイコスパな焼肉店
新宿区歌舞伎町1-12-1 KTビル1F
03-6380-3386
- ROUTE 60 BISTRO CAFE**
世界中を旅するビストロカフェ
新宿区高田馬場3-37-5
03-5358-9220



食べます？

株式会社ファクト 代表取締役 姜 在根
合同会社ルートゼロ 代表 北中 知己 **新50回卒業**

朝陽同窓会支部便り

朝陽USA支部便り

コロナが明けて初の第七回朝陽USA総会・同窓会は、令和四年十月一日にカリフォルニア州のアナハイムで開催されました二年ごと場所を変えての同窓会ですが、全米を一周して初開催地のロサンゼルス郊外へ戻ってきました。

各地から総勢七名が集まり、民家を借りて食事は手作りなどで、ゆっくり存分に楽しみました。歓談、自己紹介それから今回の総会では、地元カリフォルニア在住の小生(三一回)による基調講演「米国における菓子食品のマーケティング」と続きました。二十数年にわたる小生の体験に基づいた話でしたが、興味を持って皆さんにお聞きいただきました。場所も変えず、充分時間があると思っていたのですが、気が付けばあっという間に四、五時間が経ち、最後は校歌、六中健児の歌、蔵先生の三本締めでお開きとなりました。

二日目は、同窓会オプショナルとし

て、地元アナハイムエンジェルスタジアムへ行き、お友達も交え、皆さんで、大谷選手の応援に行きました。普段はなかなか入れない、スイートルームで、食事や、飲み物をそろえて、皆さんで歓談しながら、大谷選手の活躍を間近で、堪能しました。

ちょうど母校新宿高校の一〇〇周年の年に、こうして異国の地でも同窓生が集まり、お祝いできたこと、また大谷選手のように日本の若者たちがたくさん海外で活躍している時代です。母



校出身の若者たちも大いに世界に羽ばたいてほしいと願いながら、ロサンゼルの地を後にしました。

(三一回サンフランシスコ在住)

安永 正法)



北海道支部便り
今年は四十回目です!!

昨年、本誌で「継続は力なり」と息巻いておりましたが、結果的にコロナ禍の第六波と第七波との間のタイムミングで北海道朝陽会を開催することができました(二〇二二年七月二日(土曜日)札幌グランドホテル)。今回は本州から二名、釧路から一名のと、総勢一二名のご参加をいただき、例年通り楽しい時間を過ごすことができました。心より感謝いたします。

現在、第八波が収束に向かいつつあるように思います。感染発生から三年が経過し、今年はコロナウイルスへの対応が大きく変わりそうです。札幌雪祭りも開催され、北海道にも観光客も戻りつつあります。(原稿作成時)

今年も北海道朝陽会を二〇二三年七月一日(土曜日)午後五時から札幌グランドホテルで開催します。今回は四十回目となります。諸先輩方の心意気がこの四十年の歴史を作ってきました。そろそろ自由に出かけてみたいと考えられている皆様、初夏の北海道がお待ちしております。その際にちよっと札幌にお寄りいただける計画を立ててい

ただけませんでしょうか。

関係各位には案内を差し上げますが、道内にお住まいの方だけでなく、出張旅行などでもお気軽にご参加ください。ますよう、幹事一同心よりお待ちしております。ご連絡は江本(三一回)までお願いいたします。

連絡先は次のとおりです。

tadasu@soleil.ocn.ne.jp

(幹事 三一回 江本 匡)



九州支部便り

感染症三年目となった二〇二二年も、その先行きの不透明さから総会の開催に踏み出せず、結局はまた表立った活動を何ひとつできないままの一年となつてしまいました。今年度こそは四年ぶりの総会を開き、母校から遠く離れたここ九州の地に於いても、同窓の皆様と交流できる喜びを味わいたいと切に願うところです。

当支部「九州朝陽会」には、九州・沖縄・山口のほか、地域外会員も含め現在約八十名が在籍しています。新たにご縁が繋がった方々のご参加もお待ちしております。

(二八回 小林 牧)

宮城朝陽会

令和5年度こそ、総会開催を実現したいと希っております

状況を十二分に見極めたうえご案内申し上げます。

久しぶりお目にかかれますこと、心待ちにいたしております。

会長 米本行範 (20回)

幹事 小田島肇 (38回)

同期会 報告

四二回生同期会

二〇二二年十一月十九日、ホテルサンルートプラザ新宿にて、新四二回同期会を開催しました。新宿高校創立百周年と銘打つてのことでしたが、実際は二年前の卒業三十周年、昨年五十歳記念と三年越し三度目の正直で、やっと思師の先生方、同級生と会場で顔を合わせることが出来ました。

卒業三十周年同期会を手伝ってと代表幹事の齊藤君に声をかけられたのが二〇一九年の暮れ、生物の中藤先生宅で主にB組が集まった時のことです。するとあれよあれよという間に新型コロナウイルスが全世界にまん延する事態となつてしまいました。恩師の先生方には早々にご連絡差し上げていましたが、すると英語の木村先生が大病を患われて手術を受けられたとのこと。順調にご快癒されればと思いつつ、なるべく早いうちに同期会を開催したいと決意しました。卒業三十周年の年は新型コロナウイルス第三波始まりの頃で、同級生だけでこぢんまりとウェブ同期会を

開催しました。

翌年五十歳記念として仕切り直しを試みましたが、春に同級生に告知したとたんに第四波、開催可否を決定する夏には第五波と、ますます私が疫病神かのように襲来してきます。秋には感染が落ち着いていたので、木村先生ご夫妻、玉上先生と幹事に私の実家にお越しいただき、狭いリビングからウェブ上の同級生に配信し、腕をぶつけながら業間体操もしました。木村先生と奥様が朝早くからご用意してお持ち下さった栗赤飯の味が忘れられません。

そして今年は創立百周年。今年こそ会場で同期会を開催したいと再度企画を始めますと、早春の第六波、夏の第七波と次々と襲ってきます。しかしだいたい軽症化して移動制限も無くなったので、先生方も今年は大丈夫でしょう、楽しみにしていますとおっしゃられ、何とか会場開催にこぎつけました。

普段も三年間の自粛生活で、久々に大勢で大きな会場で集まるのが穴から出てきたモグラのように眩しく思われ、会の開催は緊張しましたが、何と



2022年11月19日 ホテルサンルートプラザ新宿にて

か無事務めることができました。

「先生というものは人前で話すのが好きなので、どうも話が長くなっていけない」と仰りつつ、どの恩師も楽し気に朗々とお話になり、会場では恩師席を同級生のテーブルにお一人ずつ入れる



Zoom 参加の 42 回生

生のお一人を試みもし、長い月日を超えて割と壁なくお話しが出来たかと思っております。

同窓会に先がけては、F 組片山君

から、数学の秋山先生ご撮影・地学の豊澤先生ご編集というビデオを託されました。一年時の飯盒炊さん遠足、球技大会、朝陽祭の様子などまるでタイムカプセルのような貴重な映像を、この機に恩師・同級生へ共有することが出来ました。終生の宝物として大事にしたいと思います。

同窓会にあたっては、コロナ禍の三

年間、忙しい仕事の合間を縫ってたびたびウェブ会議やメールで一緒に企画を練って下さった幹事メンバーの皆様、また我々の拙い企画に賛同して、度々のウェブ飲み会に参加してくれた同級生の皆さんに胸いっぱい御礼を言いたいです。ありがとうございます。

次回は三年後の卒業三五周年（二〇二五年）に、同期会を予定しています。四二回はご連絡取れない方も多いので、ぜひご友人にお声がけ下さい。次回皆元気で再会できることを楽しみにしております。

（四二回 田角（千葉）由香）



七回生同期会

「やるか、止めるが、そこが問題だ！」というのが、七回生同期会担当幹事達の課題だった。今回の担当はG組で、高梨晃一、藤本允、奥山（早藤）久代、宮岡（淑子）の四名。近年二回はコロナ禍で中止、この原稿を書いた時点でもまだ収束を見ていない。

私達七回には永年献身的に同期生のまとめ役を務めてくれている吉村悟さんの存在が大きい。同期生の遺族から直接彼の所へ訃報が届くが、最近急速に増大した。実は私の所へも友人達から「A・Bさん共にいまや病床に伏し、C/Dさんは急逝、昨年なら何とか逢えたのに」と連絡が入っている。「今年はずいぶん開催したい」と担当幹事に提案してみる。

私達の七回生の同期会の大きな特徴は、当日会場で配られる「近況報告」にある。これは出欠を問う往復はがきの返信欄に近況も出来るだけ記述してもらい、それを全文記載した冊子だ。開催当日会場では皆再開の喜びで興奮、すぐ終了の時間がきてしまう。そこで帰路改めて「近況報告」を読むと、現在闘病中の方々からの同期会への応援

文の数々、あるいは現役活動中の元氣印の面々からの、「当日は学会で講演」だとか、「会社の役員会で事業報告をする日と重なった」とか欠席の理由説明も多数有る。後々友人達への連絡にも役立つ情報源だ。

ただこの「近況報告」を編集するには影の協力者小出富江さんの協力が必要不可欠なので、まず電話してみる。ところが手術後で今は療養中との事！さらに肝心の吉村さんもコロナに感染したとのこと。それでも会場はどうなるかと、前年に仮予約した店に改めて問い合わせると五十名くらいなら可能とのこと。ただしコース料理で各人座席固定、食事中以外はマスク着用のこと。それでもこの季節多人数の会合を確保できるのは貴重だ。会費は余裕を見て前回より高いが七千円と仮決定、各クラスの代表幹事に連絡し開催内容を承諾してもらった。

令和四年の八月になって吉村さんも何とか自宅隔離を終え、出欠確認の往復はがきを出して貰った。更に念のため九月に「十一月九日に同期会を開催する」旨の確認の葉書を出席の回答をした人全員に送った。その頃には小出さんとの連携プレイも宜しく「近況報

告」も出来上がった。G組の幹事は開催日の前々日に朝陽同窓会の事務室に集合し、「近況報告」の印刷や冊子に綴じる仕事を行い、さらにそれを会場まで運搬した。そしてついでに当日の机の設置などを確認するなど良く働いた。

かくして令和四年十一月九日の十二時より同期会が開催され、四九名の同期生が参加した。受付時に多少の混乱はあったが、まずは無事に開催出来て本場に良かった。

会場内には二か所にスクリーンがあり、食事中は原則着席ながら皆上手に近隣の席にいる人と会話したり、映像から高校時代の思い出を楽しんだりして穏やかに進化した。新宿御苑を中心に撮った見事な鳥類アルバムを見せてくれる人や、故郷鳥取で十年来の仲間たちと各界の専門家を招聘し多数の講演会を持ち、地方文化の活性化を進行中との話もあり、皆の関心を集めていた。

八五歳を迎えての同期会だったが、現在の悩みばかりでなく展望をもっと先に広げて、次世代に何かを繋げて行きたいと願う、活力を喚起させてくれる時間だった。同じ頃朝陽同窓会の

百周年記念祝賀会は、ギリギリで中止となった由。私達の方は何とか開催出来、しかも当日集めた会費だけで費用が賄えた。次回で最後となるかもしれない同期会をH組に引き継げる幸運に感謝している。

左は七回生の同期会で参加者に配布する「近況報告」です。「近況報告」は平成十七年に初めて作成して以来、今回で九冊目です。毎回A4で四ページの労作です。今回の表紙は版画家の54百瀬晴海さんにお願いで使わせて頂きました。なお作成は7小出富江さんが毎回担当されています。



7回生同期会 近況報告

2022/11/9

たかが同期会、されど同期会、次回もね！

宮岡（青山） 淑子

学校長所感 校長 藪田 憲正

新宿高校、次の百年に向けて



昨年十月二三日には、朝陽同窓会の皆様の多大なるご協力により、創立百周年記念式典を挙行することができました。この場をお借りして、まずはお礼を申し上げたいと思います。

コロナ禍の三年が過ぎ、今少しずつ世の中が動き始めています。しかし、この間、本校で学ぶ生徒たちは、人生の大切な節目の場や舞台を失ったこともあったでしょう。とりわけ、三月に卒業した七五回生は、入学式がなくなり、伝統行事である臨海教室もなくなり、多くの行事が代替方式や制限を設けたうえでの実施となりました。諸先輩方が新宿高校で学んだことのほんの一部しか学んだり、体験したりできなかったかもしれません。しかし、少しでも新宿高校で学んだことを縁に諸先輩方とともに朝陽同窓会員として、社会で活躍してくれることを願ってやみ

ません。

そして、新宿高校の新たな百年に向けて一歩ずつ歩を進めていくこととなります。昨年度から、一年次生の総合的な探究の時間では、「新宿学」として、新宿の未来について、生徒が課題を設定し、その解決方法を考えていく学習を行っています。生徒たちが学ぶ新宿の街は、多国籍・人種・ジェンダーを問わず多種多様な価値観を持つ人が集まる、日本一グローバルかつダイバーシティの街といえます。この街の将来を考えることは、日本や世界の将来を考えることにつながります。生徒たちは自分たちの課題をもって、新宿に本拠を置く企業を訪問し社長や社員に質問したり、議論したりして探究を深めてきました。各企業から新宿高校生を高く評価していただくことにもつながりました。

今後は、同窓生の皆様、保護者、教職員とともに、地元の連携企業にも加わっていただき大家族主義の新宿高校として発展していけたらと考えております。朝陽同窓会の皆様からの御支援よろしくお願いいたします。

母校便り 前副校長 塚田 雅人

コロナ発 感謝行



令和四年度はコロナで始まり、感謝で終わった一年でした。

◎四月一学期。四五分授業。コロナ感染等で登校できない生徒のために教室の授業をオンライン配信するハイブリッド型授業を実施。

①七七回生入学式。来賓招待なし、保護者の参列は一名のみ、歌唱なし、マスク着用で実施。

②四月・七五回生修学旅行・広島、愛媛、岡山（三泊四日）。予定より半年近く延期（修学旅行中止の学校多数）。生徒たちは宮島のホテルから実施を決断してくれた校長先生に感謝の動画を送る。

③運動会。三学年揃って駒沢競技場で実施。三年生保護者のみ各家庭一名が観覧。

④戸山戦。三年ぶりの一斉開催。生徒の誰一人体験したことのない行事のため、委員は準備段階から苦勞多し。新宿高校八勝五敗二分。

⑤ 臨海教室。従来の二クラスずつ二泊三日を四回ではなく、一クラスずつ一泊二日を八回実施。事故なく無事遠泳を終える。

⑥ 朝陽祭。保護者一名の観覧可。模擬店関係など飲食関連企画は制限が多かったため、色々な工夫をする。(例・茶道部ではお点前を見せて茶菓は持ち帰り)

対面での応対に制限がかかるため、動画を活用している企画多数。

⑦ 十月二三日。百周年記念式典を盛大に挙行。コロナのため生徒全員が式典に参列することはかなわず。体育館に入れなかった生徒はオンライン参加。式典が無事終わったのはひとえに朝陽同窓会の皆様のおかげです。

⑧ 十二月・七六回生修学旅行・京都。コロナは春ほどではなかったが、修学旅行の前後にPCR検査の実施が必要であるなど生徒・教員とも大変。⑧ 合唱コンクール。十二月、杉並公会堂、一・二学年合同で実施

◎ 一月三学期。五十分授業に戻り、下校時刻も繰り下がる。

⑨ マラソン大会。昭和記念公園でコロナ前に近い形式で実施。

⑩ 卒業式。三年ぶりに来賓参列・保護

者の参列制限なし。来賓・保護者はマスク着用。生徒・教職員は個人の判断でマスク着用なしでも可。答辞では七五回生代表から「当たり前前の生活ができること」への感謝の言葉がある。

◎ 他にも部活動合宿、百人一首大会等々を実施。

◇ 一年間、生徒へのご支援ありがとうございました。これからの新宿高校は、活気溢れる「当たり前前の教育活動」に戻っていきます。

今後とも現役生へのご支援をよろしくお願いいたします。

☆ 百分の一の確率とでも言うべき。百周年の年に在職できたことに新宿高校との縁を感じています。短くも濃密な一年でした。

最後に新宿高校と朝陽同窓会、関係の皆様方のご健康とますますの発展を祈念いたします。

一年間、ありがとうございました。
(都立広尾高等学校校長)

令和5年度教員異動(敬称略) ※非常勤講師を除く

<p>*教員 着任 成島功二 (副校長 城東) 福島万葉子 (国語 桜町) 加倉井祐司 (数学 青山) 二科洋太 (数学 新規採用) 田中陽子 (英語 戸山) 中川絵美 (英語 竹早) 大西秀人 (英語 稔ヶ丘) 奥村友章 (英語 深沢) 村上由美子 (英語 国際) 木原奎吾 (保健体育 新規採用) 米原紗那 (保健体育 新規採用)</p> <p>*経営企画室 着任 阿部真利子 (室長 多摩科学技術) 富盛美穂 (司書 小金井北)</p>	<p>*教員 転任 塚田雅人 (校長 広尾) 宮山尚之 (副校長 小石川中等) 野島潔貴 (化学 浦和第一女子) 笠原真樹子 (英語 武蔵野北) 椎名貴世子 (英語 戸山) 鈴木久美 (英語 芝商業) 浜中勇一 (英語 日比谷)</p> <p>*経営企画室 転任 岡野美幸 (統括課長代理 中部学校経営支援センター支所)</p> <p>宅間由美子 (司書 農業高)</p> <p>*教員 退職 松永浩之 (数学) 桑原香苗 (英語 筑波大付属) 新戸政輝 (保健体育)</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2023年入試 75回生+既卒生 合格状況 (4月6日現在)

国公立大学合格状況

離関国立	75回生	既卒生	合計
東京大	1		1
京都大	1		1
東京工業大	3	2	5
一橋大	5		5
合計	10	2	12

※国立医学部医学科 3(筑波大、新潟大、信州大)

旧帝大等	75回生	既卒生	合計
北海道大	7		7
東北大	6		6
名古屋大	0	1	1
大阪大	1		1
九州大	0	1	1
神戸大	1		1
合計	15	2	17

国立大	75回生	既卒生	合計
秋田大	1		1
茨城大	4		4
筑波大	4		4
群馬大	2		2
埼玉大	3		3
千葉大	14	1	15
お茶の水女子大	4		4
電気通信大	2		2
東京医歯大	1		1
東京外語大	7		7
東京海洋大	2		2
東京学芸大	7		7
東京芸術大	0	1	1
東京農工大	8		8
横浜国立大	5	1	6
新潟大	0	1	1
金沢大	1		1
信州大	1	1	2
静岡大	1		1
京都工芸繊維大	1	1	2
広島大	1		1
山口大	1		1
宮崎大	1		1
合計	71	6	77

公立大	75回生	既卒生	合計
埼玉県立大	1		1
東京都立大	6		6
横浜市立大	1		1
兵庫県立大	1		1
北九州市立大	1		1
合計	10		10

大学校	75回生	既卒生	合計
防衛医科大学校	1		1
国立看護大	2		2
合計	3		3

国公立大等合計	109	10	119
---------	-----	----	-----

私立大学合格状況

私立大 (難関)	75回生	既卒生	合計
早稲田大	64	9	73
慶応大	27	4	31
上智大	30	4	34
東京理科大	48	8	56
合計	169	25	194

私立大 (GMARCH)	75回生	既卒生	合計
学習院大	15		15
明治大	136	4	140
青山学院大	58		58
立教大	49	2	51
中央大	70		70
法政大	80	5	85
合計	408	11	419

私立大	75回生	既卒生	合計
成蹊大	19		19
成城大	17		17
武蔵大	9		9
国学院大	11		11
明治学院大	24		24
合計	80		80

私立大 (日東駒専)	75回生	既卒生	合計
日本大	52	1	53
東洋大	39	2	41
駒澤大	12		12
専修大	5	1	6
合計	108	4	112

私立大 (女子大)	75回生	既卒生	合計
学習院女子大	1		1
実践女子大	1		1
昭和女子大	1		1
津田塾大	8		8
東京女子大	11		11
同志社女子大	1		1
日本女子大	27		27
武庫川女子大	1		1
日本女子体育大	3		3
合計	54		54

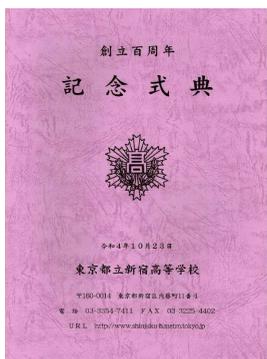
私立大	75回生	既卒生	合計
麻布大	1		1
亜細亜大	2		2
桜美林大	1		1
北里大	11		11
杏林大	4	1	5
国立音大	1		1
工学院大	1		1
国土館大	2		2
芝浦工大	17	4	21
順天堂大	4		4
昭和薬大	2		2
聖路加国際大	2		2
大正大	1		1
拓殖大	3		3
玉川大	2		2
多摩美術大	2		2
千葉工業大	4		4
帝京大	1		1
帝京平成大	1		1
東海大	1		1
東京医療保健大	2		2
東京家政大	5		5
東京工科大	6		6
東京歯科大	1		1
東京慈恵医科大	2		2
東京女子医大	1		1
東京電機大	10		10
東京都大	6		6
東京農大	17		17
東京薬科大	5	1	6
東邦大	3		3
独協大	5		5
日赤看護大	7		7
日本歯科大	1		1
日本獣医生命科学大	4		4
文教大	4		4
星薬科大	6		6
武蔵野大	10		10
武蔵野美大	3		3
明治薬科大	1		1
目白大	1		1
関西学院大	2		2
同志社大	0	1	1
近畿大	1		1
神奈川大	1		1
名城大	1		1
国際医療福祉大	1		1
Taylor's University	1		1
合計	170	7	177

専門学校・その他合格状況

専門学校	75回生	既卒生	合計
都立広尾看護専	1		1
合計	1		1

私立大等合計	990	47	1037
--------	-----	----	------

創立 100 周年 記念 式 典



創立 100 周年記念式典が、好天に恵まれ、2022 年 10 月 23 日本校体育館に於いて在校生代表が参列する中、来賓・同窓会代表をお招きして、盛大に挙行されました。

コロナウイルス感染症防止の観点から、代表以外の生徒は自宅でオンライン視聴しました。

第 1 部の式典に引き続き、第 2 部では青柳同窓会長による講演、管弦楽部、音楽部の演奏（動画）、チアリーディング部による演技が披露されました。



記念講演
青柳同窓会長



来賓（新宿駅長）祝辞



藪田学校長式辞



チアリーディング部
演技披露

部活動紹介

チアリーディング部

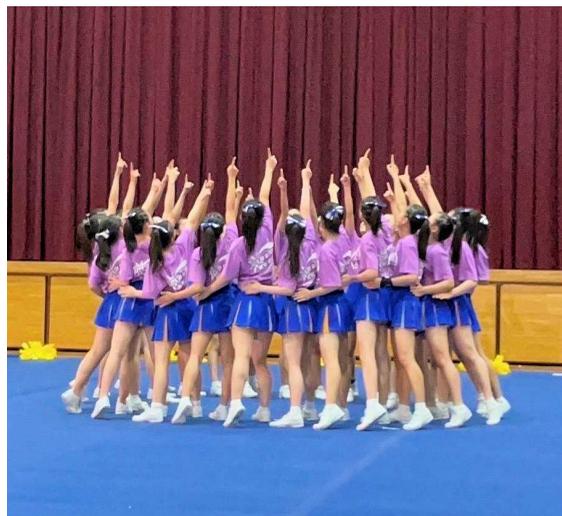
顧問 塚田 舞弓

新宿高校チアリーディング部 GLITTERSです。私たちは一年生十三人、二年生十三人の二六人で力を合わせ、都立高校No.1を目指して日々活動しています。

チアリーディング部の活動は休日の一日と平日週四日、朝練と昼練そして放課後練です。学業との両立の上で限られた時間の中で大会や学校行事での披露の場に向けて技術を磨いています。大会や学校行事での演技の内容や構成は部内で協力して考え、それに向けた普段の練習内容も全て部員たちの手で組まれています。ダンスやジャンプなどチアリーディングの技術の中で部員たち各々の得意分野を活かして、部全体として日々成長しています。

学校での演技披露について紹介します。令和四年度、私たちチアリーディング部が演技披露を行ったのは、戸山戦、文化祭、百周年記念祝典、受験生対象の学校説明会です。

学校外では、「国立競技場においてサッカーチーム「クリアソン新宿」さ



んの試合応援、高校生バスケットボール全国大会「ウィンターカップ」のハーフタイムショー演技を行わせていただきました。学校内外のたくさんのお客様に演技を見ていただき、私たちがお客様へ応援の気持ちや感動をお届けするだけでなくチアリーディングの楽しさを存分に味わうことができています。

感謝の気持ちを忘れずに、今後も日々練習に取り組んでいきます！応援よろしくお願ひします。

(執筆者 部長

二年G組 佐藤 めい)



◆————— 令和4年(2022)度朝陽同窓会書面総会議事 —————◆

1. 2021年度事業報告と決算
 - ・役員人事：橋本健一会長が退き幹事長に、青柳正規を新会長に選任
 - ・100周年記念募金2021年度実績935万円、館山寮再建募金：703万円
 - ・ニュースレターの発行：館山寮再建募金の促進、記念祝賀会の開催案内、記念名簿の作成についての告知のために臨時の広報を行った
 - ・館山寮再建：建築設計事務所及び施工会社の決定、男子棟、女子棟、浄化槽の更新を2022年1月着工6月末完成の計画を策定
 - ・100周年記念事業
朝陽奨学金：7名に給付、記念名簿：名簿作成専門業者の(株)サラトに委託、記念祝賀会：詳細計画の立案、記念誌：通史と百年誌の2冊の作成準備作業
 - ・一般活動はコロナ禍で活動が制約を受けた
2. 2022年度事業計画と予算
 - ・朝陽記念募金
100周年記念募金は1億円達成を目標、館山寮再建募金は5千万円達成を目標
 - ・100周年記念事業
朝陽奨学金：15名に給付予定、年度末に10年分、延べ150人分を積み立て
記念名簿：名簿作成専門業者の(株)サラトに委託、年度末に発行予定
記念式典：10月23日(日)母校体育館で開催、同窓生を200名招待する予定
記念祝賀会：10月23日(日)京王プラザホテルにて開催予定
記念誌：「通史」と「100年誌」の2冊を年度末に発行予定
 - ・館山寮再建第2期工事予定
男子棟、女子棟、浄化槽は6月末完成、7月上旬引渡し、総工費112百万円
 - ・一般活動は継続的に実施できるよう努力する

同 窓 生 支 援

OB・OGのためのキャリアガイダンス(第3回)

昨年、一昨年より行っている同窓生就職支援を今年度もオンライン開催しました。実施内容の詳細は朝陽同窓会ホームページに記載しています。

2023年3月12日(日)実施、参加者12名(敬称略・卒業年度五十音順)

講師3名 池田丞吾(66) 益山裕貴(68) 森 菜乃(68)
 受講者4名 69回生1名 73回生1名 74回生2名
 聴講者2名 橋本 健一 幹事長(19) 寺澤忠興 事務局長(22)
 組織強化委員会3名 小野瑞城(34) 安部ふゆみ(35) 楠木綿太(60)

母 校 支 援

令和4年度母校キャリア教育支援

(1) キャリアガイダンスへの講師派遣

1年生の文理選択の参考に母校が開催する先輩の体験談講演会です。

卒業回	氏名	現職・主たる経歴等
15	馬場悠男	科学博物館(人類学)
21	津川清一	国際機関(国際電気通信連合)
21	小池洋次	ジャーナリスト 関西学院大学 フェロー
24	酒井邦彦	弁護士 元広島高等検察庁検事長
24	佐野良雄	元三井物産・名古屋大学大学院経済学研究科客員教授

25	篠原厚子	健康科学・薬学
27	新田恵子	スペイン語講師 神田外語グループ
31	中越一統	公認会計士
35	関根 聡	理化学研究所革新知能統合研究センター AI 研究者
48	須田健太郎	電通クリエイティブディレクター
48	原田将史	建築家、一級建築事務所共同代表
43	西村雄一	元サッカー国際審判員

(2) 月刊誌「進路部通信」“先輩からの言葉”への寄稿

母校進路指導部が発行する月刊誌「進路部通信」に毎号1ページ、各界第一線で活躍する同窓生が、現役生徒の進路選択の参考となり、励みになる文章を寄稿しています。令和4年度発行の75～84号に以下の方々が寄稿なさいました。

発行号	氏名	卒回	寄稿タイトル
84 (2023.3)	松岡由紀	41	「日黒>新宿>札幌>米国>中米>英国>徳之島」今ココ
83 (2023.3)	八木澤隆史	53	日々自分を update することの大切さ
82 (2023.1)	羽藤俊昭	37	壁を恐れず、一步踏み出す勇気を
81 (2022.12)	深堀愛子	50	切磋琢磨
80 (2022.11)	広瀬健一	49	キャリア形成における柔軟性の大切さ
79 (2022.10)	中山久美子	30	人生は紆余曲折
78 (2022.9)	田角由香	42	Belivers Never Die
77 (2022.7)	相川隆史	42	何事にも前向きに挑戦を
76 (2022.6)	白根敦子	42	親子就活のススメ
75 (2022.6)	小田島肇	38	みちのくに生きる

寄稿内容は同窓会HPからご覧いただけます。

(3) 奨学金支給

あい基金や100周年記念事業募金を原資として、母校生徒に奨学金(返還の必要のない給付型です)を支給しております。

令和4年度は以下の通りの支給を行いました。

学年奨学金1名(10万円)、

あい奨学金3名(各10万円) 合計 40万円

朝陽同窓会会員諸氏の寄贈著書紹介

令和4年度にも卒業生から以下の著書の寄贈をいただきました。

著者名	卒回	書名	出版社	本体価格
石井幸孝	3	国鉄「日本最大の企業」の栄光と崩壊	中公新書	¥1,100
古田清司	7	論語についての考察	論語を楽しく学ぶ会	非売品
遠藤 誉	13	もうひとつのジェノサイド 長春の惨劇「チャーズ」	実業の日本	¥1,700
		習近平三期目の狙いと新チャイナセブン	PHP 新書	¥1,000
渡邊崇志 (共著)	51	ゲストハウスがまちを変える	学芸出版社	¥2,300

新規事業案のお知らせとご案内

百周年記念庭園の設置構想

母校創立百周年を記念して母校校庭に記念庭園の設置を企画しています。完成は二〇二三年九月末を予定します。この記念庭園は藪田新宿高校校長の発案によるもので、母校創立百周年を記念し、構内の一角に記念碑を中心とした園地を設け、一〇〇年の歴史に思いをはせる場とすべく整備するものです。

設置場所

- ・校地とグラウンドを結ぶ通路沿いの既存の林地の一角

概要

- ・間口は幅五〜十m、奥行三〜五m、既存の立木を活かした状態で整備
- ・「府立六中・都立新宿高校百周年」の記念碑を建立
- ・記念碑には、興国の鐘のレリーフを刻む
- ・興国の鐘の由来説明板を立てる。
- ・記念碑の周辺は敷石やベンチ、椅子



を設け、憩いの場となるよう整備
・周囲にはアセビ、ジンチョウゲ、ヤマブキ、ヤマツツジ、など林内の環境でも育つ低木を植栽し、花を楽しめるようにする。

工費

- ・約九十万円

ホームカミングデー再開のご案内

母校創立百周年を記念して二〇一六年度から始めたホームカミングデーですが、二〇二〇年度以降新型コロナウイルス感染症拡大で中止を余儀なくされてきました。

しかし状況も回復しつつありますので今年度は開催することと致します。皆様お誘い合わせの上ぜひご参加ください！

- ・日時 二〇二三年十月中旬予定
- ・開始 一四時
- ・場所 母校
- ・催し物 校舎内見学、百周年記念庭園見学、記念講演 ほか
- ・入場 無料、ただし事前の申し込みが必要
- ・開催 開催の最終案内は九月末までに同窓会のホームページに掲載しますので、申込方法などご参照下さい。

またホームカミングデー終了後、新宿二ーレベニールにおいて、懇親会を開催します。会費は三千円です。どうぞお立ち寄りください。

申し込み要領は九月末までに同窓会のホームページに掲載します。
なお状況によっては開催を中止することもありますので、その際は直ちにホームページでお知らせいたします。



百周年記念美術展のご案内

既にご案内の百周年記念音楽祭（募金趣意書参照）に加え、母校創立百周年を記念して記念美術展の開催を企画します。同窓生からの出展を募集しますので、奮ってご参加ください！また、皆様お誘い合わせの上ぜひご覧ください！

- ・日時 二〇二四年二月（一週間）
日時詳細は追ってホームページなどでお知らせします。
- ・場所 新宿区立区民ギャラリー（新宿区西新宿2-11-4 新宿中央公園内 エコギャラリー新宿一階）
- ・展示 絵画、彫刻、工芸
- ・入場 無料
- ・主催 朝陽同窓会

・賛助 OB・OG、及び同好者の集まり）
0の会（新宿高校美術部）

記念美術展出展申込要領

- ・朝陽同窓会員なら誰でも出展できます。ただし、受付は先着順五十名まで。
- ・出展可能作品サイズは、平面作品は50号以下、立体作品は小・中型で搬入や展示が容易なもの
- ・二〇二三年八月末までに左記申込み記載事項を記したメールまたはファックスにて朝陽同窓会事務局宛にお申し込み下さい。電話による申し込みはご遠慮下さい。
- ・参加費は無料ですが、搬出入に係わる費用は自己負担でお願いします。
- ・搬出入は出展者、もしくは代理者が直接来場して行って頂きます。
- ・申込された方には会場の日時が決まり次第、朝陽同窓会から確認の葉書を送付します。
- ・申込み記載事項
 - +氏名
 - +振り仮名
 - +卒業回
 - +郵便番号・住所
 - +連絡先電話番号
 - +作品ジャンル（絵画・彫刻・工芸）

同窓会員名刺広告

医療法人社団恵比寿会 淳クリニック

・内科（呼吸器内科・消化器内科・気管食道内科）
・小児科・放射線科

理事長 院長 内藤 淳 (28回)

〒150-0021

東京都渋谷区恵比寿西1-14-2 ツムラビル2F

TEL・FAX：03-5489-0463

<https://www.ebisukai.server-shared.com>

ジユク！ファースト！！

高橋法律事務所

弁護士 木村 眞一 (16回)

〒160-0017

新宿区左門町13-1 四谷弁護士ビル303

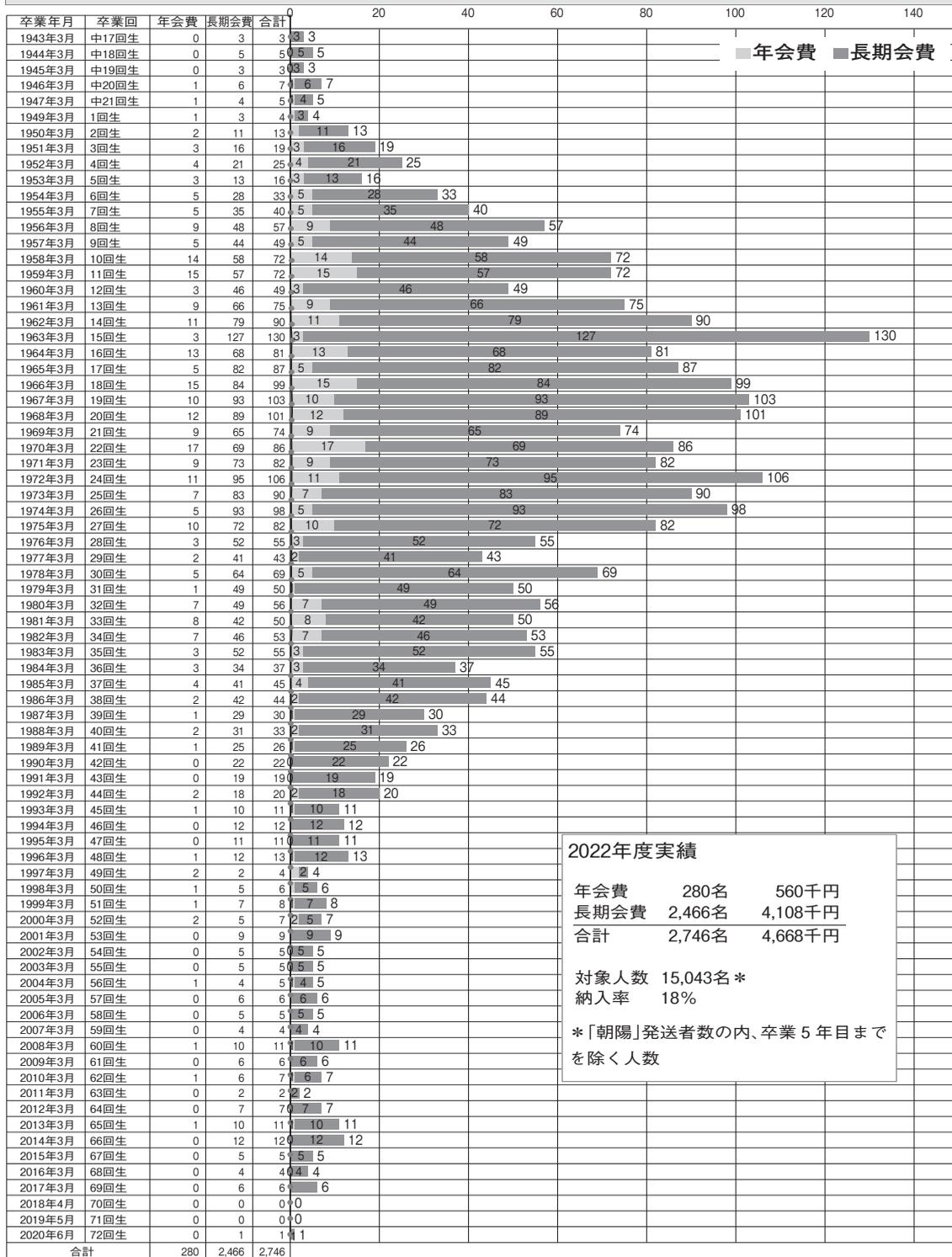
電話：03-6457-4356, FAX：03-6457-4734

Email: s-kimura@abox3.so-net.ne.jp

卒業年次別会費納入状況 — 会費納入にご協力をお願いします —

同窓会活動は皆様からの会費が唯一の収入源です。同窓会報「朝陽」の発行、母校支援など、同窓会活動はすべて皆様からの会費で運営しています。2022年度の会費納入状況は下表の通り18%の低率にとどまっております、このままでは今後の運営に支障が出かねません。年会費は2,000円、長期会費は10,000円（6年間）です。同窓会維持・発展のために、一層のご協力をお願いします。

会費卒業年次別納入者分布表2,746名（内、長期2,466名）2022年度



令和5年度朝陽同窓会総会議案

令和5年度の同窓会総会は、母校に集まって行う対面開催と、ここ数年行っております書面開催の2本立て・同時開催とします。

それぞれの形式での、議案に対する賛否表明は以下のように行ってください。

- 対面の場合：開催日当日会場での「記名投票」
- 書面の場合：本誌75ページの賛否表名用紙を郵送あるいはFAX、同窓会HPからの賛否表名のいずれかの方法で行えます。

－FAX宛先：050-3730-0138

－郵送宛先：160-0015 新宿区内藤町11-4

都立新宿高等学校内朝陽同窓会

－HPから賛否表名を行う場合は右のQRコードから同窓会HPを開いてください。



*議案の採決は、それぞれの案件につき、有効投票数の2/3以上の賛成で可決とします。なお、記名なき投票は無効です。

議案1 役員人事（以下敬称略）

*役員は2年毎改選であり、今年は改選年ではありません。

*下記の役員の退任に伴い、会長と副会長の信任をお諮りするものです。（他の役員は全員留任です。）

*退任の青柳会長と西出副会長は顧問に就任予定。

- 退任 会長：青柳 正規 S15、
副会長：西出 紀久 S15、渡辺 信久 S34
- 新任 会長：三上 彩子 S18、
副会長：小田島 肇 S38（宮城朝陽会、支部朝陽会から選出）

朝陽同窓会長候補 三上 彩子（現姓 伊藤）略歴

S41年3月 新宿高校卒（新18回）

S46年3月 お茶の水女子大学卒

S46年4月 フジテレビ入社

『小川宏ショー』『旅に出よう』

『お出かけ情報』『ビジョン討論会』

『スター千一夜』他

S54年4月フリーになる

TBS『日本列島8時です』

FM東京『音楽のさざ波』

日本テレビ『謎のカーテン』

テレビ朝日『ニコニコ訪問』

フジテレビ『おはよう社長さん』

NHK『婦人百科』

テレビ東京『ご存知ですか奥様』

『情報カレンダー』その他

政府機関有識者会議委員など



東京国際大学講師

コミュニケーション、自己表現、話し方指導者 40年の指導歴

◎朝日カルチャースクール講師

◎フジテレビ『アナトレ』新人アナウンサー
内定者研修講師

企業中心に指導、講演など

フジテレビ旧友会副会長

議案 2 2022年度事業実績と決算

◎100周年記念募金	* 3月末現況		
• 100周年記念募金	8,617万円	目標	10,000万円
• 館山寮再建募金	4,056万円	目標	5,000万円
* 継続の可否			
• 100周年記念募金	記念音楽祭等が2023年度開催となったため1年延長		
• 館山寮再建募金	寮が再建出来たので2023年3月末で終了		
◎朝陽奨学金	給付実績	40万円	2022年度応募4名分
◎記念式典(学校主催)	10月23日(日)朝陽同窓会役員代表幹事60名参加		
◎朝陽祝賀会	8月中止決定 コロナ感染拡大による		
◎記念音楽祭			
* 合唱中心	2023年9月24日開催決定		
* 会場	中野 ZERO ホールを予約し、29万円支出済		
◎100年誌	「通史」と「100年誌」の2分冊		
* 「通史」			
• 編集	学校が編集し、朝陽同窓会も協力		
• 題名	「百年の歩み」		
• 内容	府立六中創立以来100年の通史		
• 発行	3月に完成し、卒業式で在校生と卒業生に配布済		
* 「100年誌」			
• 編集	朝陽同窓会が編集		
• 題名	「木々の翠を見やりつゝ」		
• 内容	恩師や卒業生の寄稿、及び座談会で構成		
• 近況	恩師・卒業生の寄稿ほか最終原稿の校正中		
• 発行	2023年5月末予定		
◎記念名簿			
* 編集・販売	(株)サラトに委嘱		
* 会員データ締切	2022年11月末終了		
* 購入	同窓会員から直接サラトへ申込、2022年11月締切		
* 発行	2023年3月末に完成		
◎一般活動			
* 「朝陽」発行	71号		6月
* 「趣意書」発行	100周年記念募金応募、応募者名記載		6月
* 総会開催	書面開催		6月
* 支部朝陽会開催	USA、北海道支部が実施		
* 朝陽祭開催	生徒のみで実施		
* 校歌祭開催	中止		
* 新宿戸山ゴルフ交流戦開催	11月11日 日本カントリークラブで実施		
* ホームカミングデー開催	中止		
* キャリアガイダンス開催	母校主催	在校生対象	2月
	同窓会主催	OBOG対象	3月

◎決算： 詳細は次ページ決算案を参照ください。

表1 2022年度決算案
2022年4月1日より2023年3月31日まで

△印は予算に対して実績が少なかったことを示す 単位：円

勘定科目	予算	実績	差異	差異理由(予算→実績)
●一般活動				
<収益の部>				
入会金	4,100,000	4,095,000	△ 5,000	
年会費	986,000	560,000	△ 426,000	493名 ⇒ 280名
長期会費	4,541,000	3,618,070	△ 922,930	2725名 ⇒ 2172名
寄付金	50,000	6,000	△ 44,000	
朝陽広告料収入	400,000	442,000	42,000	
預金受取利息他	2,000	5,138	3,138	
財団受託手数料	360,000	360,000	0	
収益小計	10,439,000	9,086,208	△ 1,352,792	
<費用の部>				
事務局手当	3,658,000	3,745,300	87,300	
通勤交通費	249,000	277,572	28,572	
会議費	30,000	24,300	△ 5,700	
通信費	418,000	285,000	△ 133,000	同窓会行事中止による未使用
光熱費	180,000	257,618	77,618	
消耗品費	781,000	574,949	△ 206,051	事務局サーバーメンテナンス次年度以降に繰り延べ
記念品・慶弔費	100,000	30,000	△ 70,000	
銀行郵貯手数料	260,000	130,385	△ 129,615	会費、募金入金手数料が少なかった
取扱手数料	200,000	156,374	△ 43,626	
減価償却費	138,820	138,820	0	
出張旅費	0	0	0	
名簿印刷発行費	127,050	127,050	0	
朝陽発行費	1,952,000	1,682,945	△ 269,055	発送用封筒作成費減
総会費	0	50,000	50,000	
支部助成金	120,000	30,000	△ 90,000	
校歌祭費用	60,000	0	△ 60,000	
朝陽クラブ運営費用	0	0	0	
活動助成金	60,000	0	△ 60,000	
母校支援費	490,000	447,396	△ 42,604	
予備費	500,000	0	△ 500,000	未使用
費用小計	9,323,870	7,957,709	△ 1,366,161	
一般活動収支	1,115,130	1,128,499	13,369	
●100周年記念事業				
<収益の部>				
100周年記念募金	18,536,368	4,703,500	△ 13,832,868	当初予想に届かず
館山寮再建募金	15,575,917	6,145,800	△ 9,430,117	〃
収益小計	34,112,285	10,849,300	△ 23,262,985	
<費用の部>				
朝陽奨学金	16,500,000	15,400,000	△ 1,100,000	就学援助金の申請がなかった
館山寮再建引当金	15,575,917	6,145,800	△ 9,430,117	当初予想に届かず
記念式典賛助費	200,000	71,500	△ 128,500	
記念祝賀会開催費	4,000,000	1,082	△ 3,998,918	開催を中止した
記念音楽会	2,600,000	291,700	△ 2,308,300	会場使用予約料のみ発生
記念ロゴ	238,000	0	△ 238,000	使用しなかった
100年誌	8,430,000	4,685,816	△ 3,744,184	100周年通史発行費用
銘板作成	300,000	0	△ 300,000	次年度以降に実施を繰り延べ
朝陽合唱団	30,000	30,000	0	
募金趣意書等	1,418,500	1,489,500	71,000	
費用小計	49,292,417	28,115,398	△ 21,177,019	
100周年記念事業収支	△ 15,180,132	△ 17,266,098	△ 2,085,966	
当期経常増減額	△ 14,065,002	△ 16,137,599	△ 2,072,597	

財産目録

2023年3月31日現在

(単位: 円)

科目	金額	科目	金額
<資産の部>		<負債の部>	
現金	35,116	源泉徴収所得税預かり	36,933
(募金等引当預金)		予納会費-76、77回生	3,435,000
定期預金	30,000,000	預り金-館山寮再建募金	2,514,300
定額貯金	13,000,000	朝陽奨学金引当金	15,000,000
(その他預金)		長期会費未経過分引当金	12,311,740
普通預金	3,493,580	計	33,297,973
郵便貯金	20,489,974	<繰越金>	
未収入金	2,281,361	100周年記念募金繰越金	25,499,529
器具備品	161,957	一般繰越金	10,664,486
		計	36,164,015
合計	69,461,988	合計	69,461,988

(註) 100周年記念募金繰越金

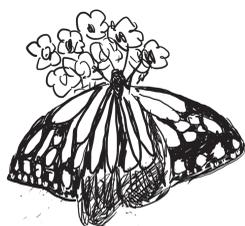
剰余金処分案		2015年度	17,341,200
1.前年度繰越金	52,301,614	2016年度	11,853,673
当期経常増減額	△ 16,137,599	2017年度	16,357,407
計	36,164,015	2018年度	9,850,442
		2019年度	12,010,910
2.これを次の通り処分します		2020年度	4,701,000
次期繰越金	36,164,015	2021年度	9,349,000
		2022年度	4,703,500
		募金累計	86,167,132
		奨学金	△ 22,100,000
		館山寮改修費用	△ 16,500,000
		集いの場費用	△ 5,641,363
		記念誌(通史)作成	△ 4,685,816
		その他記念事業費	△ 11,740,424
		支出累計	△ 60,667,603
		差引繰越金	25,499,529

会計監査報告

2022年度朝陽同窓会の会計監査を行いましたところ、会計帳簿及び証憑書類との照合結果については、いずれも一致していることを確認いたしました。

2023年4月20日

監事 中越一統・廣田勝彦



議案 3 2023年度事業計画と予算

- ◎100周年記念募金 累計1億円達成を目標に2024年3月まで募金継続
- ◎新規基金検討開始
 - * 発足 2024年4月から
 - * 目的 在校生に対する心を込めた永続的な応援実施
 - * 名称 目的に相応しい名前を考案
 - * 事業 奨学金給付、館山寮・臨海教室支援、部活動援助、留学支援、キャリアガイダンス実施、進路部通信合冊作成援助、図書購入補助、など
 - * 基金 奨学金給付用に積み上げた1,500万円を原資とする
 - * 募金 趣旨に賛同する会員からの寄付を継続的に募る
 - * 趣意書 役員会で検討し、提案
- ◎朝陽奨学金 従来通り給付型 150万円 15名分を予算計上
- ◎記念音楽祭 合唱中心
 - ・日時 2023年9月24日(日)
 - ・会場 中野 ZERO ホール
 - ・主催 朝陽同窓会
 - ・出演 朝陽合唱団、六声会、管弦 OBOG 会、現役音楽部
 - ・入場無料 在校生、保護者にも来場を要請
- ◎記念美術展
 - ・出展 絵画、彫刻、工芸
 - ・開催 2024年2月開催を目標に
- ◎100年誌
 - * 「通史」
 - ・発行 作成済
 - ・印刷部数 3,000部 内1,270部は新卒業生や現役生に配布
 - * 「100年誌」
 - ・発行 6月
 - ・印刷部数 1,800部 内400部は寄稿者や多額募金者に配布
(多額募金者：記念募金と館山寮再建募金の合計が10万円以上)
 - * 販売 同窓会員対象 「通史」と「100年誌」合わせてセットで4千円
- ◎記念名簿
 - * 送付 購入申込者に4月から発送開始
 - * 還付 賛助金と広告収入について一部同窓会に還元
 - * 追加販売 多少の残部を事務局から会員に直接販売
- ◎館山寮冷房設置支援
 - * 環境の変化 気候の温暖化による夜間温度の上昇(8月は真夜中でも30度を超過)
 - * 危険の防止 熱中症による事故防止、防犯対策(夜間女子棟の窓の閉め切り)対応
 - * 冷房費用 600万円
 - * 財団の運転資金状況 現在手持が300万程度あるが、館山寮の使用料金の入金が9月以降となるので運転資金として留保
 - * 財団への支援 今年度財団法人に対し600万円を限度に貸出
毎年100万円朝陽同窓会に対し返済

◎記念庭園設置

- ・趣旨 母校100年の歴史に想いをはせ、また、憩いの場ともなる小規模庭園を設置
- ・工費 約90万円を100周年記念募金より支出

◎一般活動

- *「朝陽」発行 72号 6月
- *「趣意書」発行 100周年記念募金応募、応募者名記載 6月
- *総会開催 7月1日(土)対面開催、書面投票併用
- *支部朝陽会開催 通年
- *朝陽祭開催 9月2日(土)、3日(日)
- *校歌祭開催 国立オリンピック記念青少年センター 12月3日(日)
- *新宿戸山ゴルフ交流戦開催 日本カントリークラブ 11月14日(火)
- *ホームカミングデー開催 10月
- *キャリアガイダンス開催 母校主催 在校生対象 2月
同窓会主催 OBOG対象 年1～2回開催
- *事務局内インフラの更新 通年

プリンターの更新、PCやネットワークの更新、オンライン会議設備の補強、
名簿や会計システムの汎用アプリへの取り換え

◎予算 詳細は次ページ表2 予算案を参照ください。

お客様の笑顔のために、
私たちはこれからも挑戦を続けます。



KEIO PLAZA HOTEL TOKYO

京王プラザホテル 〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1
TEL.(03)3344-0111 www.keioplaza.co.jp



表2 2023年度予算案
2023年4月1日より2024年3月31日まで

△印は実績に対して予算が少なくなったことを示す 単位: 円

勘定科目	前年実績	予算	差異	差異理由(実績→予算)
●一般活動				
＜収益の部＞				
入会金	4,095,000	3,390,000	△ 705,000	273人→226人
年会費	560,000	616,000	56,000	前年度実績の10%増
長期会費	3,618,070	3,980,000	361,930	前年度実績の10%増
寄付金	6,000	100,000	94,000	
朝陽広告料収入	442,000	442,000	0	
名簿発行賛助金還元	0	2,209,000	2,209,000	名簿業者(サラト)から賛助金還元
預金受取利息他	5,138	1,200	△ 3,938	
財団事務受託収入	360,000	360,000	0	
収益小計	9,086,208	11,098,200	2,011,992	
＜費用の部＞				
事務局手当	3,745,300	3,810,000	64,700	
通勤交通費	277,572	288,000	10,428	
会議費	24,300	60,000	35,700	
通信費	285,000	211,500	△ 73,500	
光熱費	257,618	260,000	2,382	
消耗品費	574,949	476,000	△ 98,949	
記念品・慶弔費	30,000	90,000	60,000	
銀行郵貯手数料	130,385	130,600	215	
取扱手数料	156,374	156,000	△ 374	
減価償却費	138,820	566,872	428,052	事務局ITシステム老朽化更新
出張旅費	0	30,000	30,000	
名簿印刷発行費	127,050	130,000	2,950	
朝陽発行費	1,682,945	4,011,450	2,328,505	前年発送費は名簿業者(サラト)の負担
総会費	50,000	330,000	280,000	
支部助成金	30,000	210,000	180,000	活動再開する支部に対して
校歌祭費用	0	60,000	60,000	
朝陽祭参加費	0	30,000	30,000	
活動助成金	0	100,000	100,000	
母校支援費	447,396	215,000	△ 232,396	前年度進路部通信合冊本印刷
予備費	0	500,000	500,000	
費用小計	7,957,709	11,665,422	3,707,713	
一般活動収支	1,128,499	△ 567,222	△ 1,695,721	
●100周年記念事業				
＜収益の部＞				
100周年記念募金	4,703,500	13,832,868	9,129,368	累計1億円達成目標
100年誌売上	0	5,320,000	5,320,000	100年誌販売
収益小計	4,703,500	19,152,868	14,449,368	
＜費用の部＞				
朝陽奨学金	15,400,000	0	△ 15,400,000	前年度10年分積立て済
記念式典、祝賀会	72,582	0	△ 72,582	
記念音楽会	291,700	1,006,350	714,650	9月24日開催予定
100年誌	4,685,816	6,375,600	1,689,784	100周年誌発送費
記念庭園	0	900,000	900,000	校庭中庭に100周年を記念して設置
記念美術展	0	720,000	720,000	卒業生による美術展開催
銘板作成	0	300,000	300,000	前年度から繰越
朝陽合唱団	30,000	30,000	0	
趣意書発行費等	1,489,500	1,178,000	△ 311,500	通信費等の減
費用小計	21,969,598	10,509,950	△ 11,459,648	
100周年記念事業収支	△ 17,266,098	8,642,918	25,909,016	
当期経常増減額	△ 16,137,599	8,075,696	24,213,295	

表3 100周年年度記念事業
資金収支計画

(単位：万円)

項目	累計	実績	予算	合計
	2015～21年度	2022年度	2023年度	
朝陽同窓会				
収入				
100周年記念募金	8,146	471	1,383	10,000
100周年誌売上			532	532
収入計	8,146	471	1,915	10,532
支出				
奨学金給付額	670	1,540	引当済	2,210
記念祝賀会 中止				0
記念式典		7		7
記念音楽会		29	101	130
記念誌	30	469	638	1,137
記念庭園			90	90
記念美術展			72	72
その他記念事業	713	74	62	849
事務費用等	243	78	58	379
館山寮維持管理	1,650			1,650
集いの場	564			564
銘板作成			30	30
支出計	3,870	2,197	1,051	7,118
差引	4,276	△ 1,726	864	3,414

財団法人朝陽会				
収入				
100周年記念募金から	1,650			1,650
館山寮再建募金	3,442	614		4,056
保険金	8,660			8,660
収入計	13,752	614	0	14,366
支出				
厨房・食堂改造	1,650			1,650
再建第一期工事	1,600			1,600
再建第二期工事	3,880	7,308		11,188
支出計	7,130	7,308	0	14,438
差引	6,622	△ 6,694	0	△ 72

一般財団法人東京都立新宿高等学校朝陽会財務諸表

朝陽会は、館山寮と旧水上寮を所有し運営管理を行っています。朝陽同窓会とは別組織で理事会、評議員会で構成されていて、同窓会員、教職員、PTA役員が理事、評議員を務めています。多数の同窓会員からご寄付を頂き、2022年度には館山寮を無事再建することができ、コロナで中断した臨海教室も再開しました。

令和4年度 貸借対照表総括表(速報)

令和5年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産(現金、預金)合計	3,422,758	6,543,638	△ 3,120,880
2. 固定資産			
(1) 基本財産(土地、建物)合計	192,032,301	128,965,898	63,066,403
(2) 特定資産(館山寮再建等引当金)合計	2,514,300	66,611,153	△ 64,096,853
固定資産合計	194,546,601	195,577,051	△ 1,030,450
資産合計	197,969,359	202,120,689	△ 4,151,330
II 負債の部			
1. 流動負債(前受金、未払金)合計	5,986,361	6,004,179	△ 17,818
負債合計	5,986,361	6,004,179	△ 17,818
III 正味財産			
1. 一般正味財産	189,468,698	161,692,427	27,776,271
2. 指定正味財産	2,514,300	34,424,083	△ 31,909,783
正味財産合計	191,982,998	196,116,510	△ 4,133,512
負債および正味財産合計	197,969,359	202,120,689	△ 4,151,330

令和4年度 正味財産増減計算書総括表(速報)

自:令和4年4月1日 至:令和5年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
賛助会員受取会費	3,645,000	3,735,000	△ 90,000
館山寮運営事業収益他	3,989,295	63,629	3,925,666
経常収益合計	7,634,295	3,798,629	3,835,666
減価償却費	8,817,257	3,788,349	5,028,908
委託費	2,971,573	545,400	2,426,173
保険、賃借料	1,205,794	325,730	880,064
消耗品費、什器備品費	1,433,019	88,378	1,344,641
修繕費	972,564	0	972,564
管理人給与	500,000	500,000	0
光熱水、燃料費	973,704	596,615	377,089
その他費用	974,696	287,986	686,710
経常費用合計	17,848,607	6,132,458	11,716,149
当期経常増減額	△ 10,214,312	△ 2,333,829	△ 7,880,483
当期経常外増減額	0	△ 233,176	233,176
当期一般正味財産増減額	△ 10,214,312	△ 2,567,005	△ 7,647,307
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
一般正味財産期首残高	161,692,427	164,329,432	△ 2,637,005
一般正味財産期末残高	189,468,698	161,692,427	27,776,271
II 指定正味財産増減の部			
指定正味財産期首残高	34,424,083	27,392,083	7,032,000
指定正味財産期末残高	2,514,300	34,424,083	△ 31,909,783
III 正味財産期末残高	191,982,998	196,116,510	△ 4,133,512

Fax to : 050-3730-0138

令和5年度朝陽同窓会書面開催総会 審議議案 賛否表明用紙

議案1 : 役員人事

賛成します 反対します (いずれかに✓を入れてください)

ご意見 : _____

議案2 : 2022年度事業活動報告と決算案

賛成します 反対します (いずれかに✓を入れてください)

ご意見 : _____

議案3 : 2023年度事業計画と予算案と資金収支計画

賛成します 反対します (いずれかに✓を入れてください)

ご意見 : _____

- 各議案ともご意見欄への記入は任意です。
- 記入いただいたご意見は、賛否の選択に影響しません。会員の貴重なご意見として今後の同窓会運営の参考とさせていただきます。

お名前 : _____ ふりがな : _____

卒回または卒年 : _____ (卒年は年度でなく卒業暦年)

記名無き賛否意見表明は無効ですので、必ずご記入ください。

賛否ご意見を郵送の場合は、この用紙を封筒に入れ同窓会宛て郵送ください。

切り取り線

このページは賛否表明用紙を切り取り F A Xした場合に、
裏面からの映り込みを防止するため空白にしております。

戸 山 対 抗 戦

	第 13 回ゴルフ交流戦	ブリッジ交流戦	囲碁交流戦
日時	2022 年 11 月 11 日 (金)	コロナのため取り止め	今後開催しないことが決まっています
場所	日本カントリークラブ (埼玉県入間郡越生町)	—	—
参加者数	34 名 内、新宿 16 名	—	—
勝敗	負け (0.6P 差 /Net) 通算 1 勝 12 敗	これまで通算新宿の 5 勝 4 敗	これまで通算新宿の 3 勝 3 敗 4 分け

ゴ ル フ 交 流 戦

第十三回新宿・戸山高校同窓会交流ゴルフ大会は、昨年に続き埼玉県越生町の日本カントリークラブで行われました。

気持ちの良い快晴で気温もまずまずの中、五回生(戸山高校)から二七回生迄の合計三四名の方々が集まりました。

優勝、二位は戸山高校に取られましたが、三位は新宿高校の金杉一朗さん(26)、ベストロ賞は新宿高校の山崎勝也さん(27)でした。

上位十名のNETスコアによる団体戦は、僅か〇・六打差で惜しくも敗れ連敗をストップさせることはできませんで、これで対戦成績は一勝十二敗ということになりました。

今年は新宿高校が幹事で、十一月十四日(火)同じ日本カントリークラブで行う予定です。コロナ感染症拡大次第ですが、プレイ後に懇親パーティーを三年ぶりに開催するつもりです。

皆様奮ってご参加ください。

(幹事 寺澤 忠興22)



戸田 洋一 先生（享年八五）

令和四年四月四日 ご逝去

教科・保健体育

在籍・昭和四八年四月

（平成九年三月

（二四年）



文武両道

安藤 宏（二九回）

戸田洋一先生には入学から卒業まで担任をして頂いた。クラス替えも一度あったが、三年間担任をして頂いたというのは、やはりご縁が深かったのだと思う。当時、先生は母校の新宿高校に赴任されて二年目。よくご自身の在校中の思い出話などとして下さった。在学中、水泳部と柔道部の両方に所属し（どちらが「本籍」であったのかはナゾである）、その日焼けした精悍な顔立ちからもわかるように、当時から名うてのスポーツ青年でいらしたようである。

私にとって、先生は今でも新宿高校

の「文武両道」スピリットの象徴である。先生の在学中、新宿高校は日本有数の進学校で、「自分のように勉強が苦手で、スポーツしかなかったような人間でも国立大学に入り、こうして今、教員をしているのだから」とよくおっしゃっていた。のちに文学を専攻することになる「文弱」な生徒にとって、実際、こうしたご発言は脅威以外の何物でもない。六中時代から軍事教練が盛んだった、という話を仄聞したことがあるが、在学中も臨海学校の遠泳、多摩湖一周マラソンなど、とにかく学校は体育に力を入れていて、それについていくのに四苦八苦していたのである。ただでさえ学校群制度のおおりで学力や進学成績の「凋落」が叫ばれていたわけだから、先生にそのおつもりはなくても、私のような生徒が常に叱られ続けているような気がしたのにはやむを得ないだろう。もちろん先生は、そのような生徒にもちゃんと居場所を作ってくださり、大変優しく接して下さった。具体的に圧迫を感じるようなことは何一つなかったが、それで

もやはり、自分は本来あるべき「文武両道」から外れたアウトサイダーなのだ、という妙な劣等感から、三年間、抜けきることができなかったのである。晩年、同窓会でお目にかかってご挨拶したところ、先生は私のことをまったく覚えておられなかった。遠くを見るように私の顔をご覧になっているお姿を拝見し、私は、これでよいのだ、としみじみ思った。私は先生とは究極的に成り立ちの異なる気弱な一生徒であり、先生もまた、いかにも先生らしく、他者として私に対して下さったのである。この潔さこそが実は「文武両道」スピリットにほかならない。人と人との出会いは実にさまざま。相手に強い影響を与えてももう片方はそれをまったく意識していないこともある。教師は、それでよいのだ、と私自身、一人の教員として妙に納得してしまった。戸田先生は今でも自分にとって、輝ける「文武両道」の象徴であり、コンプレックスをバネにすべき一極北として、輝き続けているのである。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



大西 安 先生

令和四年三月二五日 ご逝去

教科：数学

在籍：昭和三五年九月

（昭和五三年四月

（二八年）



大西先生の思い出

（メールのやり取りで思い出を語り合いました。実際は敬語を使っていますが、字数節約のため敬語抜きです。ごめんなさい。）

先生はいつも静かで穏やかだった。叱られた人、いるのかな？「ビートルズを観に行くからと早退を申し出たA君とか、ACB（アシベ）（ジャズ喫茶）に行ったのを見つかった、不運なBさんとか」あの頃の大人はそういうことに眉をひそめていたからね。

印象深いことは？「父の転勤で下宿生活、風邪で寝込んでいたら先生が下宿まで来てくれて、涙が出そうだった」へえー、そんなことまで。先生との思い出は個人面談。「戸山戦で運動部を引退した後、『運動を急にやめると体調を崩すことがあるから気を付け

るように』と。勉強しろと言われると思っていたのに「受験指導は発破をかけるタイプではなく、高望みも否定せず、後押ししてくれた。「自分は考えもしなかった家計の心配までしてもらったよ」いろいろな面で未熟だった私達だけど先生は一人の人間として尊重してくれた。「週刊日誌に『人生に意味なんてあるのかなあ』と書いたら『人生にア・プリアオリな意味などない。意味は自分で作るものだ』との返答」新宿生としての矜持を求められたとは思。文化祭のテーマが「お化け屋敷」になったら「恥ずかしいことをしてくれるな」と言われて、もっともらしいテーマにしたじゃない？「世界のお化け研究」とか。

「先生を一番困らせたのは脱走事件だね。きっかけは第二グラウンドと御苑の間の塀の穴から御苑にタダで入るといふ、ちょっととした冒険だったんだけど、話しているうちに現国の授業方法への批判になって、五限が始まっても教室に戻らなかつた。男子の半数以上がいなかったんだからN先生は激怒、教官室に戻ってしまった。六限は大西先生の数学だったけど話し合いになったね。深刻な表情の沈黙は怒鳴りつけ



2012年クラス会 目黒・アントミミにて

られるよりも怖かった。でも話し合う中でそれまで口に出す機会のなかった思いを吐き出して、普段はみんなの前で発言しない人も次々立って発言して。クラスに一体感が生まれていい時間だったね。先生は私たちに考える時間を与えてくれたんだね。大きく暖かく見守られていたこと、今になって気が付くね」

一同「先生、有難うございました。どうぞ、やすらかに」

（文責 二十回三年E組 坪内園子）



恩師計報

三浦 勝江 先生(現姓 小林)
 ご逝去…令和四年四月二八日
 教科…保健体育
 在籍期間…昭和二六年五月
) 昭和三十一年一月
 (五年)

三浦 弓杖先生
 ご逝去…令和四年十一月十二日
 享年…八八
 教科…保健体育
 在籍期間…昭和三十一年四月
) 昭和三五年三月
 (四年)



朝陽同窓会ソーシャルメディアのご案内

1. 同窓会 HP (ホームページ)
 同窓会のイベント、母校行事、などについてお知らせしております。
 同期会の告知などにもご利用ください。
2. 同窓会 FB (フェイスブック)・Line
 同窓会FB・Lineの友達になってください。
 同窓会からニュースを push でお知らせします。
 FB には、皆様が直接書き込めます。
 同期会の連絡などにご利用ください。



同窓会 HP



同窓会への連絡



同窓会 FB



同窓会 Line

編集後記

今年も新型コロナウイルス禍により多くの同窓会活動が行えず、会員の皆様はご不便をおかけしました。

今号では、より皆様に楽しんで頂ける読み物にすべく、随筆記事を大幅に増強しました。今後とも、皆様に読み応えのある記事を提供することを心がけてまいります。

引き続き、同窓会活動へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(朝陽編集委員長 一八回 林 慶治郎)

東京都立新宿高等学校朝陽同窓会
 同窓会会報 朝陽 72号

発行日：2023年6月1日
 発行人：東京都新宿区内藤町11番4
 東京都立新宿高校内
 朝陽同窓会長 青柳 正規

非売品

本誌内容(写真、文章)の無断転用転載は
 お断りいたします。



2022年6月訪問

家庭科教室で将来の夢を話してくれた子どもたち



2022年11月訪問

コーヒーの実の生育状態を生産者と確認



2023年2月訪問

社会開発資金*によって建設された小学校校舎



2022年10月訪問

女性生産者による訪問歓迎のスピーチ



生産者の声と意思を受け取るために —— 産地への訪問を再開 ——

ゼンショーのフェアトレードでは、担当者が定期的に現地を訪問し、生産状況や安全性、品質などを確認するとともに現地が抱える問題を調査。その中で顔を合わせた対話を大切にすることで、より深い信頼関係を築き協力の輪を拡げ、生産者の経済的自立と地域社会の発展を支える活動に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大したことから、産地への訪問ができなくなり、その間は電子メールなどにより現地の声を聞く状況が続いていましたが、行動規制が緩和されたことを受け、約3年ぶりとなる産地訪問を再開しました。

ルワンダ共和国 2022年6月訪問

家庭科授業の成果発表会に参加。7つの小学校から集まった子どもたちのいきいきとした姿に現地社会の持続的な成長への期待が膨らみました。

コンゴ民主共和国 2022年10月訪問

今回、初入国。エネルギッシュな女性コーヒー生産者に迎えられフェアトレードの可能性を再認識。

ペルー共和国 2022年11月訪問

2017年から始めた家庭菜園プロジェクトが浸透し食料自給に役立っています。

エクアドル共和国 2023年2月訪問

社会開発資金*が活用された小学校を訪問。生産者が自分の子どもに学校の成り立ちを説明している姿に組みの意義を再確認しました。

今後も、生産者や現地に暮らす人々と直接対話による信頼関係を築き繋いでいくため、産地の状況を確認しながら訪問を順次再開していきます。

*社会開発資金…原料買取価格の中で現地の人々が必要とする様々な生活改善活動に充てられる金額のこと

ゼンショーフェアトレードの活動から、フェアトレード専門ブランド「THINK EARTH COFFEE」が誕生しました。



首都圏の一部スーパーや、公式サイトでご購入いただけます。



公式サイト thinkearthcoffee.com

株式会社 ゼンショーホールディングス
代表取締役社長 小川 賢太郎 (19回卒)

〒108-0075 東京都港区港南 2-18-1 JR品川イーストビル Tel: 03-6833-1600

ZENSHO

◎2023年度朝陽同窓会総会開催のご案内

今年度の総会は、新型コロナウイルス感染状況も未だ予断を許さない状況下です
ので、以下のように対面・書面での二本立て・同時開催といたします。対面開催に
参加されない方は書面開催の方式で賛否表明を行ってください。対面開催に参加さ
れる方は当日記名投票により賛否表明を行っていただきます。

(1) 対面開催

日時：2023年7月1日（土）14：00～16：00

場所：新宿高等学校視聴覚教室（本校3F）

1. 総会本誌66～73ページに記載の議案審議
2. 記念講演講演者：塩崎恭久さん（22回）

*対面総会が中止となった場合、速やかにHPでお知らせします。その場合、対
面開催参加予定の方も書面開催方式での賛否表明を行ってください。

(2) 書面開催

総会にお諮りする議案は、本誌66～73ページに記載されています。内容をご検討
の上、本誌66ページのご案内に沿って賛否ご意見を表明ください。〆切は、6月30
日（金）です（郵送の場合必着）。

〈賛否表明について〉

- ・対面／書面いずれかの方法で賛否表明可能です。
- ・両方の方法で賛否表明なさった場合、対面での賛否を優先します。
- ・書面開催と対面開催の賛否表明を合算して最終結果とします。後日、同窓会ホー
ムページでもお知らせいたします。

◎懇親会のご案内

総会終了後に、場所を以下に移して懇親会を開催いたします。

日時：2023年7月1日（土）17：00～19：00

場所：レストランベニーレベニーレ

（新宿区新宿3-5-4 レインボービレッジ8F）

会費制：5000円（当日受付にてお支払い下さい）

人数：着席70名

事前申し込み：受付期間6月19日（月）10：00～6月23日（金）15：00まで
但し、定員になり次第締め切ります。

参加ご希望の方はFAXまたはHPから
同窓会事務局までお申込みください。

申込みは右のQRコードから
行ってください。

